

國債規則

第四十條 登録國債ニ付テ質權設定又ハ轉質ノ登録ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ及當事者雙方ノ連署捺印ヲ爲シタル書面ヲ取扱店ニ提出スヘシ

一、國債ノ種別及質權ノ目的ト爲シタル登録金額

二、登録ノ記號及番號又ハ證券ノ額面金額ノ種記類號及番號

三、登録ノ記名

四、債權ノ金額及其ノ辨濟期

五、質權ニ付利息ニ關スル定メアルトキ、違約金又ハ賠償額ノ定メアルトキ債權ニ條件ヲ附シタルトキ及民法第三百四十六條但書ノ定メアルトキハ其ノ事項

六、質權設定者カ債務者ニ非サルトキハ債務者ノ住所氏名

七、請求ノ年月日

八、請求者ノ住所

第二十二條 第一項ノ規定ハ質權ノ目的ト爲ス國債ノ登録金額ニ之ヲ準用ス

第四十一條 前條ノ規定ハ登録國債ニ關スル質權ノ登録ヲ變更シ又ハ抹消スル場合ニ之ヲ準用ス

第一號甲書式

入札書

何何工事 (何何物品)

一金何程也

右金額ヲ以テ請負(供給)可仕依テ入札人心得書承諾入札候也

明治 年 月 日

住所

氏

名印

第一號乙書式

封皮雛形

宛

表面

何何工事物品供給請負入札書

印
姓
名 印

第二號書式

入札保證金納付書

一金

但シ

入札保證金

右納付候也

明治 年 月 日

住 所

氏

名印

宛

請負人心得書

第一條 工事請負契約書ハ甲號書式物品供給契約書ハ乙號書式ニ依ル

第二條 請負人ハ本契約締結ノ日ヨリ五日以内ニ第一號書式ニ依リ工事又ハ物品内
譯明細書及工程表ヲ作り之ヲ契約擔任者ニ提出スヘシ

契約擔任者内譯書ノ單價又ハ工程表ヲ不相當ト認ムルトキハ請負總額ノ範圍内ニ
於テ單價ヲ増減シ又ハ工程ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第三條 契約擔任者ニ於テ仕様ノ變更ヲ要スルモノアルトキハ其ノ旨ヲ請負人ニ通
知スヘシ請負人ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ追加契約書又ハ承諾書ヲ差出
スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ前條ノ例ニ準シ内譯明細書及工程表ヲ提出スヘシ

第四條 契約保證金ヲ處分スヘキ場合ニ於テハ國債證券ヲ保證金トシテ納付シタル
請負人ハ契約擔任者ノ指定スル期間内ニ保證金額ノ現金ヲ納付スヘシ請負人指定
ノ期間内ニ現金ヲ納付セサルトキハ契約擔任者ニ於テ國債證券ヲ處分スヘシ

第五條 請負人ハ工事ノ施行及工場内ノ取締ニ付テハ總テ主任官吏ノ指揮監督ヲ受
クヘシ

第六條 請負人ハ工事施行又ハ物品製作中日日現場ニ出頭シ諸般ノ施設及取締上ノ

事項ヲ處理スヘシ

本人出場シ難キトキハ適當ノ代理人ヲ選定シテ之ヲ届出ツヘシ

第七條 主任官吏ニ於テ請負人ノ代理人其ノ他職工人夫ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ差替シムルコトアルヘシ

第八條 請負人ハ其ノ代理人其ノ他職工人夫ノ行爲ニ付一切ノ責ニ任スルモノトス

第九條 請負人官ノ材料ヲ使用スル場合ニ於テ之ヲ工場内一定ノ場所ニ取纏メ完全ニ保管シ精細ナル受拂簿ヲ設ケ其ノ受拂ヲ明確ニシ工事竣功後受拂計算書ヲ提出シ殘餘ノ材料ハ主任官吏ノ指揮ニ從ヒ之ヲ返納スヘシ

前項ノ受拂簿ハ主任官吏ニ於テ隨時檢閲ヲ行フ

第十條 工事請負人工場内ニ持入レタル材料ハ主任官吏ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ工場外ニ搬出スルコトヲ得ス不合格ノ材料ニ付亦同シ但シ此場合ニ於テハ代品ヲ持入レタルコトヲ要ス

第十一條 工事完成ノ上工所用ノ假設物剩餘ノ材料ハ主任官吏ノ指揮ニ從ヒ之ヲ撤去スヘシ

第十二條 請負人ハ天災其ノ他不可抗力ニ依リ工事ノ進行又ハ物品ノ納付ヲ妨ケラ

レタル場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ事故ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ添ヘテ延期願書ヲ提出シ契約擔任者ノ許可ヲ受クヘシ

甲號書式

工事請負契約書

何々工事

一金何程 請負金高

此ノ契約保證金 何 程

但シ(現金又ハ國債證券何圓券何枚又ハ明治何年何月何日第何號某金庫保管證書何通)

右工事請負ニ關シ契約擔任者某ヲ甲トシ請負人某ヲ乙トシ左ノ條項ヲ契約ス

第一條 乙ハ大正何年何月何日ヨリ起工シ何月何日迄ニ別冊仕様書及繪圖面ニ基キ工程表ニ從ヒ工事ヲ完成スヘシ但シ仕様書及繪圖面ニ明記セサル事項ト雖モ構造上必要ノ工事ハ總テ請負金額内ニ於テ施行スヘシ

第二條 乙ハ請負人心得書ノ各條項ヲ承認ス

第三條 乙ニ於テ起工スルトキハ其ノ旨ヲ甲ニ届出ツヘシ

第四條 工事ハ總テ乙ニ於テ直接ニ實施シ第三者ニ下請負ヲ爲サシメサルモノトス
第五條 工事ニ使用スル材料ハ總テ使用前甲ノ指定シタル主任官吏ノ検査ヲ受クヘシ

検査不合格ノ材料ハ速カニ代品ヲ持入レ更ニ其ノ検査ヲ受クヘシ

第六條 工事ニ使用スル材料中調合又ハ試験ヲ要スルモノハ甲ノ指定シタル主任官吏ノ立會ヲ得テ其ノ調合又ハ試験ヲ爲スヘシ

第七條 水中又ハ地下ニ埋没スル工作物其ノ他竣功後外部ヨリ検査スルコト能ハサル工作物ノ作業ハ甲カ指定シタル主任官吏ノ立會ナクシテ施行スルコトヲ得ス

第八條 乙ニ於テ第五條乃至前條ノ定ムルトコロニ違背シ又ハ設計書仕樣書繪圖面等ニ適合セスト認メタルトキハ甲ハ何時ニテモ工作物ノ引換又ハ改造ヲ命スルコトアルヘシ但シ契約期限ハ之ヲ延長セス

第九條 甲ハ必要ト認ムルトキハ工事ノ一部若ハ全部ノ施行ヲ中止シ又ハ設計若ハ仕樣ヲ變更スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ契約期限ヲ伸縮スルノ必要アルトキハ甲ニ於テ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ内譯書ノ單價ニ基キテ工費ヲ増減ス但シ内譯書記載外ニ屬ス

ルモノアルトキハ雙方協議ノ上之ヲ定ム若シ協議調ハサルトキハ甲ノ相當ト認ムル所ニ依ル

前二項ノ場合ニ於テ乙ハ異議ヲ申立テ又ハ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 前條ノ場合ニ於テ請負金額増減ノ爲既納ノ契約保證金額ニ過不足ヲ生スルトキハ甲ニ於テ追徴又ハ還付スルコトアルヘシ

第十一條 乙ニ於テ本契約ノ期限内ニ工事ヲ完成セサルトキハ遅延日數ニ應シ一日ニ付請負金總高(箇々ニ分立スヘキ性質ノ工事ニシテ各箇ノ請負金額明瞭ナルモノハ其ノ請負金高ニ據ル)ノ千分ノ五ニ相當スル遲滞償金ヲ納付スヘシ但シ天災其ノ他不可抗力ニ因リ契約擔任者ニ於テ延期ノ許可ヲ與ヘタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第十二條 工事ノ全部完成シタルトキハ竣工(第二號書式)ヲ差出シ検査ヲ受クヘシ一部完成ノ場合ニ於テ甲之カ引渡ヲ求メタルトキ亦同シ

前項検査ノ結果工作物カ設計書仕樣書繪圖面ニ適合セスト認ムルトキハ甲ハ相當ノ期間ヲ定メ修補又ハ改造ヲ命スルコトヲ得但シ第十一條ノ規定ノ適用ヲ妨クルコトナシ

工作物カ検査ニ合格シタルトキハ甲ハ乙ニ領收證ヲ交付ス領收證交付以前ニ於テ

生シタル總テノ損害ハ乙ノ負擔トス

第十三條 請負金ハ領收證ヲ交付シタル後乙ノ請求ニ因リ之ヲ仕拂フ但シ(一)回ヲ限リ其ノ既成部分ニ對スル請負代價ノ十分ノ九以內ヲ乙ノ請求ニ依リ内渡ヲ爲スコトアルヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ甲ハ契約ヲ解除スルコトヲ得

但第十一條ノ規定ノ適用ヲ妨クルコトナシ

一起工ノ期日ヨリ十日內工事ニ著手セサルトキ

二竣功期限ヨリ十日內ニ工事ヲ完成セサルトキ

三甲ニ於テ現場工事カ工程表ノ通り進捗セス又ハ工事ヲ粗略ニシテ完全ニ竣功スルノ見込ナシト認ムルトキ

四乙カ甲ノ指定シタル主任官吏ノ指揮命令ニ從ハサルトキ

五其ノ他契約ニ違背シタルトキ

六前各號ノ外甲ニ於テ必要ト認メタルトキ

契約ノ解除ニ付乙ハ異議ヲ申立テ又ハ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 前條第一項第一號乃至第五號ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テ

ハ契約保證金ハ政府ノ所得トス

第十六條 第十四條第一項ハ第一號乃至第五號ノ規定ニ依リ契約ヲ解除スル場合ニ於テ甲ハ工事内譯書ニ定ムル金額ノ十分ノ九以內ヲ代價トシテ工事ノ既濟部分及現場ニ存在スル檢査濟加工材料ヲ讓受クルコトアルヘシ

第十七條 乙ハ第九條第一項ニ依リ仕様變更ノ爲請負金額三分ノ一以上ヲ減少シタルトキ又ハ工事中止ノ期間契約期間二分ノ一以上ニ達スルトキハ本契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 第十四條第一項第六號及前條ノ場合ニ於テハ甲ハ設計書仕様書及繪圖面ニ適合スル工事ノ既濟部分及現場ニ存在スル工事材料ヲ檢査シ工事内譯明細書ノ單價ニ基キ之ニ對スル代金ヲ計算シテ支拂ヒ契約保證金ハ之ヲ還付ス

第十九條 官給ノ材料ハ他材料ト交換スルコトヲ得ス

第二十條 甲カ官給ノ材料ヲ交付シタルトキハ其ノ後ノ滅失又ハ毀損ハ乙ノ負擔トシ現品若ハ現金ヲ以テ辨償スヘシ

第二十一條 乙ニ於テ納付スヘキ遲滯償金其ノ他ノ賠償金ハ甲ニ於テ乙ニ仕拂フヘキ金額又ハ契約保證金額ヨリ之ヲ控除シ尙不足アルトキハ追徴スヘシ

第二十二條 領收證交付ノトキヨリ(何)年間乙ハ其ノ工作物ノ瑕疵ニ付擔保ノ責ニ任
スルモノトス

前項ノ期間内ニ生シタル瑕疵ニ依ル工作物ノ滅失又ハ毀損ニ對シ乙ニ於テ指定ノ
期間内ニ其ノ義務ヲ履行セサルトキハ甲ハ乙ノ費用ヲ以テ第三者ヲシテ之カ修理
ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトス

第二十三條 保證人ハ本契約ノ履行及損害ノ賠償ニ付乙ト連帶シテ其ノ責ニ任ス

第二十四條 契約保證金ハ瑕疵擔保ノ期間完了ノ後乙ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス但シ

工作物領收ノ手續ヲ了シタル甲ハ其ノ一部ヲ還付スルコトアルヘシ

第二十五條 乙ハ甲ノ承諾ヲ受クルニ非ラサレハ工事請負金又ハ契約保證金ニ對ス

ル債權ヲ第三者ニ讓渡スコトヲ得ス

第二十六條 本契約ノ解釋ニ付疑義アルトキハ甲ノ決スル所ニ依ル本契約ノ締結ヲ
證スル爲本證書二通ヲ作り雙方記名捺印ノ上各自一通ヲ所持スルモノトス

年 月 日

契約擔任者 官 氏 名印
住 所

請負人氏 名印

同

保證人氏 名印

乙號書式

五、物品供給契約書

一金 何 程

(何々外何點別紙内譯明細書記載ノ物品供給請負代金)

此契約保證金何程

但シ(現金又ハ國債證券何圓券何枚又ハ明治何年何月何日第何號某金庫保管
證書何通)

右物品供給ニ關シ契約擔任者某ヲ甲トシ供給請負人某ヲ乙トシ左ノ條項ヲ契約ス

第一條 乙ハ別紙内譯明細書(又ハ前記ノ物品ヲ)見本(仕様書又ハ圖面)ニ依リ(甲ノ發ス

ル注文書ニ從ヒ又ハ明治 年 月 日迄ニ指定ノ場所へ)納付スヘシ

第二條 乙ハ請負人心得書ノ各條項ヲ承諾ス

第三條 乙カ物品ヲ納付セムトスルトキハ其ノ旨ヲ甲ニ通告シテ甲ノ指定シタル官

吏ノ検査ヲ受クヘシ物品カ検査ノ上完全ナリト認めタルトキハ乙ハ物品納付書ニ検査済ノ證印ヲ受ケ物品ニ添附シテ之ヲ甲ニ差出スヘシ
検査ノ結果不合格品アルトキハ乙ハ甲ノ指定スル期限内ニ之ヲ引換ヘ更ニ検査ヲ受クヘシ此場合ニ於テモ第五條ノ適用ヲ妨ケサルモノトス
持込物品ノ外包又ハ性質上必要ナル容器ハ政府ノ所得トス

第四條 検査ノ爲試験ヲ要スル物品ニシテ甲ニ於テ其ノ所要ノ數量ノ納付ヲ命シタルトキハ乙ハ無償ニテ之ヲ提供スルモノトス

第五條 乙ニ於テ第一條ノ期限迄ニ物品ノ全部又ハ一部ヲ納付セサルトキハ遲滞償金トシテ遲延日數一日ニ付請負金額又ハ未納品代價ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ甲ニ納付スヘシ但シ天災其ノ他ノ不可抗力ニ因リ妨ケラレ甲ニ於テ延期ヲ承諾シタル場合ハ此限ニ在ラス

第六條 甲ハ必要ノ場合ニ於テ仕様書又ハ見本ヲ變更シ若ハ物品ノ數量ヲ増減スルコトアルヘシ
前項ノ場合ニ於テハ内譯明細書ノ單價ニ比例シテ請負代金ヲ増減シ内譯明細書ニ記載セラレサルモノニ付テハ甲乙協議ノ上其ノ代金ヲ定ム若シ協議調ハサルトキ

ハ甲ニ於テ相當ト認めル所ニ依ル

前二項ノ場合ニ於テ乙ハ異議ヲ申立テ又ハ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 前條ノ場合ニ於テハ乙ハ速ニ追加契約書又ハ承諾書ヲ甲ニ差出スヘシ但シ契約保證金額ニ過不足ヲ生シタルトキハ甲ハ追徴又ハ還付スルコトアルヘシ

第八條 甲ハ左ノ場合ニ於テハ契約ヲ解除スルコトヲ得但シ第五條ノ適用ヲ妨クルコトナシ

一、 納付ノ物品カ仕様書又ハ見本ニ適用セザルトキ

二、 納付期限後十日内ニ物品ヲ完納セザルトキ

三、 甲ニ於テ乙カ本契約ヲ履行スルコト能ハスト認めタルトキ

四、 其ノ他乙ニ於テ本契約ニ違背シタルトキ

契約ノ解除ニ付乙ハ異議ヲ申立テ又ハ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 契約ヲ解除シタルトキハ契約保證金ハ政府ノ所得トス

第十條 契約ヲ解除シタル場合ニ於テ検査済ノ既納物品ニ對シテハ甲ハ内譯明細書ニ基キ相當代金ヲ仕拂フモノトス

第十一條 請負代金ハ物品完納ノ上之ヲ仕拂ヒ契約保證金ハ乙ニ於テ本契約ノ義務

シタルモノナリ

第一章 總則

第一條 支出官ハ本令ノ定ムル處ニ依リ支出ニ關スル事務ヲ處理スヘシ

本條ハ支出官ノ支出ニ關スル事務ハ本令ニ依リ取扱フヘキコトヲ規定セリ

第二條 支出官ハ支拂豫算ニ依リ定メラレタル日本銀行本店支店又ハ代理店ヲ謂フ

以下同シヲ以テ其ノ振出ス小切手ノ支拂店ト爲スヘシ

本條ハ大藏大臣ヨリ支拂豫算ヲ日本銀行ニ通知スルトキハ支出官ハ其ノ銀行ヲ小切

手振出ノ日本銀行支拂店トナスモノナリ

第三條 支出官ノ更迭アリタルトキハ各省大臣ハ直ニ大藏大臣及小切手ノ支拂店ニ

其ノ旨ヲ通知スヘシ

各廳長官又ハ部局長ヲ支出官トスル場合ニ於テ其ノ更迭ヲ官報ニ掲載シタルトキ

ハ前項ノ通知ヲ要セストキ但シ至急支拂ヲ要スルトキ又ハ特ニ各廳長官若ハ部局

長以外ノ者ヲ以テ支出官トスル場合ニ於テハ此ノ限リニ在ラス

支出官ノ更迭ノトキハ大藏省及日本銀行支拂店ニ通知セサレハ支拂ヲナス能ハス何

シトナレハ大藏大臣ヨリ支拂豫算ヲ日本銀行支拂店ニ通知シ置キ支出官ハ印鑑ノ通

知ヲ爲シ置キ小切手振出ヲナスモノナレハナリ

各廳長官又ハ部局長カ支出官タルトキ其ノ支出官ノ更迭カ官報ニ掲載セラレタルト

キハ特ニ大藏大臣又ハ小切手支拂店タル日本銀行ニ通知スルノ必要ナク官報ニテ明

白ナレハナリ然レトモ至急拂ノトキ又ハ各廳長官及ヒ部局長以外ノモノカ支出官タ

ルトキハ官報ノミニ依ルトキハ誤謬ヲ生スルヲ以テ此ノ場合ノ更迭ハ大藏大臣及ヒ

支拂店ニ通知スヘキノ規定ナリ

第四條 會計規則第四十二條ノ規定ニ依ル代理官ノ任免アリタルトキハ前條第一項

ノ規定ニ準シ之カ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

本條ハ支出官事故ノ爲メ代理官ヲ置キタルトキ其ノ代理官更迭シタルトキハ直チニ

大藏省及日本銀行小切手支拂店ニ通知スヘキノ規定ナリ

第五條 支出官及其ノ代理官ハ照校ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ小切手ノ支拂店ニ送

付スヘシ

本條ハ印鑑届出ノ規定ナリ支出官及其ノ代理官ニ小切手ニ使用スル印鑑ヲ支拂上照

校ノ爲メ小切手支拂店ニ届出置クヘキモノナリ

第六條 支出官特別會計支出元受高ノ内ヲ翌年度ノ支拂元受高ニ組入ヲ要スルトキ

ハ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ請求スルモノナリ
 本條ハ特別會計ノ場合ニ於ケル支拂元受高ヲ翌年度ニ繰越使用スルノ規定ナリ支出官ハ元受高ヲ翌年度ニ繰越組入ヲナストキハ其ノ旨ヲ日本銀行支拂店ニ請求スヘキモノナリ

第七條 支出官特別會計支拂元受高ノ内ヲ當該會計ノ他ノ支出官ノ支拂元受高ニ轉換ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ請求シ振換受拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

支出官カ特別會計ノ支拂元受高ノ内ヲ以テ同一特別會計ノ他ノ支出官ノ支拂元受高ニ保管轉換ノ必要アルトキハ其ノ元受高ノ内ヲ自分ノ支拂店タル日本銀行ニ請求シテ振換ノ手續ヲナスモノナリ

第八條 本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ行フ

本條ハ本令中各省大臣トアルハ植民地ニ在リテハ其ノ長官ニ於テ各省大臣ノ職務ヲ行フ旨ヲ規定セルモノナリ

第二章 小切手ノ振出

第一節 總則

第九條 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ支拂金額支拂店名受取人ノ氏名ト共ニ其ノ小切手ノ持參人カ支拂ヲ受クルコトヲ得ヘキコト振出ノ年月日及支拂地ヲ記載スルノ外年度所管會計名經常臨時部別款項及番號ヲ附記スヘシ
 本條ハ支出官ノ振出ス小切手ノ記載事項ヲ規定セリ

即チ 一、支出金額、支出店名、受取人ノ氏名、小切手持參人拂タルコト、振出年月日、支拂地

二、年度、所管、會計名、經常臨時部別、款項及番號ナリ

以上二ノ事項ハ普通小切手ニハ記入セサルモノナリ但シ番號ノ記入ハ普通小切手ニモ記入スルモノナリ

第十條 官廳出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出ス小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ裏書禁止ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノアルトキハ表面餘白ニ「要振替」ノ印ヲ押捺スヘシ

本條ハ官廳ノ出納官吏又ハ日本銀行ノ受取人トスル小切手振出ノ規定ナリトス小切

手ハ元來直接受取人ニ對シ必要ナル支拂ニシテ他ニ轉々スヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ之レ等記名式小切手トシ更ニ裏書禁止ヲ記入スルモノナリ
此ノ小切手ヲ歳入又ハ其ノ他ニ振替拂込ノ必要アルトキハ表面ニ「要振替」ノ印ヲ押シ振出スモノナリ

第十一條 支出官受取人ニ小切手ヲ交付シ支拂ヲ了シタルトキハ領收證書ヲ徵スヘシ

本條ハ債權者又ハ其ノ他ニ支出官カ小切手ヲ交付シタルトキハ領收證書ヲ徵收スルノ規定ナリ小切手交付ハ現金辨濟ト同一ノ效力ヲ生ス即チ代物辨濟ナルモノニ付債務ハ消滅スルモノナリ依テ受領證書ヲ徵スルモノナリ

第十二條 支出官本章ノ規定ニ依リ小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度第一號書式ノ小切手振出濟通知書ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

本條ハ支出官カ小切手ヲ振出ストキハ其ノ都度第一號書式ノ小切手振出濟通知書ヲ小切手支拂店ニ送付スルノ規定ナリ

支出官ノ振出ス小切手ハ恰モ仕拂命令官ノ發行シタル仕拂命令用紙ト同ク三連續ノモノニシテ一枚ハ原符トシテ支出官手許ニ残り中間ヨリ第一號書式ノ小切手振出濟

通知書ヲ日本銀行支拂店ニ送付スルモノニシテ仕拂命令ノ案内命令ト同様ナリ右端ノ一枚ハ小切手ナリ又仕拂命令ハ案内命令カ金庫ニ到達シ居ラサレハ金庫ハ仕拂ヲ拒絕スルコトヲ得タルモ小切手ノ振出濟通知書ハ案内命令ト異ナリ小切手ト照合スルモノニアラサルヲ以テ日本銀行支拂店ハ小切手振出濟通知書ノ到達スルト否トニ拘ラス小切手持參人ニ支拂ヲナスヘキモノニシテ到達セサルノ理由ニテ支拂ヲ拒絕スル能ハサルモノナリ

小切手ト第一號書式ノ小切手振出濟通知書ト原符トノ連續ニ對シテハ仕拂命令用紙ト異ナリ支出官ノ割印ハ必要ナキモノナリ

第二節 隔地者ニ支拂ヲ爲サシムル爲振出ス小切手

第十三條 支出官小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル債主ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ第二號書式ニ依リ債主ノ住所氏名及支拂場所ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付スヘシ

本條ハ舊會計規則第四十五條中ノ金庫所在地外ニ在ル債主ニ支拂ヲ要スル仕拂通知書ト同ク支出官カ支拂店所在地外ニ在ル債主ニ支拂ヲ爲サムトスルトキノ小切手振出ノ規定ナリ支拂店所在地外ニ在ル債主ニ支拂ヲナストキハ小切手ノ裏面ニ第二號書

式ニ依リ債主ノ住所氏名ト支拂場所等トヲ記載シタル小切手ヲ小切手支拂店ニ交付スルモノナリ而シテ此ノ場合債主ニ對シテハ第十六條ニ依リ第四號書式ノ歳出金支拂通知書ヲ債主ニ送付スルモノナリ之レハ恰モ舊會計規則ノトキ金庫ニ仕拂命令ヲ交付シ債主ニハ仕拂通知書ヲ送付スルト同一ナリ

第十四條 前條ノ場合ニ於テ數人ノ債主ニ對シ同一支出科目ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ合計額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ小切手ノ裏面ニ第二號書式ニ依リ記入ヲ爲シ第三號書式ノ金額氏名表ヲ添付スヘシ

本條ハ支拂店所在地外ニ在ル數人ノ債主ニ對シ同一支出科目ヨリ支拂ヲナス所謂集合仕拂命令ナル小切手ヲ振出ノ規定ナリ此ノトキハ集合ノ合計額ヲ小切手金額ニ記入シ振出スモノナリ此ノ場合ハ其ノ支拂店ニ交付スル小切手ノ裏面ニ第二號書式ニ依リ債主ノ住所氏名ト支拂場所等トヲ記載シ更ニ第三號書式ノ金額氏名表ヲ添付スルモノナリ

本條ニ依レハ集合仕拂ノ小切手振出ハ支拂店所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲナス場合ニ限リナスモノニシテ支拂店所在地ノ債主ニ支拂ヲナス場合ハ舊會計規則ト異ナリ

集合命令ノ小切手振出ハ爲ス能ハサルモノナリ

第十五條 前二條ノ場合ニ於テ支出官ハ債主ノ爲最モ便利ナリト認ムル日本銀行ヲ支拂場所ト爲ス但シ運輸交通不便ナル地方ニ在ル債主ノ請求ニ依リ其ノ住所又ハ居所ニ送金ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得

本條ハ支拂店所在地外ノ債主ニ支拂ヲナストキハ債主ノ爲最モ便利ノ日本銀行ヲ支拂場所ト爲シ第二號書式ニ依リ記入スルノ規定ナリ但シ運輸交通不便ナル地方ニ在ル債主ノ請求ニ依リ其ノ住所又ハ居所ニ送金ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得ルモノナリ此場合ハ先方ニ日本銀行支拂店ナキ處ニ送金スルモノニ付日本銀行ハ自然郵便爲替ニ依ルノ外途ナキモノナリト思考ス

第十六條 支出官第十三條又ハ第十四條ノ手續ヲ爲シタルトキハ第四號書式ノ歳出金支拂通知書ヲ債主ニ送付スヘシ但シ前條但書ノ規定ニ依リ支拂場所ヲ指定シタル場合ニ於テハ歳出金支拂通知書ニ代ヘ適宜ノ通知書ヲ債主ニ送付シ電信送金ノ場合ニ於テハ電信ヲ以テ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

本條ハ送金小切手振出ヲナシタルトキハ債主ニ對シテハ第四號書式ノ歲出金支拂通知書ヲ送付スルノ規定ナリ舊仕拂命令ノトキ債主ニ仕拂通知書ヲ送付スルト同様ナリ而シテ前條但書ニ依リ運輸交通下便ナル地方ヲ支拂場所トスルトキ即チ日本銀行支拂店ナキ場合ノ如キニ於ケル送金ハ歲出金支拂通知書ヲ送付スルノ必要ナシ何トナレハ此ノ通知書ハ何々日本銀行ニ於テ受領セラルヘシトノ通知書ニ付送金先ニ日本銀行支拂店ナキ場合ハ此ノ通知書ヲ送付スルモ日本銀行ニテ受領スル能ハサルヲ以テ此ノ通知書ハ送付スルモ無効ニ付之ニ代ヘ適宜ノ通知書ヲ債主ニ送付スルモノナリ若シ又電信送金ノ場合ニ於テハ電信ヲ以テ適宜ノ通知ヲナスモノナリ

第十七條 支出官歲出金支拂通知書ノ送付ヲ爲シタル後債主ヨリ該通知書ヲ添ヘ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ事由アリト認メタルトキハ歲出金支拂通知書ニ記載セル支拂場所ヲ訂正シ之レヲ債主ニ送付シ直ニ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ通知スヘシ

本條ハ歲出金支拂通知書ニ記載ノ支拂場所變更ノ手續ナリ歲出金支拂通知書ニ記載ノ支拂場所變更ノ請求アルトキハ相當ノ事由アレハ其支拂場所ヲ訂正シ之ヲ債主ニ返送スルモノナリ而シテ直ニ其ノ變更シタルコトヲ小切手ノ支拂店ニ通知スルモノナリ然ラサレハ支拂店ハ支拂場所ノ變更ヲ知ラスシテ元ノ日本銀行ニ資金ヲ送付スルヲ以テナリ

第十八條 支出官電信送金ノ通知ヲ爲シタル後債主ヨリ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ支拂未済ナルコトヲ確メタルトキハ前條ノ規定ニ準シ電信ヲ以テ之ヲ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

本條ハ支拂店所在地外債主ニ電信送金ノ場合ニ債主ヨリ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケ支拂未済ノトキハ電信ニテ支拂場所變更ノ手續ヲナスヘキノ規定ナリ即チ支拂店ニ對シテモ此ノ旨ヲ通知スルモノナリ

第十九條 支出官外國ニ在ル債主ニ對シ邦貨ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ第五號書式ノ記入ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ直ニ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ但シ電信送金ノ場合ニ於テ必要アリト認メタルトキハ電信ヲ以テ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

本條ハ外國ニ在ル債主ニ對シ邦貨ヲ基礎トシ支拂ヲナス場合ノ規定ナリ此ノトキハ小切手裏面ニ第五號書式ノ事項ヲ記入シタル小切手ヲ支拂店ニ交付シ第十六條ニ依ル第四號書式ノ歲出金支拂通知書ノ外別ニ其ノ邦貨ヲ基礎トスル支拂ヲナス旨ヲ債

主ニ通知スルモノナリ又電信送金ノトキ必要ト認メタルトキハ電信ニテ其ノ事ヲ債主ニ通知スルモノナリ

第二十條 支出官外國ニ在ル債主ニ對シ外國貨幣ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出し其ノ裏面ニ第六號書式ノ記入ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ前條ノ規定ニ準シ債主ニ通知手續ヲ爲スヘシ

本條ハ外國ニ在ル債主ニ對シ前條ト反對ニ外國貨幣ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲ストキハ外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出し其ノ裏面ニ第六號書式ノ記入ヲ爲シ(外國貨幣ヲ基礎トスル外國送金ノ場合ニ於ケル小切手裏面記載例)即チ表面ノ金額ハ何貨何種ニ換ヘ何國何地何某ヘ送金ヲ要スルトノ記入ナリ此ノ小切手ヲ支拂店ニ交付スルモノナリ

小切手裏面ノ第五號ト第六號トノ異ナル點ハ五號ハ單ニ何貨ニ換ヘトアリ六號ハ何貨何種ヘトアリテ外國貨幣ノ算定ヲ豫メ確定セルノ差アルノミナリ

第二十一條 本節ノ規定ハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外支出官小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ支拂店所在地外ニ在ル出納官吏ニ資金ヲ送金スル場合ニ準用スルモノナリ唯異ナル點ハ小切手ヲ記名式トシ裏書禁止ノ旨ヲ記載スルモノナリ

第三節 國庫内移換ノ爲ニ振出ス小切手

第二十二條 支出官他ノ會計ニ資金繰入ノ爲歳出ヲ支出セントスル場合ニ振出ス小切手ハ之カ繰入ヲ要求スル當該官廳ヲ受取人トシ其ノ裏面ニ歳入年度所管會計名及取扱廳名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

本條ハ國庫内移換ノ爲ニ支出官カ他ノ會計ニ資金繰入ノ爲メ一應歳出ヲ支出スル場合ニ於ケル小切手ヲ振出ノ規定ナリ此ノ小切手ハ(一)繰入ヲ要スル當該官廳ヲ受取人トシ(二)小切手ノ裏面ニ歳入年度所管會計名(三)取扱廳名(四)其ノ他必要ノ事項ヲ記載シ以テ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ヲナスモノナリ

第二十三條 前條ノ場合ニ於テ其ノ振替ニ依ル受入濟ノ旨ヲ當該官廳及當該支拂元受高ノ計算ヲ爲ス日本銀行ニ至急通知スルノ必要アル時ハ其ノ旨ヲ記載シ別ニ「要電信通知」ノ印ヲ捺捺スヘシ

本條ハ前條ニ依リ國庫内移換ノ爲メニ振出ス小切手ニテ振替ニ依ル受入濟ノ旨ヲ當

該官廳及當該支拂元受高ノ計算ヲ爲ス日本銀行ニ至急通知ノ必要アルトキハ電信ニテ通知ヲ要求スルモノナリ

第四節 俸給支拂國庫納金及相殺ノ爲ニ振出ス小切手

第二十四條 支出官文官判任以上ノ者ニ俸給支出ヲナス爲振出ス小切手ハ其ノ俸給額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ

支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ國庫納金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「國庫納金」ノ印ヲ押捺シ其ノ裏面ニ歲入年度所管會計名及取扱廳名ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ本條第一項ハ俸給支拂ノ小切手振出ナリ第二項ハ國庫納金振替拂込ノ小切手振出ナリ

文官判任以上ノ俸給支拂ヲ爲ス爲メ小切手振出ハ其ノ俸給額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスルモノナリ之レハ元ノ仕拂命令ト異ナリ仕拂命令ハ總額ヲ記入シ金庫ニテ國庫納金ヲ差引タルモノナリ

右ノ小切手振出ト同時ニ國庫納金ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スモノナリ且小切手表面餘白ニ「國庫納金」ノ印ヲ押シ裏面ニ歲入年度何々所管一般會計名及取扱廳名ヲ

記載シ以テ此ノ小切手ヲ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲナスモノナリ

第二十五條 支出官民法ノ規定ニ依リ政府ノ債務ノ一部ニ付私人ノ債務トノ間ニ相

殺アリタル場合ニ振出ス小切手ハ政府ノ支拂金額ヨリ相殺額ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ

支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ相殺額ニ相當スル金額ヲ券面金額トシ歲入所屬ノ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「相殺額」ノ印ヲ押捺シ之ヲ當該相殺額ニ對スル納入告知書ニ添附シ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

本條ハ政府ト私人トノ間ニ相殺ノ場合ニ小切手振出ノ規定ナリ政府ノ支拂金カ私人ノ債務ヨリ多キトキハ其ノ支拂金ヨリ私人ノ債務額ヲ控除シ殘リニ對スル金額券面トシ小切手ヲ振出スモノナリ

右ハ小切手振出ト同時ニ相殺額ニ對スル金額ヲ歲入トスル必要アルヲ以テ其ノ金額ヲ券面金額トシ歲入所屬ノ當該官ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且小切手表面餘白ニ「相殺額」ノ印ヲ押シ以テ別ニ相殺額ニ對スル納入告知書ヲ添附シ小切手支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲナスモノナリ

國庫納金振替ノトキハ納入告知書ハ添附セサルモノナリ

第二十六條 政府ノ收納スヘキ金額ト相殺額ト同額ナルトキ又ハ之ヲ超過スルトキハ支出官ハ其ノ相殺額ニ付前條第二項ノ手續ニ準シ小切手ヲ振出シ其ノ收納スヘキ金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ其ノ超過額及相殺ノ相手方氏名ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ

本條ハ相殺額カ同額ナルトキ又ハ超過スルトキハ支出官ハ相殺額ニ對シテハ歲入スル爲メニ小切手ヲ振出シ超過ノ分ニ對シテハ其相殺者ノ氏名ヲ歲入徵收官ニ報告スルモノナリ

然ルトキハ歲入徵收官ハ超過額ニ對シ歲入ノ爲メ調定シ納入告知書ヲ發行スルモノナリ

第三章 定額戻入

第二十七條 支出官會計規則第八十二條ノ規定ニ依リ經費ノ定額ニ戻入ヲ爲サムトスルトキハ返納人ニ對シ第七號書式ノ返納告知書ヲ發スヘシ

本條ハ定額戻入ヲナス場合ニ返納告知書ヲ支出官カ發行スルノ規定ナリ本規定ハ從來ト同様ナリ

第四章 證明

第二十八條 支出官小切手ノ支拂店ヨリ支拂濟小切手其ノ他ノ證憑書類ヲ添へ歲出金月計突合表又ハ歲出支拂未濟繰越金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明上五日內ニ之ヲ小切手ノ支拂店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

本條ハ歲出金月計突合表又ハ歲出支拂未濟繰越金月計突合表證明ノ規定ナリ支拂店ヨリ右ノ證明ヲ請求シアルトキハ支出官ハ五日內ニ返付スルノ規定ナリ

第五章 雜則

第二十九條 支出官其ノ振出シタル小切手又ハ第二十七條ニ規定スル返納告知書ニ記載セル年度所管會計名經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ小切手ノ支拂店ニ之カ訂正ヲ請求スルコトヲ得

本條ハ小切手及ヒ返納告知書ニ記載ノ年度所管會計名經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アリタル時ハ其ノ訂正ハ翌年度五月三十一日迄ハ支拂店ニ對シ請求スルノ規定ナリ五月三十一日迄ハ銀行ニ於ケル整理期間ナレハナリ金額ノ訂正ハ絕對ニ出來サルモノナリ

第三十條 支出官第十三條第十九條乃至第二十二條及第二十四條ノ小切手裏面ノ記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタル時ハ小切手ノ支拂店ニ對シ之カ訂正ノ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ第十四條ニ規定スル金額氏名中金額以外ノ誤謬訂正ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ外國送金國庫内移換相殺ノ小切手裏面ノ記載事項ニ誤謬アリタルトキハ支拂店ニ對シ之カ訂正ノ請求ヲ爲スヘシ集合命令ノ小切手ノトキモ金額ハ訂正不可能ナルモ金額以外ノ誤謬訂正ハ之ヲ爲スコトヲ得ルノ規定ナリ

第三十一條 支出官歳出金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得

支出官前項ノ訂正ヲ爲サムトスルトキハ受取人ヲシテ該歳出金支拂通知書ヲ提出セシメ相當ノ訂正ヲ爲シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ

本條ハ歳出金支拂通知書記載事項中金額以外ニ誤謬アリタルトキハ金額受取前ナル時ハ之ヲ訂正スルコトヲ得ルノ規定ナリ此ノ訂正ヲナス時ハ該通知書ヲ提出セシメ相當ノ訂正ヲ爲シ更ニ受取人ニ返付スルモノナリ

第三十二條 支出官第十六條ノ規定ニ依リ受取人ニ送付シタル歳出金支拂通知書ニ

シテ受取人ノ受領前亡失シ日本銀行ニ於テ其ノ支拂未済ナルコトヲ確メタル時ハ之カ支拂ヲ停止セシメ更ニ歳出金支拂通知書ヲ調製シ表面餘白ニ「再發行」ノ印ヲ捺捺シ之ヲ受取人ニ送付シ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ通知スヘシ

本條ハ送金拂ノ小切手ニ對スル歳出金通知書即チ此ノ通知書ハ受取人ニ送付シタルモノナリ此ノ通知書カ受取人ノ金額受領前ニ亡失シ日本銀行ニテ其ノ支拂未済ナルコトヲ確メタルトキハ之カ支拂ヲ停止セシメ一方更ニ歳出金支拂通知書ヲ再發行シ「再發行」ノ印ヲ捺シ之ヲ受取人ニ送付シ此ノ事ヲ支拂ヲナス日本銀行ニ通知スルモノナリ

第三十三條 支出官受取人ノ受領前亡失シタル歳出金支拂通知書ニ依リ日本銀行既

ニ支拂ヲ爲シタルコトヲ確メタルトキハ事情ヲ詳具シタル書面ヲ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ニ送付スヘシ

支出官大藏大臣ヨリ支拂ヲ爲スヘキ旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シ之カ支拂ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

本條ハ送金拂ノ歳出金支拂通知書ヲ亡失シ日本銀行ハ之ニ依リ既ニ支拂ヲ爲シタル

コト明白ナルトキハ支出官ハ此ノ事情ヲ詳細ニ説明シタル書面ヲ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ニ送付シ指示ヲ受クヘキモノナリ而シテ大藏大臣ヨリ此ノ場合ニ支拂ヲナスヘキ旨ヲ通知シ來リタル時ハ前條ノ規定ニ依リ歳出金支拂通知書ノ再發行ヲ爲スモノナリ

小切手ハ代物辨濟ノモノニ付一應拂出後債務者ニ交付シタルモノハ勿論支拂店ニ交付シタルモノト雖モ再發行ハ絶對ニ許ササルモノナリ然レトモ歳出金支拂通知書ハ時ニ依リ再發行ヲ爲スヘキモノニ付若シ支拂ヲナスヘキ旨ノ通知アリタル時ハ再發行ヲ爲シ本人ニ送付スルモノナリ

小切手ヲ亡失シタルトキハ所持人ハ民法ニヨリ公示催告ヲ爲スヨリ外途ナシ若シ又日本銀行ニ於テ亡失シタル小切手ニ對シ支拂後誤謬アリテ損失ヲ來ストキハ日本銀行ノ損失ニ歸スルモノナリ

本條大藏大臣ノ權限ハ朝鮮總督ニ委任セサルモノナリ

第三十四條 受取人支出官ヨリ送付ヲ受ケタル歳出金支拂通知書ヲ亡失シタルトキハ直ニ支拂場所タル日本銀行ニ支拂停止ノ請求ヲ爲シ且支拂未濟ナルトキハ當該日本銀行ヲ經由シ支出官ニ届出ツヘシ

前項ノ届書ニハ歳出金支拂通知書ニ記載シタル金額番號年度發行官廳及支拂場所ヲ記載スヘシ

ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ歳出金支拂通知書ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ送金ノ歳出金支拂通知書亡失ノトキ受取人ヨリ日本銀行ニ支拂停止ヲ請求スルモノナリ前條ハ支出官ヨリ停止ヲ請求スルノ規定ナリ

支拂未濟ノトキハ支拂場所タル日本銀行ヲ經由シ支出官ニ届出ツヘシ

本件届出ニハ通知書ニ記載シタル金額番號年度發行官廳及支拂場所ヲ記載スヘシトアルヲ以テ受取人ハ亡失シタルトキ支出官ニ對シ以上ノ事ヲ暗記シ居ラサルヲ以テ一應聞合セタル上ニアラサレハ届出ヲナスコト能ハサルモノナリ歳出金支拂通知書ヲ毀損シタル場合モ以上ノ規定ヲ準用スルモノナリ

第三十五條 支出官前條ノ届書ヲ受ケザルトキハ之ヲ調査シ支拂ヲ要スルモノト認メタルトキハ第三十二條ノ規定ニ準シ之カ支拂ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

本條ハ支出官カ前條ニヨリ受取人ヨリ歳出金支拂通知書ノ亡失届出ヲ受ケ支拂未濟ノトキハ歳出金支拂通知書ノ再發行ヲ爲シ受取人ニ送付シ小切手支拂店ニモ其ノ旨ヲ通知スルモノナリ

第三十六條 第三十三條ノ規定ハ受取人ノ亡失シタル歳出金支拂通知書ニ依リ既ニ支拂ヲ受ケタルモノアル場合ニ付之ヲ準用ス

本條ハ歳出金支拂通知書ノ亡失ニヨリ既ニ支拂ヲ受ケタルモノアルトキ支出官ハ第三十三條ニヨリ事情ヲ詳具シタル書面ヲ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ニ送付シ指示ヲ受クヘキモノナリ

第三十七條 支出官歳出金月計突合表又ハ歳出支拂未済繰越金月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

本條ハ歳出金月計突合表ト歳出支拂未済繰越金月計突合表トヲ第二十八條ニヨリ證明シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ小切手ノ支拂店ニ送付スルモノナリ

附 則

第四十條 歳出金仕拂通知書ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ従前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

本條ハ本令施行前ノ仕拂命令通知書ニシテ金庫ニ於テ支拂ヲ了セサルモノハ施行後

一年間ハ日本銀行ニ於テ仕拂ヲナスノ規定ナリ之レハ小切手モ振出後一年間ノモノニ付仕拂命令通知書モ一年間ノモノニ取扱フコトトセリ

第四十一條 前條ニ規定スル支拂期間經過後仍時効ノ完成セサル債務ノ支拂ニ付テハ會計規則第六十九條第二項ノ規定ニ依ル

仕拂命令通知書ニシテ本令施行後一年間經過後仍時効ノ完成セサル債務ノ支拂ハ會計規則第六十九條第二項ニ依リ債務時効ニ依ル規定ナリ

出納官吏事務規程

第一條 出納官吏ハ本令ノ定ムル處ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ處理スヘシ

出納官吏ハ本令ニ依リ現金ノ出納保管ヲナスヘキモノナリ

第二條 出納官吏法令ノ規定ニ依リ現金ニ代ヘ證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シ之カ取扱ヲ爲スヘシ

出納官吏法令ノ規定ニ基キ現金ニ代リ證券ヲ受領シタルトキ即チ歳入納付ノ現金ニ代リ有價證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シ本令ニ依リテ出納保管ヲナスヘキモノ

ナリ

第三條 出納官吏其ノ手許ニ保管スル現金ハ之ヲ堅牢ナル容器ニ藏置スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ郵便局若クハ確實ナル銀行ニ預入レ又ハ資産信用アル者ニ其ノ保管ヲ託シ其ノ他適當ノ方法ニ依リ之ヲ保管スルコトヲ得

本條ハ出納官吏ノ手許保管ノ現金ニ關スル規定ナリ先ツ原則トシテ堅牢ナル容器ニ藏置スヘキモノナリ但シ特別ノ事由アルトキハ自己ノ責任ニテ

一、郵便局若クハ確實ナル銀行ニ預入レ

二、又ハ資産信用アル者ニ保管ヲ託シ

三、其ノ他適當ノ方法ニテ保管スルコトヲ得

第四條 出納官吏其ノ取扱ニ係ル現金ハ私金ト混同スルコトヲ得ス

本條ハ出納官吏ノ取扱ニ係ル現金ハ私金ト混同スルコトヲ得サルノ規定ナリ

第五條 出納官吏他ノ公金ノ出納保管ヲ兼掌スル場合ニ於テハ其ノ現金ハ官金ト區分シ同一容器中ニ之ヲ保管スルコトヲ得

本條ハ資金現金前渡官吏カ歳入歳出外現金出納官吏ヲ兼掌スルトキハ其ノ保管現

金ト官金トヲ區分シ同一容器中ニ保管スルコトヲ得

第六條 出納官吏本令ノ定ムル所ニ依リ振出小切手ハ本令中別段ノ定アル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式持參人拂ト爲スヘシ

本條ハ出納官吏自ラ振出ス小切手ニ付テノ規定ナリ此ノ小切手ハ本令中定メアルモノハ之ニ依リ其ノ他ハ之ヲ記名式持參人拂トナスモノナリ此ノ點ハ支出官ノ振出小切手ト同様ナリ

第七條 官廳出納官吏又ハ日本銀行ヲ受領人トシテ振出ス小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ裏書禁止ノ旨ヲ記スヘシ

前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノナルトキハ表面餘白ニ「要振替」ノ印ヲ捺印スヘシ

本條ハ出納官吏自身カ振出ス小切手ニシテ官廳出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トスル場合ノ規定ナリ之レハ支出官ノ振出ス小切手ト同様ニ記名式トシ裏書禁止ノ旨ヲ記載スルモノナリ

第八條 現金出納簿ハ一人一冊トシ出納官吏ハ職務及所管廳ノ如何ヲ問ハス其ノ取扱ニ係ル現金ノ出納ヲ總テ之ヲ記入スヘシ

本條ハ出納官吏ノ現金出納簿設備ノ規定ナリ

現金出納簿ハ職務及所管廳ノ如何ニ拘ラス一人一冊トシ一人ニテ二冊以上設備スルコトヲ禁スルモノナリ而シテ所管廳別又ハ金種別等ノ區分ハ別ニ補助簿ニテ記帳シ出納簿ナルモノハ日記帳ノ性質ニ付日々ノ出納ヲ明ニ記帳シ殘高ヲ知レハ可ナリ依テ一人一冊トスルモノナリ之レハ從前ト同一ナリ

第九條 外國ニ於ケル出納官吏ノ事務取扱ニシテ本令ニ依リ難キモノニ付テハ特例ヲ設クルコトヲ得

本條ハ外國ニ在ル出納官吏ノ事務取扱規定ナリ

外國ニアル出納官吏ニシテ本令ニ依リ事務ヲ採リ難キモノハ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得ルモノナリ

第十條 各省大臣ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外其ノ所屬出納官吏ノ事務取扱ニ付大藏大臣ト協議シ之カ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

本條ハ各所管大臣ハ本令以外ニ其ノ所屬出納官吏事務取扱ニ關シテ必要ノ事項アルトキハ大藏大臣ト協議シテ其ノ事項ヲ規定スルコトヲ得ルモノナリ

第十一條 本令ハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外出納員ノ事務取扱ニ付之ヲ準用ス

本條ハ特別ノ規定アルモノハ別トシテ普通ノ分ハ出納員ノ現金取扱事務ニ付準用スルモノナリ

第十二條 本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東廳長官之ヲ行フ

本條ハ本令中各省大臣トアルハ殖民地ニ在リテハ總テ各殖民地ノ長官ニ於テ之ヲ行フコトヲ規定スルモノナリ

第二章 收入官吏

第一節 收入金領收

第十三條 收入官吏納人ヨリ納稅告知書納入告知書又ハ納付書ヲ添へ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納人ニ交付シ其ノ報告書ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

本條ハ收入官吏カ納稅納入ノ告知書又ハ納付書ニテ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ納人ニ交付シ一面之ヲ歲入徵收官ニ送付スルノ規定ナリ然ルトキハ歲入徵收官ハ徵收簿ヲ記帳整理スルモノナリ

第十五條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ邦貨ヲ基礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ

收納セントスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ算出シタル金額ノ外國貨幣ヲ收納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歳入徴收官ニ送付スル報告書ニ記載スヘキ邦貨額ニ外國貨幣額及外國貨幣換算價格ヲ傍記スヘシ

本條ハ外國ニ在リテ納人カ邦貨ヲ基礎トシ收入金ヲ收納スルトキ外國貨幣ヲ提出スルトキハ外國貨幣換算價格ニ依リ外國貨幣ヲ受領スルノ規定ナリ

此ノ場合ニ於テハ歳入徴收官ノ報告書ニハ邦貨額ニ外國貨幣額ト外ニ外國貨幣換算價格表ヲ傍記スヘキモノナリ

第十六條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基礎トスル收入金ヲ邦貨ヲ以テ收納セムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル金額ノ邦貨ヲ收納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歳入徴收官ニ送付スル報告書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額及外國貨幣換算價格ヲ傍記スヘシ

本條ハ前條ト反對ニ外國ニ在リテ納人カ外國貨幣ヲ基礎トシ邦貨ニテ收入金ヲ納付スルトキハ外國貨幣換算價格表ニ依リ收納スルノ規定ナリ

此ノ場合ニ歳入徴收官ニ報告スルコト邦貨額ヲ記載シ外國貨幣ト外ニ外國貨幣換算額トヲ傍記スヘキナリ

第十七條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ收納シタルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ歳入徴收官ニ送付スル報告書ニ記載シ其ノ收納シタル外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

本條ハ外國ニ在ル納人カ外國貨幣ヲ基礎トシ外國貨幣ヲ收納シタルトキハ外國貨幣換算價格ニテ收納スル規定ナリ而シテ此ノ場合ハ外國貨幣換算シタル邦貨額ヲ歳入徴收官ニ報告スルモノナリ

其ノ報告書中其ノ收納シタル外國貨幣額ヲ傍記スヘキモノナリ

第二節 收入金拂込

第十八條 日本銀行(本店支店代理店)ヲ云フ以下同シ所在地ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第一號書式ノ現金拂込書ヲ添へ現金領收ノ日又ハ其ノ翌日日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ領收金額百圓未滿ナルトキハ毎十日分ヲ取纏メ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

本條ハ現金拂込ノ規定ナリ收入官吏カ日本銀行所在地ニ在勤スルトキハ日々ノ領收

金ハ領收ノ日又ハ其ノ翌日ニ日本銀行ニ拂込ムヘキモノナリ但シ百圓未満ノ分ハ十日分ヲ取纏メ拂込差支ナシ拂込ノ書式ハ第一號書式ナリ
第一號ノ拂込書式ハ徵收官ニ通知書ノ書式ナルモ收入官吏ニ對スル領收證ノ書式ナ

第十九條 日本銀行所在地外ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ左記期限内ニ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ第二號乃至第四號ノ場合ニ於テハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス

一、領收金高百圓未満ナルトキハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日内

二、領收金高百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ十日内

三、領收金高五百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ五日内

四、領收金高千圓以上ニ達シタルトキハ其ノ翌日限り

本條ハ收入官吏カ日本銀行所在地外ニ在勤スル場合ニ收入金ヲ領收シタルトキ拂込日數ノ規定ナリ

一、百圓未満ノトキハ最初領收シタル日ヨリ起算シテ十五日以内ニ拂込ムコト

二、百圓以上ハ百圓以上ニ達シタル日ヨリ十日以内五百圓以上ハ五百圓以上ニ達

シタル日ヨリ五日以内千圓以上ニ達シタル日ヨリ翌日限りトスルモ何レモ最初領收日ヨリ十五日ヲ超ユルコトハ出來サルモノナリ

第二十條 收入官吏其ノ在勤地外ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第十八條ノ規定ニ準シ拂込ヲ爲シ得ル場合ヲ除クノ外前條ノ規定ニ準シ之レカ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

本條ハ收入官吏カ在勤地外ニ於テ現金ヲ領收シタル場合ノ拂込ノ規定ナリ其ノ場合ニ
一、日本銀行所在地ナルトキハ第十八條ニ依リ
二、日本銀行所在地外ナルトキハ第十九條ニ依リ拂込ヲ爲スモノナリ

第二十一條 運輸交通ノ不便ナル地方ニ在勤スル收入官吏ニシテ第十九條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ之カ特例ヲ設クルコトヲ得

本條ハ收入官吏カ交通不便ノ地ニ在勤シ第十九條ノ規定ニ依リ難キ即チ銀行ナキ場合ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ便宜拂込ノ方法ヲ設クルモノナリ

第二十二條 收入官吏外國ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ前四條ノ規定ニ準シ之カ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ外國貨幣ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ現金拂込書ニ邦貨額ヲ記

載シ外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

本條ハ外國ニ在ル收入官吏カ現金領收拂込ノ規定ナリ此ノ拂込ニ於テ外國貨幣ノ拂込ヲナストキハ現金拂込書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額ヲ傍記スヘシ此ノ場合納人ヨリ邦貨ヲ基礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ收納スルトキ第十五條ニ依リ外國貨幣換算價格ニ依リ算出シタル金額ノ外國貨幣ヲ收納スルモノナリ

第二十三條 收入官吏外國ニ於テ領收シタル現金ニシテ前條ノ規定ニ依リ拂込ヲ爲スコト能ハサルモノニ付テハ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外一箇月分ヲ取纏メ之ヲ爲替券ニ換ヘ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行本店ニ拂込ムヘシ

前項ノ現金拂込書ニハ邦貨額ヲ記載シ爲替券面額ヲ傍記スヘシ

本條ハ外國ニ在ル收入官吏カ領收シタル現金ヲ交通不便ニシテ拂込ヲ爲ス能ハサルトキハ別ニ規定アルモノヲ除キ其ノ他ハ一箇月分ヲ取纏メ之ヲ爲替券ニ換ヘ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行本店ニ送付拂込ノ手續ヲナスモノナリ此ノ現金拂込書ニハ邦貨額ヲ記載シ爲替券面額ヲ傍記スルモノナリ

第三節 現金拂込報告

第二十四條 收入官吏ハ現金出納簿ニ依リ毎月第二號書式ノ現金拂込仕譯書ヲ調製

シ翌月五日迄ニ之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

分任收入官吏ノ調製シタル現金拂込仕譯書ハ主任收入官吏ニ於テ之ヲ取纏メ歳入徴收官ニ送付スルモノトス但シ歳入徴收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ分任收入官吏ヲシテ直接之カ送付ヲ爲サシムルコトヲ得

本條ハ收入官吏ノ現金拂込仕譯書ヲ歳入徴收官ニ送付ノ規定ナリ

分任收入官吏ノ現金拂込仕譯書ハ主任收入官吏ニ於テ取纏メ歳入徴收官ニ送付スルモノナリ但シ徴收官ニ於テ必要アルトキハ分任收入官吏ヲシテ直接送付セシムルモノナリ

第三章 資金前渡官吏

第一節 總 則

第二十五條 資金前渡官吏日本銀行ニ資金ヲ預託スル場合ニ於テハ該資金前渡官吏ヲ任命シタルモノ豫メ其ノ資格氏名ヲ當該日本銀行ニ通知スヘシ

本條ハ資金前渡官吏ノ資格氏名ヲ所屬上官ヨリ日本銀行ニ通知スルノ規定ナリ

第二十六條 資金前渡官吏ハ前條ノ場合ニ於テ照較ノ用ニ供スル爲メ其ノ印鑑ニ官職氏名ヲ記載シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

本條ハ資金前渡官吏ハ日本銀行ニ照較ノ用ニ供スル爲メ其ノ印鑑ニ官職氏名ヲ記載シ提出シ置クモノナリ

第二節 前渡資金ノ受入保管及引出

第二十七條 日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏ハ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ其ノ地ノ日本銀行ニ預託スヘシ當時小口ノ現金支拂ヲ要スル場合ニ於テ支出官ノ定ムル所要金額ニ付テハ此ノ限ニ非ラス

本條ハ資金前渡官吏カ其ノ保管現金ヲ其ノ地ノ日本銀行ニ義務預託スルノ規定ナリ但シ小口支拂ニ付テ支出官ノ定ムル金額ニ付テハ此ノ限リニアラス

第二十八條 日本銀行所在地外ニ在勤スル資金前渡官吏ハ其ノ在勤地又ハ出張地最寄ノ日本銀行ニ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ預託スルコトヲ得日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏在勤地外ニ於テ現金ヲ保管スルトキハ亦同シ

前條ハ日本銀行所在地ノ資金前渡官吏ニ付テノ規定ニシテ本條ハ日本銀行所在地外ノ勤務ノ資金前渡官吏ニ付テノ規定ナリ日本銀行ナキ土地ニ勤務ノ資金前渡官吏ハ最寄ノ日本銀行ニ保管現金ヲ預託スルコトヲ得ルノ規定ナリ又日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏在勤地外ニ於テ現金ヲ保管スル場合モ同シ

第二十九條 資金前渡官吏前二條ノ規定ニ依リ其ノ現金ヲ日本銀行ニ預託セムトスルトキハ之ニ第三號書式ノ預託金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ミ預託金領收書及小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ

本條ハ日本銀行ニ預託スルトキノ書式ニ付キ規定ナリ即チ第三號書式ノ預託金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ムモノナリ而シテ預託金領收書及小切手用紙ノ交付ヲ受クルモノナリ

第三十條 資金前渡官吏日本銀行ニ預託シタル現金ヲ引出サムトスルトキハ自己ヲ受取人トスル小切手ヲ振出スヘシ

本條ハ預託現金ヲ資金前渡官吏自分ニ於テ引出ノ規定ナリ其ノ場合ハ自己ヲ受取人トスル小切手ニ振出スノ規定ナリ

第三節 支拂

第三十一條 資金前渡官吏債主ヨリ支拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ請求ハ正當ナルカ資金交付ヲ受ケタル目的ニ違フコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲シ領收證ヲ徴スヘシ

從來ハ前渡官吏ノ仕拂ニ關シ斯ル規定ナシ本條ハ資金前渡官吏ノ調査事項ヲ規定セ

リ(一)請求ハ正當ナルカ(二)資金交付ヲ受ケタル目的ニ違フコトナキカヲ調査シ支拂ヲ爲シタルトキハ領收證書ヲ徴スヘキモノナリ

第三十二條 資金前渡官吏文官判任以上ノ者ノ俸給ノ支拂ヲ爲サントスルトキハ其ノ俸給額ヨリ國庫納金ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收書ヲ徴スヘシ

本條ハ文官判任以上ノ俸給支拂ニ付テノ規定ナリ此ノ場合ハ俸給額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ現金又ハ小切手ニテ支拂ヲ爲シ其ノ領收書ヲ徴スルモノナリ

第三十三條 民法ノ規定ニ依リ政府ト私人トノ債務ノ相殺アリタルトキハ資金前渡官吏ハ相殺額ヨリ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徴スヘシ

本條ハ相殺アル場合ノ支拂規定ナリ債務ノ相殺アリタルトキハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徴スルモノナリ

第三十四條 資金前渡官吏日本銀行預託金中ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ該預託金ニ對スル小切手ヲ振出スヘシ但シ受取人ニ於テ特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ハ此ノ限ニ非ラス

本條ハ預託金中ヨリ支拂ヲ爲ス場合ノ規定ナリ此ノ場合ハ小切手ヲ振出スノ原則ナリ

但シ受取人ニ於テ特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ハ現金ヲ交付スルモノナリ

第三十五條 資金前渡官吏ハ其ノ振出シタル小切手ニシテ振出日附後一年ヲ經過シ

日本銀行ニ於テ未タ支拂ヲ了セサルモノニ付テハ其ノ金額年度科目及債主名ヲ支出官ヲ經由シテ歳入徵收官ニ報告スヘシ

本條ハ資金前渡官吏ノ振出シタル小切手ニシテ振出後一年ヲ經過シ日本銀行ニテ支拂ヲ受ケサル場合ハ最早支拂不可能ノモノニ付歳入ト爲スノ規定ナリ其ノ歳入手續ノ爲メ其ノ金額年度科目及債主名ヲ支出官ヲ經由シテ歳入徵收官ニ報告スルノ規定ナリ此ノ場合支出官ヲ經由セザレハ支出官ニ於テ支拂ヲ爲シタル前渡金ニ對シ連絡ヲ取レサルヲ以テ支出官ヲ經由スルモノナリ而シテ支出官ハ歳入徵收官ト同一ナルヲ以テナリ

第三十六條 資金前渡官吏前條ノ金額ニ付歳入徵收官ヨリ納入ノ告知ヲ受ケタルト

キハ該金額ヲ券面額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ該告知書ニ添ヘ日本銀行ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

本條ハ前條ニ依リ振出小切手カ振出後一年經過後支拂ヲ了セサルモノニ付キ歳入徵收官ニ報告シタル小切手金額ヲ歳入徵收官ニ於テ徵收スルノ規定ナリ此ノ場合歳入

徴收官ヨリ納入告知書ヲ受ケタルトキハ資金前渡官吏ハ該金額ヲ券面金額トスル小切手ヲ其ノ官廳ヲ受取人トシ振出シ右告知書ヲ添付シ日本銀行ニ拂込ノ手續ヲナスモノナリ

第三十七條 第三十四條ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シ日本銀行ニ於テ支拂ヲ拒絕セラレタルカ爲メ其ノ所持人ヨリ償還ノ請求アリタルトキハ資金前渡官吏ハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認メタルトキハ事由ヲ詳ニシ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シ之ヲ所管大臣ニ具申シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

本條ハ第三十四條ノ小切手ニシテ振出日附後一年ヲ經過シ日本銀行ニ於テ支拂ヲ拒絕セラレ所持人カ償還請求ヲ爲ストキハ資金前渡官吏ハ調査ノ上償還スヘキモノナルトキハ其ノ事由ヲ詳細ニシ證憑書類ヲ添ヘ支出官經由ノ上之ヲ所管大臣ニ具申シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スルモノナリ

第三十八條 前二條ノ場合ニ於テ資金前渡官吏交替シタルトキハ後任官吏ニ於テ之カ手續ヲ爲スヘシ但シ後任官吏ナキ場合ニ於テハ其ノ殘務ヲ引繼キタル官吏其ノ手續ヲ爲スモノトス

本條ハ前二條手續中ニ於テ資金前渡官吏カ交替スルトキハ後任官吏ニ於テ之カ手續ヲナスヘキノ規定ナリ但シ後任官吏カ定マラサル場合ハ其ノ殘務整理ヲ引受ケタル官吏カ其ノ手續ヲナスヘキモノナリ

第三十九條 資金前渡官吏資金ヲ隔地ノ出納官吏ニ送付スル必要アル場合ニ於テハ日本銀行ニ之カ送金ヲ請求スルコトヲ得

本條ハ資金前渡官吏ヨリ隔地ノ資金前渡官吏又ハ其ノ他ノ出納官吏ニ送金スルノ規定ナリ此ノ場合ハ送金地カ日本銀行代理店ノ設ケアル地又ハ設ケナキ地ニ於テ郵便局所ノ地ニ於テモ日本銀行代理店支拂店ニ送金ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリ

第四十條 資金前渡官吏前條ノ送金ヲ請求セムトスルトキハ送金額ヲ券面金額トシ日本銀行ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ其ノ裏面ニ受取人ノ資格氏名支拂店名及送金額ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ預託金ヲ取扱フ日本銀行ニ交付シ領收證書ヲ徴スヘシ

前項ノ場合ニ於テ資金前渡官吏ハ第四號書式ノ預託金支拂通知書ヲ受取人ニ送付スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ資金前渡官吏電信送金ヲ要スルトキハ其ノ振出小切手ノ裏面

ニ其ノ旨ヲ記入スルト共ニ前項ノ通知書ニ代ヘ電信ヲ以テ受取人ニ通知スヘシ
 本條ハ資金前渡官吏カ隔地ノ出納官吏ニ送金ヲ日本銀行ニ請求スルトキハ日本銀行
 ヲ受取人トシ送金額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スモノナリ其ノ裏面ニハ受取人
 ノ資格氏名支拂店名送金ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ預託金ヲ爲シタル日本銀行ニ交付
 シ領收證書ヲ徴スヘキモノナリ此ノ場合ニ資金前渡官吏ハ第四號書式ノ預託金支拂
 通知書ヲ受取人ニ送付スルモノナリ

本條ノ場合ニ資金前渡官吏ハ電信送金ノ必要アルトキハ其ノ振出小切手ノ裏面ニ電
 信送金ト記入シ又預託金支拂通知書ニ代ヘ電信ニテ受取人ニ電信送金ノ旨ヲ通知ス
 ルモノナリ而シテ此ノ電信送金ハ日本銀行代理店ノ設ケアル地ニノミナスコトヲ得
 ルモ郵便局所ノ所在地ニアル出納官吏ニ對シテ電信送金ハ不可能ナリ

第四十一條 支出官事務規定中歳出支拂通知書記載ノ支拂場所ノ變更ニ關スル規定
 ハ前條ノ預託金支拂通知書ノ支拂店變更ニ付之ヲ準用ス

本條ハ預託金支拂通知書ニ記入アル支拂場所變更ニ關スル規定ナリ

第四十二條 毎年度ニ屬スル歳出金ノ支拂ヲ爲シ得ルハ翌年度四月三十日限リトス
 本條ハ資金前渡官吏ノ支拂ヲ爲シ得ル時期ニ付テノ規定ナリ支拂ハ支出官ノ振出ス

小切手又ハ資金前渡官吏モ同シク四月三十日限トセルモノナリ從來ヨリ一箇月繰上
 ケタルモノナリ

第四節 拂込及返納

第四十三條 資金前渡官吏第三十二條ノ手續ヲ爲シタルトキハ國庫納金ニ相當スル
 現金ニ第五號書式ノ國庫納金額表ヲ添ヘ歳入徵收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込
 ミ領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

本條ハ國庫納金ニ國庫納金額表ヲ添ヘ收入官吏ニ拂込ノ規定ナリ資金前渡官吏ハ判
 任以上ノ俸給額ノ内ヨリ國庫納金ヲ差引スル殘額俸給ヲ支拂ヒ殘リノ國庫納金ハ本
 條ニ依リ收入官吏ニ拂込モノナリ

第四十四條 資金前渡官吏第三十三條ノ手續ヲ爲シタルトキハ相殺金額ニ相當スル
 現金ニ第六號書式ノ相殺額表ヲ添ヘ歳入徵收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領
 收證書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ政府ノ債權者資金前渡官吏所屬廳以外ノ官廳ニ對スル債務ヲ以
 テ相殺シタルトキハ該官廳ノ歳入徵收官ヨリ納入告知書ヲ受ケ拂込ノ手續ヲナス
 ヘシ

本條ハ相殺金ヲ歳入ニ納付スルノ規定ナリ相殺金ヲ歳入ニ納付スルハ相殺金ニ第六號書式ノ相殺額表ヲ添付シ收入官吏ニ拂込ノ規定ナリ

相殺ノ場合ニ相手方タル債權者カ資金前渡官吏勤務廳以外ノ官廳ニ對スル債務ヲ以テ相殺シタルトキハ資金前渡官吏所屬以外ノ官廳ノ歳入徵收官ノ納入告知書ニ依リテ拂込ヲナスモノナリ

第四十五條 政府ノ收納スヘキ金額カ相殺額ト同額ナルトキ又ハ之ヲ超過スル場合ニ於テハ資金前渡官吏相殺金額ニ付前渡ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ收納金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ超過シタル金額及相殺ノ相手方ノ氏名ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

本條ハ政府ト人民トノ相殺額カ同額ナルトキ又ハ超過スルトキハ何レモ同額迄ハ前條ノ手續ニ依リ現金ニ相殺額表ヲ添付シ收入官吏ニ拂込ムモノナリ

相殺額ニシテ政府ノ方カ超過シタルトキハ其ノ超過額ハ資金前渡官吏ヨリ金額ト人民ノ氏名ヲ歳入徵收官ニ報告ス然ルトキハ歳入徵收官ヨリ納入告知書ヲ發行スルモノナリ

第四十六條 資金前渡官吏其ノ前渡ヲ受ケタル資金ニ付支出官又ハ歳入徵收官ヨリ

返納又ハ納入ノ告知書ヲ受ケタルトキハ現金ニ該告知書ヲ添ヘ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

本條ハ前渡金ノ殘額ニ對シ支出官又ハ歳入徵收官ヨリ返納又ハ納入ノ告知書ヲ受ケタルトキハ拂込ノ手續ヲナスノ規定ナリ即チ支出官ヨリ返納告知書又ハ歳入徵收官ヨリ納入告知書ヲ受ケタルトキハ現金ヲ添ヘ拂込ヲナスモノナリ

第四十七條 資金前渡官吏ハ前四條ノ場合ニ於テ日本銀行ニ預託シタル金額ヨリ拂込ヲ爲サムトスルトキハ拂込金額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スヘシ

本條ハ前四條即チ第四十三條ノ國庫納金第四十四條ノ相殺金第四十五條ノ相殺金、第四十六條ノ返納金ノ場合ニ自己ノ預託金ヨリ拂込ヲナストキハ當該官吏ニ對シ小切手ヲ振出シタル上拂込ヲナスノ規定ナリ

第四十八條 前條ノ規定ニ依リ振出ス小切手ハ當該官廳ヲ受取人トシ表面餘白ニ「第四十三條ノ場合ニ於テハ國庫納金」ノ印、第四十四條及第四十五條ノ場合ニ於テハ「相殺額」ノ印ヲ押捺スヘシ

本條ハ小切手振出ノ規定ニシテ前條ノ場合ハ當該官廳ヲ受取人トシ表面餘白ニ「國庫納金」又ハ「相殺額」ノ印ヲ押スノ規定ナリ

第五節 證明

第四十九條 資金前渡官吏日本銀行ヨリ預託金月計突合表ニ支拂濟小切手其ノ他證憑書類ヲ添へ送付ヲ受ケタルトキハ證憑書類ト對照シ證明ノ上五日內ニ之レヲ日本銀行ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

本條ハ日本銀行ヨリノ預託金月計突合表證明ノ規定ナリ月計突合表ニ支拂濟小切手其ノ他ノ證憑書類ヲ添付シ證明ヲ求ムルトキハ五日以内ニ證明ノ上返付スヘキモノナリ但シ相違ノ點アリタルトキハ其ノ事由ヲ附記スヘキモノナリ

第四章 歳入歳出外現金出納官吏

第五十條 歳入歳出外現金出納官吏現金ヲ受領シタルトキハ領收證書ヲ交付シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

本條ハ歳入歳出外現金ヲ領收シタルトキハ領收書ヲ本人ニ交付シ其ノ領收シタル事ヲ歳入歳出外現金出納官吏所屬官廳ニ報告スルノ規定ナリ

第五十一條 歳入歳出外現金出納官吏ノ領收シタル現金ヲ大藏省預金部預金ニ拂込ヲ爲ス場合ニ於テハ保管金取扱規定及預金部預金取扱規定ノ定ムル處ニ依ルヘシ

本條ハ歳入歳出外現金ヲ預金部預金ニ拂込ヲ爲ス場合ハ保管金取扱規定及預金部預

金取扱規程ニ依リ預金スルノ規定ナリ

第五十二條 歳入歳出外現金出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ拂渡シタルトキハ受取人ヨリ領收證書ヲ徴シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

本條ハ歳入歳出外現金出納官吏保管ニ係ル現金ヲ本人ニ拂渡シタルトキ受領證ヲ徴收スルノ規定ナリ即チ保管ニ依ル現金ヲ本人ニ交付シタルトキハ領收證ヲ徴シ所屬官廳ニ報告スヘキモノナリ

本條ハ其ノ保管ニ係ル現金トアルヲ以テ既ニ大藏省預金部預金ニ拂込タル場合ニ於テハ現金出納簿ノ記帳モ拂出登記シ殘高ニナスヘキモノニアラサルモ大藏省現金出納簿改正帳簿ハ預金部預金ニナス場合モ同ク殘高ニ爲シ置クコトナルヲ以テ歳入歳出外現金出納内譯簿記帳モ殘高ニ置クコトトナリタルモノナリ

第五章 繰替拂出納官吏

第五十三條 本令ニ於テ繰替拂出納官吏ト稱スルハ會計規則第六十三條ノ規定ニ依リ其ノ取扱ニ係ル現金ノ繰替使用ヲ爲ス出納官吏ヲ云フ

本條ハ會計規則第六十三條ニ依リ鐵道官署遞信官署ノ出納官吏又ハ出納員ヲシテ其ノ取扱ニ係ル歳入歳出金及歳入歳出外現金ヲ交互ニ繰替使用スル出納官吏ヲ繰替

拂出納官吏ト云フト規定セリ所謂出納官吏ナルモノカ一種類増加セルモノナリ

第五十四條 繰替拂出納官吏ハ其ノ取扱ニ係ル歳入金、歳出金及歳入歳出外現金ニ付交互振替及繰替計算ヲ以テ之カ受拂ヲ爲シ其ノ現金ハ之ヲ一團トシテ取扱フヘシ本條ハ繰替拂出納官吏ハ其ノ取扱ニ係ル三種ノ現金ヲ交互ニ振替シ又ハ繰替計算ニテ受拂ヲ爲シ其ノ現金ハ總テ一團トシテ取扱フヘキコトヲ規定セリ出納簿ヲ一冊ニ混記スルモノナリ別ニ内譯簿ヲ設備シ種別ヲ明瞭ニナスモノナリ

第五十五條 繰替拂出納官吏ハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外其ノ保管ニ係ル現金ヲ日本銀行ニ預託スヘシ

本條ハ繰替拂出納官吏ノ保管金ハ日本銀行ニ預託スルノ規定ナリ此ノ場合ハ利子ヲ付セサルモノナリ

第五十六條 第三十九條乃至第四十一條ノ規定ハ帝國鐵道官署ニ於ケル繰替拂出納官吏隔地ノ債主又ハ出納官吏ニ送金ヲ爲ス必要アル場合ニ付之ヲ準用ス但シ預託金支拂通知書ハ第七號書ニ依ルモノトス

前項ノ場合ニ於テ運輸交通ノ不便ノ地ニ在ル債主又ハ出納官吏ヨリ其ノ住所又ハ居所ニ送金ヲ求メタルトキハ其ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得此

ノ場合ニ於テハ預託金支拂通知書ニ代ヘ適宜ノ通知書ヲ受取人ニ送付スヘシ

本條ハ繰替拂出納官吏モ隔地ノ繰替拂出納官吏ニ現金ヲ送付ノ必要ノ場合ハ預託シアル日本銀行ニ送金ヲ請求シ日本銀行ヲ受取人トスル小切手ヲ振出スコトヲ得ルノ規定ナリ此ノ場合ハ繰替拂出納官吏ニ於テ第七號書式ノ預託金支拂通知書ヲ受取人ニ送付スルモノナリ

交通不便ノ地ニ在ル債主又ハ出納官吏ヨリ其ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得ルモノナリ

第五十七條 第十三條乃至第十七條、第二十五條、第二十六條、第二十九條、第三十條、第三十二條乃至第三十八條、第四十二條、第四十九條、第五十條、第五十二條ノ規定ハ繰替拂出納官吏ニ之ヲ準用ス

第十三條ハ告知書ニ依ル現金納付、第十四條ハ告知書ニ依ラス現金收入、第十五條、第十六條、第十七條ハ外國ニ於ケル收入、第二十五條ハ出納官吏ノ氏名通知、第二十六條ハ印鑑通知、第二十九條ハ預託金拂込書、以下條文ニ依ルモノハ繰替拂出納官吏ニモ準用スルノ規定ナリ

第五十八條 本令以外ニ繰替拂出納官吏ノ事務取扱ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

モノナリ

第六章 事務引継手續

第五十九條 出納官吏交替ノ場合ニ於テハ前任出納官吏ハ現金出納簿ニ締切ヲ爲シ引繼ノ年月日ヲ記入シ後任出納官吏ト共ニ記名捺印スヘシ

本條ハ出納官吏交替手續ニ關スル規定ナリ交替ノ場合ハ現金出納簿ニ記帳式ニ依ル締切ヲ爲シ引繼年月日記帳後前任後任共ニ記名捺印スヘシ此ノ捺印ハ認印ニテナスモノナリ

第六十條 日本銀行ニ預託金ヲ有スル前任出納官吏ハ前條ノ締切ヲ爲シタル日ニ於ケル預託金現在高ノ證明ヲ日本銀行ニ對シ請求スヘシ

本條ハ交替ノ場合ニ於ケル現金出納簿締切ノ日ニ於ケル日本銀行預託金現在高ノ證明ヲ日本銀行ニ對シ請求シ此ノ證明書ヲ引繼書ニ添付シ置クモノナリ

第六十一條 前任出納官吏ハ第八號書式ノ現金現在高書又ハ現金及預託金現在高書並其ノ引繼クヘキ帳簿證憑其ノ他ノ書類ノ目錄各二通ヲ調製シ後任出納官吏立會ノ上現物ニ對照シ受授ヲ爲シタル後現在高書及目錄ニ年月日及受授ヲ了シタル旨ヲ記入シ兩出納官吏ニ於テ記名捺印シ各一通ヲ保管スヘシ

本條ハ交替ノ場合ニ第八號書式ノ現金現在高書又ハ現金及預託金現在高書並引繼ノ帳簿證憑其ノ他ノ書類ノ目錄二通ヲ作り前任後任出納官吏立替ノ上現物ニ對照シ受授ヲ爲シ現在高書及目錄ニ年月日及受授ヲ了シタル旨ヲ記入シ雙方記名捺印ノ上各一通ヲ保存スルモノナリ

第六十二條 前條ノ手續ヲ了シタルトキハ前任出納官吏ハ後任出納官吏ト共ニ記名捺印ノ上預託金現在高引繼通知書ヲ所屬官廳及日本銀行ニ送付スヘシ

前項ノ通知書ニハ前任出納官吏ノ振出シタル小切手ニシテ日本銀行ニ於テ未タ支拂ヲ了セサル金額ヲ區分記載スヘシ

本條ハ預託金現在高引繼通知書ニ前任後任出納官吏共ニ記名捺印シ自己所屬廳ト日本銀行ニ送付スルモノナリ

預託金現在高引繼通知書ニハ前任出納官吏ノ振出シタル小切手ニシテ日本銀行ニ於ケル未支拂金額ヲ區分記載スヘシ之レハ日本銀行ニテ聞キタル上ニアラサレハ判明セサルモノナリ

第六十三條 第二十四條ノ規定ニ依リ調製スヘキ現金拂込仕譯書ハ後任收入官吏ニ於テ之ヲ調製スヘシ

本條ハ收入官吏ノ作ル現金拂込仕譯書ナルモノヲ後任收入官吏ニ於テ作ルノ規定ナリ

第六十四條 前任出納官吏死亡又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引繼ヲ爲スコト能ハサルトキハ會計規則第四百十六條ノ規定ニ依リ計算書ノ調製ヲ命セラレタル官吏本章ノ定ル所ニ依リ之カ手續ヲ爲スヘシ

本條ハ死亡又ハ其ノ他ノ事由ニテ引繼ノ出來サルトキハ計算書ヲ代理ニテ作り即チ代理調製者ニ於テ引繼手續ヲナスノ規定ナリ

第七章 雜則

第六十五條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ亡失シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ所屬官廳ニ報告スヘシ

本條ハ保管現金ヲ亡失ノトキハ遲滯ナク所屬官廳ニ報告スルノ規定ナリ

第六十六條 出納官吏領收濟報告書現金拂込書又ハ預託金拂込書ノ記載事項中誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ歳入徵收官又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ

本條ハ誤謬訂正ハ翌年度五月三十一日限ナルノ規定ナリ領收濟報告書現金拂込書預

託金拂込書ニ誤謬アルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ歳入徵收官又ハ日本銀行ニ訂正ヲ請求スルモノナリ

第六十七條 出納官吏預託金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ受取人ヲシテ該預託金支拂通知書ヲ提出セシメ之カ訂正ヲ爲シ其ノ事由ヲ記入シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ

本條ハ隔地ノ出納官吏ニ送金ノ場合預託金支拂通知書ヲ發送スルヲ以テ此ノ通知書ニ金額以外ノ誤謬事項アリタルトキハ受取人ヲシテ該預託金支拂通知書ヲ提出セシメ之ヲ訂正スルノ規定ナリ之レハ期限ナシ又金額ノ訂正ハ出來サルモノナリ

第六十八條 出納官吏第四十條及第五十六條ニ規定スル小切手ノ裏面記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ

本條ハ小切手ノ裏面記載事項ニ誤謬アリタルトキハ日本銀行ニ訂正ヲ請求スルノ規定ナリ

第六十九條 出納官吏現金拂込ニ係ル領收書又ハ預託金領收證書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ日本銀行ヨリ其ノ拂込濟ナル證明ヲ受クヘシ

本條ハ拂込又ハ預託金ノ領收證書ヲ亡失又ハ毀損ノ場合ニ日本銀行ヨリ其ノ拂込濟

ナル證明ヲ受ケ之ニテ證憑書類ニ代ユルモノナリ

第七十條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ關スル規定ハ第四十條第二項及第五十六條第一項ニ規定スル預託金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ付之ヲ準用ス

本條ハ預託金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損ノ場合ハ支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損ノ取扱ニ關スル規定ヲ準用スルノ規定ヲ準用スルノ規定ナリ

第七十一條 出納官吏預託金月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ

本條ハ預託金月計突合表證明後ノ誤謬アリタル場合ノ證明規定ナリ

七十二條 出納官吏第三十九條又ハ第五十六條ノ規定ニ依リ送金ヲ依頼シタル後其ノ必要ナキニ至リタルトキハ支拂未了ナル場合ニ限リ日本銀行ニ對シ預託金ニ戻入ヲ請求スヘシ

本條ハ隔地ノ出納官吏債主ニ送金ノ爲メ日本銀行ニ小切手ヲ振出シ送金請求後其ノ必要ナキニ至リタルトキ未支拂ノトキニ限リ日本銀行ニ對シ元ノ預託金ニ引戻ヲ請求スルノ規定ナリ

附則

第七十五條 本令施行前金庫ニ寄託ヲ爲シタル現金ハ本令ニ依リ日本銀行ニ預託シタルモノト看做ス

本條ハ本令施行前金庫ニ義務寄託ノ現金ハ其ノ儘本令ニ依リ日本銀行ニ預託シタルモノト看做スヲ以テ小切手ヲ發行スルモノナリ

第七十六條 本令施行前發行シタル保管金引出切符又ハ雜部保管金支拂通知書ハ本令ニ依リ發行シタル小切手又ハ預託金支拂通知書ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

本條ハ本令施行前發行ノ引出切符又ハ仕拂通知書ハ小切手又ハ預託金支拂通知書ニ準シテ取扱フヘキ旨ヲ規定セリ

會計法

改正(大正十年四月)
法律第四二號

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一、會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度七月三十一日迄ニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ之ヲ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 毎會計年度ニ於ケル經費ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノヲ除クノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第五條 政府ハ日本銀行ヲシテ國庫金出納ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ規定ニ依リ日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ預金トス

第六條 政府ハ國庫金出納上必要アルトキハ大藏省證券ヲ發行シ又ハ日本銀行ヨリ

借入ヲ爲スコトヲ得

大藏省證券及借入金ハ當該年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

大藏省證券及借入金ノ最高額ハ毎年度帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第二章 豫算

第七條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ク經費ニ不足ヲ生シタル場合ヲ除クノ外追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス

第八條 歳入歳出ノ總豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添付スヘシ

一、歳入豫算明細書

二、各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第九條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一豫備金

第二豫備金

第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第十條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ其ノ第一豫備金支出ニ係ルモノハ年度經過後其ノ第二豫備金支出ニ係ルモノハ次ノ常會ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス

第十一條 政府ハ豫算ニ定ムルモノ及特ニ帝國議會ノ協賛ヲ經タルモノヲ除クノ外災害事變其ノ他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テハ翌年度ニ互ル契約ヲ締結スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキ金額ハ毎年度帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十二條 租稅其ノ他ノ歳入ハ法令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ徵收又ハ收納スヘシ法令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅其ノ他ノ歳入ヲ徵收又ハ收納スルコトヲ得ス但シ各廳事務員ヲシテ收納ヲ分掌セシムル場合又ハ日本銀行ヲシテ收納ヲ取扱ハシムル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四章 支出

第十三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第十四條 國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

第十五條 國務大臣其ノ所管定額ヲ支出セムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ日本銀行ヲ支拂人トスル小切手ヲ振出スヘシ但シ他ノ官吏ニ委任シテ小切手ヲ振出サシムルコトヲ得

第十六條 國務大臣ハ債主ノ爲ニスルニ非サレハ小切手ヲ振出スコトヲ得ス但シ以下四條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏又ハ日本銀行ニ對シ資金ヲ交付スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定ムル經費ニ限リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲勅令ノ定ムル所ニ依リ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

第十八條 國務大臣ハ日本銀行ニ命シ國債ノ元利拂ヲ爲サシムル爲之カ資金ヲ日本銀行ニ交付スルコトヲ得

第十九條 國務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金支拂ヲ爲サシムル爲當該官吏ヲシテ其ノ保管ニ係ル歳入金歳出金又ハ歳入歳出外現金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金ヲ補填スル爲國務大臣ハ之カ資金ヲ當該官吏ニ交付スルコトヲ得

第二十條 國務大臣隔地者ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ必要ナル資金ヲ日本銀行ニ交付シ之カ支拂ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 國務大臣ハ勅令ヲ以テ定メタル場合ニ限り前金拂又ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

但シ軍艦兵器彈藥若ハ外國ヨリ直接購入スル機械圖書ノ代價及官公署ニ對シ支拂フヘキ經費ヲ除クノ外物件ノ製造若ハ買入又ハ工事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 國務大臣ハ特殊ノ經理ヲ必要トスル場合ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五章 決算

第二十三條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル歳入歳出ノ總決算ハ翌年開會ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第二十四條 總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用キ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

不納缺損額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

支出済歳出額

翌年度繰越額

不用額

第二十五條 總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添付スヘシ

一、歳入決算明細書

二、各省決算報告書

三、國債計算書

第六章 歳計剩餘定額繰越過年度支出豫算外收入及定額戻入

第二十六條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十七條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事製造又ハ物

品ノ買入若ハ運搬ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ竣工又ハ納入若ハ運搬ヲ遅延

シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコト

ヲ得

第二十八條 數年ヲ期シテ竣工スヘキ工事製造其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總

額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ支出殘額ヲ竣工年度迄遞次繰越シ使用スルコトヲ得

第二十九條 過年度ニ屬スル經費ハ現年度定額ヨリ支出スヘシ但シ豫備金ヲ以テ補

充シ得ヘキモノヲ除クノ外其ノ經費所屬年度ノ毎項定額中不用ト爲リタル金額ヲ

超過スルコトヲ得ス

第三十條 出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入其ノ他豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ

歳入ニ組入ルヘシ

但シ支出濟歳出ノ返納金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ

戻入ルルコトヲ得

第七章 契約

第三十一條 政府ニ於テ賣買貸借請負其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ勅令ヲ以

テ定メタル場合ヲ除クノ外總テ公告シテ競争ニ付スヘシ

國務大臣前項ノ方法ニ依リ契約ヲ爲スヲ不利ト認ムル場合ニ於テハ指名競争ニ付

シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ不動産賣拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八章 時効

第三十二條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニシテ時効ニ關シ他ノ法律ニ規定

ナキトキハ五年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給

付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十三條 金錢ノ給付ヲ目的トスル政府ノ權利ニ付消滅時効ノ中斷停止其ノ他ノ

事項ニ關シ適用スヘキ他ノ法律ノ規定ナキトキハ民法ノ規定ヲ準用ス政府ニ對スル權利ニシテ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノニ付亦同シ

第三十四條 法令ノ規定ニ依リ政府ノ爲ス納入ノ告知ハ民法第五百五十三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力ヲ有ス

第九章 出納官吏

第三十五條 出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ

出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第三十六條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十七條 國務大臣ハ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各廳ノ事務員ヲシテ現金又ハ物品ノ出納保管ヲ分掌セシムルコトヲ得

出納官吏ニ關スル規定ハ前項ノ事務員ニ付之ヲ準用ス

第三十八條 第十五條ニ定メタル小切手振出ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

トヲ得ス

第十章 雜 則

第三十九條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四十條 政府ハ其ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第四十一條 日本銀行ハ其ノ取扱ヒタル國庫金ノ出納國債ノ發行ニ依ル收入金ノ收支第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル資金ノ收支及前條ノ規定ニ依リ取扱ヒタル有價證券ノ受拂ニ關シ會計検査院ノ検査ヲ受クヘシ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十七年法律第十六號明治三十三年法律第五十號及明治四十四年法律第二十四號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ爲シタル第二豫備金ノ支出竝本法施行ノ日ノ屬スル年度ノ前年度及前

前年度ノ決算ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
 本法施行前ニ期滿免除ト爲ラサル權利ニ付テハ本法其ノ他ノ法律中時効ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ期間ノ起算點ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル
 本法施行前ニ進行ヲ始メタル期滿免除ノ期間カ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ從前ノ規定ニ依ル但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法其ノ法律ニ定メタル時効ノ期間ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ本法其ノ他ノ法律ヲ適用ス
 前三項ニ規定スルモノヲ除クノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

會計規則

(大正十一年一月勅令第一號)

第一章 總則

第一節 會計年度所屬區分

第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一、納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期末日ノ屬スル年度
- 二、隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發スルモノハ納入ノ告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 三、隨時ノ收入ニシテ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歳出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

- 一、國債ノ元利、年金、恩給ノ類ハ支拂期日ノ屬スル年度
- 二、諸拂戻金、缺損補填金、償還金ノ類ハ其ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 三、俸給、給料、手當、旅費、手数料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度
- 四、使用料、保管料、電燈、電力料ノ類ハ其ノ支拂ノ原因タル事實ノ存シタル期間ノ屬スル年度
- 五、工事製造費、物件ノ購入代價、運賃ノ類ハ其ノ支拂ヲ爲スヘキ日ノ屬スル年度
- 六、前各號ニ該當セサル費用ニシテ繰替拂ヲ爲シタルモノハ其ノ繰替拂ヲ爲シタル日ノ屬スル年度、其ノ他ノモノハ小切手ヲ振出シタル日ノ屬スル年度

第二節 國庫金ノ出納

第三條 日本銀行ハ本令ニ依ルノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金出納ノ事務ヲ取扱フヘシ

日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ政府預金トシ其ノ種別及受拂ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四條 政府預金ニハ大藏大臣ノ特ニ定ムルモノ及政府ノ爲ニスル支拂ノ準備ニ必要ナル金額ヲ除クノ外總テ相當ノ利子ヲ附セシム

第五條 毎年度所屬歳入金ヲ日本銀行ニ於テ受入ルルハ翌年度四月三十日限トス但シ左ニ掲クル場合ニ於テハ翌年度五月三十一日迄之カ受入ヲ爲スコトヲ得

- 一、 出納官吏ヨリ其ノ領收シタル歳入金ノ拂込アリタルトキ
 - 二、 市町村又ハ之ニ準スヘキモノヨリ其ノ收納シタル歳入金ノ送付アリタルトキ
 - 三、 國庫内ニ於テ移換ニ依ル歳入金ノ受入ヲ爲ストキ
- 毎年度所屬歳出金ヲ日本銀行ニ於テ支拂フハ翌年度五月三十一日限トス

第二章 豫算

第一節 總豫算

第六條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ附スヘシ

第七條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明ニスヘシ

第八條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第九條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 歳入豫算明細書

第十條 大藏大臣ハ毎年度歳入ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較ヲ爲シ歳入豫算明細書ヲ調製スヘシ

歳入豫算明細書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項ノ金額ヲ各目ニ區分シ各項毎ニ増減ノ事由及計算ノ基ヲ示スヘシ

第三節 豫定經費要求書

第十一條 各省大臣ハ毎年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ前年度ノ豫算額ト比較

ヲ爲シ豫定經費要求書ヲ製シ前年度九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
第十二條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ各項中所要ノ金額ヲ
各目ニ區分シ必要ノ場合ニ於テハ更ニ之ヲ細分シ經費所要ノ理由及計算ノ基ク所
ヲ示スヘシ

目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第十三條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ
説明ヲ附スヘシ

第四節 支拂豫算

第十四條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ支出官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ支
拂豫算ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

支拂豫算ハ各款各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十五條 支拂豫算ヲ更定シタルトキハ其ノ計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付
スヘシ

第十六條 大藏大臣支拂豫算又ハ其ノ更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ日本
銀行ニ通知スヘシ

第五節 豫備金支拂

第十七條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ明
ニシタル要求書ヲ調製シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知ス
ヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額、理由及計算ノ基ク所ヲ
明ニシタル要求書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ要求書ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣ハ金額、理由及計算ノ基
ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知シ且其ノ事項及金額ヲ官報ニ
掲載スヘシ

第二十四條 第一豫備金ヲ以テ補充シタル金額ハ各省大臣其ノ計算書ヲ調製シ各費
途毎ニ説明ヲ附シ翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第一豫備金支出ノ總計算書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 第二豫備金ヲ以テ支辨シタル金額ハ各省大臣其ノ調書ヲ調製シ各費途毎ニ説明ヲ附シ毎年度帝國議會常會ノ開會後直ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ第二豫備金支出ノ總調書ヲ調製シ之ニ説明ヲ附シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ調書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第六節 翌年度ニ互ル契約

第二十六條 各省大臣災害事變其ノ他避クヘカラサル事由ノ爲會計法第十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年度ニ互ル契約ヲ結フノ必要アリト認ムルトキハ金額理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十七條 大藏大臣前條ノ承認ヲ爲シタルトキハ金額理由及計算ノ基ク所ヲ明ニシタル書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三章 收入

第一節 徴收

第二十八條 歳入徴收官ハ法律又ハ勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外各省大臣

ノ定ムル各廳ノ長ヲ以テ之ニ充ツ各省大臣必要アリト認ムルトキハ大藏大臣ト協議シテ前項ノ規定ニ特例ヲ設クルコトヲ得

歳入徴收官必要アリト認ムルトキハ他ノ官吏ヲシテ其ノ徴收事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二十九條 支出済ト爲リタル歳出ノ返納金ヲ歳入ニ組入レムトスル場合ニ於テハ該經費ヲ支出シタル支出官之カ歳入徴收官トシテ徴收ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條 歳入徴收官租稅其ノ他ノ歳入ヲ徴收セムトスルトキハ法令ニ違フコトナキカ所屬年度及歳入月日ヲ誤ルコトナキカラ調査シ之ヲ決定スヘシ

第三十一條 歳入徴收官前條ノ決定ヲ爲シタルトキハ納人ニ對シ其ノ納付スヘキ金額期日及場所ヲ記載シタル書面ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スヘシ但シ出納官吏又ハ出納員ニ即納セシムル場合ハ口頭ヲ以テ納入ノ告知ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納入ノ告知書ヲ發セサルモノハ總テ納入ノ告知書ヲ發シタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二節 收納

第三十三條 出納官吏又ハ出納員租稅其ノ他ノ歳入金ヲ收納シタルトキハ領收證書

ヲ納人ニ交付スヘシ此ノ場合ニ於テハ出納官吏收納濟ノ旨ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第三十四條 出納官吏又ハ出納員ノ收納シタル現金ハ出納官吏之ヲ日本銀行ニ拂込ムヘシ

第三十五條 日本銀行ニ於テ歳入金ヲ收納シ又ハ歳入金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ納人又ハ拂込人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第三十六條 毎年度所屬歳入金ヲ出納官吏又ハ出納員ニ於テ收納スルハ翌年度四月三十日限トス

第三節 報告

第三十七條 歳入徵收官ハ毎月徵收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ之ヲ歳入事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十八條 歳入事務管理廳ハ徵收報告書ニ依リ毎月徵收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第一節 總則

第三十九條 勅令ヲ以テ指定シタル費途ニ對シテハ大藏大臣ノ承認ヲ經ルニ非サレハ之ニ他ノ費途ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第四十條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第四十一條 各省大臣他ノ官吏ヲシテ其ノ所管定額ノ支出ヲ爲サシメムトスルトキハ支拂豫算ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第四十二條 支出官ニ事故アルトキ各省大臣ハ臨時他ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第四十三條 本章ノ規定ハ商法中小切手ニ關スル規定ノ適用ヲ妨ケス

第二節 小切手ノ振出

第四十四條 支出官ハ小切手振出前其ノ經費ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキカヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ且該經費ハ支拂豫算額ニ超過スルコトナキカ、所屬年度及支出科目ヲ誤ルコトナキカヲ調査スヘシ

第四十五條 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ受取人ノ氏名、金額、年度、支出科目、番號其ノ

他必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四十六條 小切手ハ一項毎ニ之ヲ振出スヘシ

第四十七條 支出官ノ振出ス小切手ハ大藏大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ記名式所持人拂ト爲スヘシ

第四十八條 支出官隔地ノ債主ニ支拂ヲ要スルトキハ支拂場所ヲ指定シ日本銀行ニ之カ資金ヲ交付シ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ

前項ノ規定ハ隔地ノ出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條 支出官小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第五十條 毎年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ小切手ヲ振出スハ翌年度四月三十日限トス但シ國庫内ニ於ケル移換ノ爲ニスル支出又ハ會計法第十九條ノ規定ニ依リ歳出金ニ繰替使用シタル現金補填ノ爲ニスル支出ニ付テハ翌年度五月三十一日迄小切手ヲ振出スコトヲ得

第三節 支 拂

第五十一條 小切手ノ呈示アリタルトキハ日本銀行ハ其ノ小切手カ法令ニ違フコトナキカ券面金額カ支拂豫算各項定額ノ殘高ニ超過スルコトナキカヲ調査シ之カ支

拂ヲ爲スヘシ

前項ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ十日ヲ經過シタルモノト雖一年ヲ經過セサル場合ニ於テハ之カ支拂ヲ爲スヘシ

第五十二條 日本銀行第四十八條ノ規定ニ依リ資金ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ小切手ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ債主又ハ出納官吏ニ對シ之カ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 毎年度小切手振出濟金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十六條ノ歲計剩餘ニ組入レス之ヲ繰越整理スヘシ

第五十四條 前條ノ規定ニ依リ繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スルモノハ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

前項ノ規定ハ日本銀行第五十二條ノ場合ニ於テ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ノ返納ニ付之ヲ準用ス

第五十五條 支出官小切手ノ所持人ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ之ヲ所管大臣ニ提

出シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十六條 前條ノ規定ハ支出官第五十二條ノ場合ニ於テ其ノ支拂ヲ受ケサル債主又ハ出納官吏ヨリ更ニ支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四節 資金前渡前金拂概算拂及渡切經費

第五十七條 會計法第十七條ノ規定ニ依リ主任ノ官吏ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲其ノ資金ヲ當該官吏ニ前渡スルハ左ニ掲クル經費ニ限ル

- 一、陸軍ノ軍隊、學校及病院並海軍ノ部隊、學校、病院及艦船ニ屬スル經費
- 二、陸海軍ノ行軍又ハ演習ニ要スル經費
- 三、陸軍ニ於テ馬匹又ハ糧秣ヲ生産者ヨリ直接購入スル場合ニ要スル經費
- 四、官船ニ屬スル經費
- 五、外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費
- 六、運輸通信ノ不信ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費
- 七、廳中當用ノ雜費及旅費但シ一年ノ總額五千圓ヲ超ユルコトヲ得ス
- 八、場所ノ一定セサル事務所ノ經費
- 九、各廳直營ノ工事製造又ハ造林ニ要スル經費但シ一主任官ニ付常時五萬圓ヲ超

ユルコトヲ得ス

十、監獄作業賞與金

十一、囚人及刑事被告人押送費

十二、證人、鑑定人、通事又ハ參考人ニ支給スル旅費其ノ他ノ給與

第五十八條 前條ノ規定ニ依リ資金ヲ前渡スルハ左ノ區分ニ依ル

- 一、常時ノ費用ニ係ルモノハ每一月分以内ノ費額ヲ豫定シテ交付スヘシ但シ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費又ハ支拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ依リ六月分以内ヲ交付スルコトヲ得
- 二、隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シ事務上差支ナキ限り成ルヘク分割シテ交付スヘシ

第五十九條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ前金拂ヲ爲シ得ルハ左ニ掲クル經費ニ

限ル但シ第九號乃至第十三號ニ掲クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一、軍艦、兵器又ハ彈藥ノ代價

二、外國ヨリ直接購入スル機械又ハ圖書ノ代價

- 三、朝鮮、臺灣樺太、關東州又ハ南洋群島内ニ居住スル者ニ支給スル徴兵旅費
 - 四、運賃
 - 五、外國ニ於テ支拂ヲ要スル土地又ハ家屋ノ借料及公課
 - 六、政府ノ買収又ハ收用ニ係ル土地ノ上ニ存スル物件ノ移轉料
 - 七、官公署ニ對シ支拂フヘキ經費
 - 八、外國ニ於テ研究又ハ調査ニ從事スル者ニ支給スル學資金其ノ他ノ給與
 - 九、交通至難ノ場所ニ勤務スル者又ハ艦船乗組ノ者ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與
 - 十、軍人、軍屬及陸海軍ノ職工ニ支給スル旅費
 - 十一、外國在勤陸海軍武官ニ支給スル俸給其ノ他ノ給與
 - 十二、補助金
 - 十三、諸謝金
- 第六十條 會計法第二十一條ノ規定ニ依リ概算拂ヲ爲シ得ルハ左ニ掲クル經費ニ限
ル但シ第三號ニ掲クル經費ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス
- 一、旅費
 - 二、官公署ニ對シ支拂フヘキ經費

三、補助金又ハ補給金

- 第六十一條 會計法第二十二條ノ規定ニ依リ事務費ノ全部又ハ一部ヲ主務官吏ニ對シ渡切ヲ以テ支給シ得ルハ左ニ掲クル官署ノ經費ニ限ル
- 一、在外各廳
 - 二、逕信官署
 - 三、區裁判所出張所
 - 四、朝鮮、臺灣樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル官署
- 前項ノ官署ノ種類、渡切ト爲スヘキ歲出科目及支給方法ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五節 繰替拂

- 第六十二條 各省大臣ハ左ニ掲クル經費ノ支拂ヲ爲サシムル爲出納官吏ヲシテ其ノ保管ニ依ル前渡ノ資金ヲ繰替使用セシムルコトヲ得但シ第四號ニ掲クル經費ニ繰替使用スヘキ資金ハ艦船經費繰替金ニ限ル
- 一、旅費
 - 二、埋葬費

三、在外公館ニ於ケル難民貸與金
四、海軍省所管艦船經費

第六十三條 所管大臣ハ左ニ掲クル官署ノ出納官吏又ハ出納員ヲシテ其ノ取扱ニ係ル歳入金、歳出金及歳入歳出外現金ヲ交互ニ繰替使用セシムルコトヲ得

一、鐵道官署

二、遞信官署

前項ノ規定ニ依ル現金ノ繰替使用ニ關スル手續ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第六節 年度開始前支出

第六十四條 各省大臣ハ資金前渡ヲ爲シ得ル經費ニ限リ必要己ムヲ得サル場合ニ於テハ當該年度開始前之カ資金ヲ交付スルコトヲ得

第六十五條 前條ノ場合ニ於テハ各省大臣其ノ前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ計算書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ

大藏大臣前項ノ計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ審査ノ上之ヲ日本銀行ニ通知スヘシ

第七節 報告

第六十六條 支出官ハ毎月支出濟額報告書ヲ調製シ之ヲ所管大臣ニ送付スヘシ

第六十七條 所管大臣ハ支出濟額報告書ニ依リ毎月支出總報告書ヲ調製シ支出濟額報告書ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五章 決算

第一節 總決算

第六十八條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ依リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第六十九條 大藏大臣ハ總決算ニ歳入決算明細書、各省決算報告書及國債計算書ヲ添ヘ會計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節 歳入決算明細書、各省決算報告書及收入支出計算書

第七十條 大藏大臣ハ歳入豫算明細書ト同一ノ區分ニ依リ歳入決算明細書ヲ調製シ各項毎ニ豫算ニ對スル増減ノ事由ヲ説明スヘシ

第七十一條 歳入事務管理廳ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ毎年度收入濟歳入額ニ付豫算ニ對スル増減計算書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十二條 各省大臣ハ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ依リ其ノ省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ翌年度七月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第七十三條 歳入徴收官ハ會計検査院ニ證明ノ爲歳入徴收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ歳入事務管理應ニ送付シ歳入事務管理應ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十四條 支出官ハ會計検査院ニ證明ノ爲支出計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十五條 前二條ノ計算書ハ歳入事務管理應又ハ所管大臣ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル官吏ヲシテ直ニ之ヲ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三節 國債計算書

第七十六條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第七十七條 國債計算書ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一、當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現在高ヲ示ス計算
- 二、當該年度ニ於テ償還シ及支拂ヒタル各種國債ノ元高及利息ノ計算
- 三、最近五年度間ニ於ケル各種國債増減ノ情况ヲ示ス計算

第六章 定額繰越及定額戻入

第一節 定額繰越

第七十八條 各省大臣會計法第二十七條及第二十八條ノ規定ニ依リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ調製シ各事件毎ニ其ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ

繰越計算書ハ歳出豫算ト同一ノ區分ニ依リ調製シ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

- 一、繰越ヲ要スル項ノ定額
- 二、定額中支出済ト爲リタル額及當該年度所屬トシテ支出スヘキ額
- 三、定額中翌年度ニ繰越ヲ要スル額
- 四、定額中不用ト爲ルヘキ額

第七十九條 會計法第二十七條ノ規定ニヨリ繰越ヲ爲サムトスルトキハ豫算ニ於テ明許シタル場合ヲ除クノ外前條ノ繰越計算書ニ契約書ノ寫其ノ他ノ参照書類ヲ添付スヘシ

第八十條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ繰越計算書ノ寫ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二節 定額戻入

第八十一條 支出済ト爲リタル歳出ノ返納金ハ其ノ支拂ヒタル經費ノ定額ニ之ヲ戻入ルルコトヲ得但シ重大ナル過失ニ因リ誤拂過渡ト爲リタル金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十二條 支出官前條ノ規定ニ依リ定額ニ戻入レムトスルトキハ返納人ヲシテ其ノ金額ヲ返納セシムヘシ

第八十三條 日本銀行ニ於テ前條ノ返納金ヲ領收シタルトキハ之ニ相當スル金額ヲ支拂豫算定額ニ戻入ノ記帳ヲ爲シ其ノ旨ヲ支出官ニ通知スヘシ

第八十四條 毎年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日限トス

第七章 契約

第一節 總則

第八十五條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スヘシ

第八十六條 契約書ニハ當該官吏記名捺印スルコトヲ要ス

第八十七條 各省大臣ハ左ニ掲ケル場合ニ於テハ第八十五條ニ規定スル契約書ノ作成ヲ省略スルコトヲ得但シ第五號ノ場合ニ於テハ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

一、三千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

二、外國ニ於テ五千圓ヲ超エサル指名競争契約又ハ隨意契約ヲ爲ストキ

三、糶賣ニ付スルトキ

四、物品賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ

五、第一號及第二號以外ノ隨意契約ニ付各省大臣契約書ヲ作成スルノ必要ナシト認ムルトキ

第八十八條 政府ト契約ヲ結ハムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ契約金額百分ノ十以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ル場合ニ於テハ各省大臣ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得前條第三號及第四號ノ場合亦同シ

第八十九條 契約者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外保證金ハ政府ノ所得トス

第九十條 政府ニ屬スル財産ノ賣拂ヲ爲ストキハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ

除クノ外其ノ引渡前又ハ移轉ノ登記若ハ登録前其ノ代金ヲ完納セシムヘシ
第九十一條 財産ノ貸付料ハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ前納セシムヘシ但シ貸付期間ノ長期ニ渉ルモノニ付テハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第九十二條 各省大臣三千圓ヲ超ユル工事製造又ハ物件ノ買入ニ付テハ竣工又ハ完納ノ後之ヲ監督又ハ検査シタル官吏又ハ技術者ヲシテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ
契約ニ依リ工事若ハ製造ノ既濟部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完濟前又ハ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ支拂ハムトスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏又ハ技術者ニ命シ事實ヲ調査シテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ
前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條 前條第二項ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ工事又ハ製造ニ付テハ其ノ既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九物件ノ買入ニ付テハ其ノ既納部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得ス但シ箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事又ハ製造ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其ノ代價ノ全額迄ヲ支拂フコトヲ得

第九十四條 前二條ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ

對シ支拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第九十五條 本章ニ定ムルモノノ外契約ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二節 一般競争契約

第九十六條 一般ノ競争ニ加ラムトスル者ニ必要ナル資格ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九十七條 各省大臣ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ヲ爾後二年間競争ニ加ラシメサルコトヲ得之ヲ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用シタル者亦同シ

- 一、 契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事製造又ハ物件ヲ粗雑ニシ又ハ其ノ品質數量ニ關シ欺憚ノ行爲アリタル者
- 二、 競争ニ際シ不當ニ價格ヲ競上ケ又ハ競下クル目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者
- 三、 競争ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落者ノ契約締結若ハ契約ノ履行ヲ妨害シタル者
- 四、 検査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者
- 五、 正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セサリシ者
- 六、 前各號ノ一ニ該當スト認メラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約ニ際シ代理

八、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用スル者

第九十八條 各省大臣ハ前條ノ規定ニ該當スル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ヲ競争ニ加ラシメサルコトヲ得

第九十九條 競争ニ加ラムトスル者ハ現金又ハ國債ヲ以テ見積金百分ノ五以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

第一百條 競落者契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス

第一百一條 競争ハ第九條ニ規定スル場合ヲ除クノ外總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第一百二條 入札ノ方法ニ依リ競争ニ付セムトスルトキハ其ノ入札期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ十日前ニ官報、新聞紙揭示其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ但シ急ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ五日迄ニ短縮スルコトヲ得

第一百三條 前條ノ公告ニハ左ニ掲クル事項ヲ示スヘシ

一、競争入札ニ付スル事項

二、契約條項ヲ示ス場所

三、競争執行ノ場所及日時

四、入札ノ保證金額

第一百四條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ競争入札ニ付スル事項ノ價格ヲ豫定シ其ノ豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第一百五條 開札ハ公告ニ示シタル場所、日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但シ入札者ニシテ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ

入札者ハ一旦提出シタル入札書ノ引換變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ヌ

競争加入ノ資格ナキ者ノ爲シタル入札又ハ入札ニ關スル條件ニ違反シタル入札ハ無効トス

第一百六條 開札ノ場合ニ於テ各人ノ入札中第一百四條ノ規定ニ依リ豫定シタル價格ノ制限ニ達シタルモノナキトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百七條 落札ト爲ルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二人以上アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ爲サシムヘシ

第八八條 入札者若ハ落札者ナキ場合又ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ入札ニ付セムトスルトキハ第二百二條ノ期間ハ五日迄ニ之ヲ短縮スルコトヲ得

第九九條 各省大臣動産ノ賣拂ニ付特別ノ事由ニ因リ必要アリト認ムル場合ニ於テハ大藏大臣ト協議シ本節ノ規定ニ準シ賣賣リニ付スルコトヲ得

第三節 指名競争契約

第一百十條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ指名競争ニ付スルコトヲ得

- 一、 契約ノ性質又ハ目的ニ依リ競争ニ加ルヘキ者少數ニシテ一般ノ競争ニ付スルノ必要ナキトキ
- 二、 一萬圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ五千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ
- 三、 賃借料年額又ハ總額三千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ
- 四、 豫定貸貸料年額又ハ總額千圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ
- 五、 豫定代價二千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ
- 六、 前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額四千圓ヲ超エサルトキ

隨意契約ニ依ルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ指名競争ニ付スルコトヲ妨ケス

第一百一條 指名競争ニ付セムトスルトキハ成ルヘク五人以上ノ入札者ヲ指定スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第三百三條ニ規定シタル事項ヲ各入札者ニ通知スヘシ

第一百十二條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競争ニ付シテ契約ヲ結ヒタルトキハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第一百十三條 第九十七條乃至第一百一條、第一百四條乃至第一百七條ノ規定ハ指名競争契約ノ場合ニ之ヲ準用ス

各省大臣必要ナシト認ムル場合ニ於テハ第九十九條ノ保證金ハ之ヲ免除スルコトヲ得

第四節 隨意契約

第一百十四條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ掲クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

- 一、 契約ノ性質又ハ目的カ競争ヲ許ササルトキ
- 二、 急迫ノ際競争ニ付スルノ暇ナキトキ

三、政府ノ行爲ヲ秘密ニスルノ必要アルトキ
 四、五千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ三千圓ヲ超エサル財産ノ買入ヲ爲ストキ

五、賃借料年額又ハ總額千五百圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ

六、豫定賃貸料年額又ハ總額五百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲ストキ

七、豫定代價千圓ヲ超エサル財産ノ賣拂ヲ爲ストキ

八、前四號以外ノ契約ニシテ其ノ金額二千圓ヲ超エサルトキ

九、勞力ノ供給ヲ請負ハシムルトキ

十、運送又ハ保管ヲ爲サシムルトキ

十一、官廳相互間ニ於テ契約ヲ爲ストキ

十二、農工場、學校、試驗所、監獄其ノ他之ニ準スヘキモノノ生産又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂ヲ爲ストキ

十三、法律勅令ノ規定ニ依リ財産ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ其ノ財産ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

十四、非常災害アリタル場合ニ於テ罹災者ニ政府ノ生産ニ係ル建築材料ノ賣拂ヲ

爲ストキ

十五、外國ニ於テ契約ヲ爲ストキ

十六、道府縣一市一町一村其ノ他ノ公法人、公益法人、産業組合又ハ慈善ノ爲ニ設立シタル教育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ

十七、移住地域内ニ於ケル土木工事ヲ其ノ移住民ノ共同請負ニ付スルトキ

十八、學術又ハ技藝ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

十九、産業又ハ拓殖事業ノ保護獎勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂若ハ貸付ヲ爲ストキ

二十、公共用、公用又ハ公益事業ニ供スル爲必要ナル物件ノ買入ヲ爲ストキ

二十一、業者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十二、土地、建物、林野又ハ其ノ產物ヲ之ニ特別ノ緣故アル者ニ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

二十三、事業經營上特ニ必要ナル物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地、建物ノ借入ヲ爲ストキ

二十四、法律勅令ノ規定ニ依リ問屋業者ニ販賣ヲ委託スルトキ又ハ之ヲシテ販賣

ヲ爲サシムルトキ

前項第十九號乃至第二十三號ノ場合ニ於テハ所管大臣豫メ大藏大臣ト協議スルコトヲ要ス

前項ノ協議ヲ遂ケタルトキハ大藏大臣直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第百十五條 競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナキトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ保證金及期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル價格其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十六條 落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ落札金額ノ制限内ニ於テ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ期限ヲ除クノ外最初競争ニ付スルトキ定メタル條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第百十七條 前二條ノ場合ニ於テ豫定價格又ハ落札金額ヲ分割計算シ得ル場合ニ限リ該價格又ハ金額ノ制限内ニ於テ各目的ニ付之ヲ數人ニ分割シテ契約ヲ爲スコトヲ妨ケス

第百十八條 隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徵スヘシ

第百十九條 各省大臣會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依リタル場合ニ於テハ事由ヲ詳具シ直ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第八章 保管金及有價證券

第百二十條 政府ハ法律勅令ノ規定ニ依ルニ非サレハ公有又ハ私有ノ現金又ハ有價證券ヲ保管セス

第百二十一條 政府ノ保管ニ係ル現金ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ

第百二十二條 政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ日本銀行ヲシテ之カ取扱ヲ爲サシム

第百二十三條 政府ノ保管ニ係ル現金又ハ政府ノ所有若ハ保管ニ係ル有價證券ノ取扱手續ニ關シテハ法律勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外大藏大臣之ヲ定ム

第九章 出納官吏

第一節 總 則

第百二十四條 本令ニ於テ出納官吏ト稱スルハ現金ノ出納保管ヲ掌ル官吏ヲ謂フ

第百二十五條 出納官吏ハ各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ命ス

第二百二十六條 各省大臣又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏必要アリト認ムルトキハ出納官吏ノ代理官又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

前項ノ代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其ノ一部ヲ分掌スルモノトス

第二百二十七條 所管大臣ハ會計法第三十七條ノ規定ニ依リ左ニ掲クル官署ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

一、鐵道官署

二、遞信官署

前項ノ外特別ノ必要アル場合ニ於テハ各省大臣大藏大臣ト協議シ其ノ廳ノ事務員ヲシテ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二百二十八條 前條ノ規定ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ノ分掌ヲ命セラレタル事務員ハ主任出納官吏又ハ分任出納官吏所屬ノ出納員トシテ其ノ事務ヲ取扱フヘシ

第二百二十九條 出納員ノ領收シタル現金ハ之ヲ所屬出納官吏ニ拂込ムヘシ但シ所管大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ他ノ出納官吏又ハ出納員ニ交付セシムルコト

ヲ得

第二百三十條 出納官吏又ハ出納員其ノ保管ニ屬スル現金ヲ亡失シ又ハ其ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタル場合ニ於テハ所管大臣ハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ通知スヘシ

第二百三十一條 出納官吏及出納員ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ヲ爲スヘシ

第二節 責任

第二百三十二條 出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル現金ノ出納保管ニ付單ニ自ラ事務ヲ執ラサルコトヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス但シ其ノ代理官分任官又ハ所屬出納員ノ行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ出納員ノ責任ニ付之ヲ準用ス

第二百三十三條 代理出納官吏分任出納官吏又ハ出納員ハ其ノ行爲ニ付會計法第三十五條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

第二百三十四條 各省大臣ハ出納官吏又ハ出納員ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決前ト雖其ノ出納官吏又ハ出納員ニ對

シ辨償ヲ命スルコトヲ得

第三百三十五條 前條ノ場合ニ於テ其ノ辨償ヲ命セラレタル出納官吏又ハ出納員其ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其ノ判決ヲ求ムルコトヲ得
所管大臣ハ前項ノ場合ト雖其ノ命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス
會計検査院ニ於テ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其ノ既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付スヘシ

第三節 検査及證明

第三百三十六條 出納官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日又ハ轉免死亡退職其ノ他異動アリタルトキ所管大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但シ臨時ニ資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス
大藏大臣又ハ各省大臣必要アリト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムヘシ

第三百三十七條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ當該出納官吏又ハ出納員事故ニ因リ自ラ検査ヲ受クルコト能ハサルトキハ其ノ代理者又ハ特ニ所管大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第三百三十八條 出納官吏又ハ出納員ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ檢定書二通ヲ作成シ検査員及當該出納官吏出納員又ハ立會人之ニ記名捺印シ一通ハ當該出納官吏出納員又ハ立會人ニ交付シ一通ハ所管大臣ニ提出スヘシ

第三百三十九條 出納官吏又ハ出納員他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ金櫃ノ検査ヲ執行スル者ハ併セテ他ノ公金ノ検査ヲ行フヘシ

第三百四十條 租稅其ノ他ノ歳入金ノ收納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ歳入徵收官ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第三百四十一條 資金ノ前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ支出官ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第三百四十二條 歳入歳出外現金ノ出納ヲ掌ル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第三百四十三條 第六十三條ノ規定ニ依リ現金ノ繰替使用ヲ爲ス官吏ハ會計検査院ノ

検査判決ヲ受クル爲出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ所管大臣又ハ其ノ指定シタル官吏ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第四百四十四條 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシ出納員ノ出納ハ總テ所屬出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其ノ報告書及計算書ハ各別ニ提出スルコトヲ要セス

但シ所管大臣又ハ會計検査院ニ於テ必要アリト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏又ハ出納員ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第四百四十五條 出納官吏交替シタルトキハ其ノ在職期間ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ第四百四十條乃至第四百四十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四百四十六條 出納官吏又ハ出納員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ計算書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ所管大臣ノ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏又ハ出納員定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ所管大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

前二項ノ規定ニ依リ調製シタル計算書ハ出納官吏又ハ出納員ノ自ラ調製シタルモノト看做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第四百四十七條 出納官吏又ハ出納員ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第十章 日本銀行ノ計算報告及出納證明

第四百四十八條 日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國庫金ノ出納報告書ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

第四百四十九條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲國庫金ノ出納計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

日本銀行ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ國債ノ發行ニ依ル收入金國債元利拂資金及隔地者拂資金ノ收支ヲ整理シ之ヲ前項ノ計算書ニ掲記スヘシ

大藏大臣ハ第一項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第四百五十條 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券受拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ前項ノ計算書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第十一章 帳簿

第四百五十一條 政府ノ爲ニ取扱フ現金又ハ有價證券ノ出納保管ニ關シ政府ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於ケル日本銀行ノ賠償責任ニ付テハ民法及商法ニ依ル

- 第一百五十二條 大藏省ハ日記簿原簿及補助簿ヲ備ヘ國庫金ノ出納ヲ登記スヘシ
- 第一百五十三條 大藏省ハ歲入歲出ノ主計簿ヲ備ヘ歲入主計簿ニハ歲入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記シ、歲出主計簿ニハ歲出豫算額、豫算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ
- 第一百五十四條 歲入徵收官ハ徵收簿ヲ備ヘ歲入ノ調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ
- 第一百五十五條 歲入事務管理廳ハ歲入簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額及收入未濟額ヲ登記スヘシ
- 第一百五十六條 支出官ハ支出簿ヲ備ヘ歲出ノ支拂豫算額、支出濟額及支拂豫算殘額ヲ登記スヘシ
- 第一百五十七條 各省ハ歲出簿ヲ備ヘ歲出ノ豫算額、豫算決定後增加額、支出濟額、翌年度繰越額及殘額ヲ登記スヘシ
- 第一百五十八條 出納官吏及出納員ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ
- 第一百五十九條 前七條ニ規定スル帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第一百六十條 日本銀行ハ左ニ掲クル帳簿ヲ備ヘ政府ノ爲ニ取扱フ現金ノ出納又ハ有價證券ノ受拂ヲ登記スヘシ

- 價證券ノ受拂ヲ登記スヘシ
- 一、國庫金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿
 - 二、支拂豫算額及支拂濟額ヲ登記スヘキ帳簿
 - 三、國債ノ發行ニ依ル收入金ニ關スル出納ヲ登記スヘキ帳簿
 - 四、國債元利拂資金ノ出納ヲ登記スヘキ帳簿
 - 五、隔地者拂資金ノ收支ヲ登記スヘキ帳簿
 - 六、有價證券ノ受拂ヲ登記スヘキ帳簿
- 前項ノ帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣ノ認可ヲ經テ日本銀行之ヲ定ム
- 第一百六十一條 大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上毎年七月三十一日前年度ノ主計簿ヲ締切ルヘシ

第十二章 雜 則

- 第一百六十二條 本令ニ依リ會計検査院ニ提出スル計算證明書類ノ様式及提出期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ
- 第一百六十三條 前條ノ計算證明書類ヲ除クノ外本令ニ規定スル書類ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六十四條 本令ニ依リ記名捺印ヲ要スル場合ニ於テハ外國ニ在リテハ署名ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第六十五條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外收入及支出ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附 則

第六十六條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十七條 左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

仕拂命令委任規程

會計年度開始前現金支出規則

明治二十二年勅令第二百一十一號

金庫規則

明治二十三年勅令第二號

明治二十三年勅令第二十號

明治二十三年勅令第三十二號

明治二十三年勅令第三十五號

明治二十三年勅令第四百四號

明治二十三年勅令第四百十八號

明治二十三年勅令第四百九十三號

明治二十三年勅令第二百七十三號

明治二十三年勅令第二百九十五號

明治二十四年勅令第一號

明治二十四年勅令第二十四號

明治二十四年勅令第七十五號

明治二十四年勅令第六十三號

明治二十六年勅令第五十一號

明治二十六年勅令第七十號

明治二十六年勅令第二百二十八號

明治二十七年勅令第四十號

明治二十七年勅令第七十六號

明治二十八年勅令第四百四號

- 明治二十九年勅令第五百五十八號
- 明治二十九年勅令第二百四十號
- 明治二十九年勅令第二百六十八號
- 明治二十九年勅令第三百七十三號
- 明治三十年勅令第十五號
- 明治三十年勅令第二十一號
- 明治三十年勅令第五十八號
- 明治三十年勅令第二百二十七號
- 明治三十一年勅令第三十七號
- 明治三十一年勅令第三十八號
- 帝國大學資金並學校及圖書館資金所屬森林原野並產物特別處分規則
- 明治三十一年勅令第七十四號
- 明治三十二年勅令第二十五號
- 明治三十二年勅令第二百六號
- 明治三十二年勅令第二百二十九號

- 明治三十二年勅令第三百三號
- 明治三十二年勅令第三百六十三號
- 明治三十二年勅令第三百七十五號
- 明治三十二年勅令第四百十三號
- 明治三十二年勅令第四百二十四號
- 明治三十二年勅令第四百三十七號
- 明治三十三年勅令第三十九號
- 明治三十三年勅令第二百八十號
- 明治三十三年勅令第三百四十二號
- 明治三十三年勅令第四百八號
- 明治三十四年勅令第八號
- 明治三十四年勅令第二百二十號
- 明治三十五年勅令第二百五號
- 明治三十五年勅令第二百三十六號
- 明治三十六年勅令第二十三號

- 明治三十六年勅令第八十號
- 明治三十七年勅令第十號
- 明治三十七年勅令第十七號
- 明治三十七年勅令第五十四號
- 明治三十七年勅令第七十八號
- 明治三十七年勅令第二百十七號
- 明治三十八年勅令第二十二號
- 明治三十八年勅令第三十二號
- 明治三十八年勅令第三十五號
- 郵便電信及電話官署經費渡切規則
- 明治三十八年勅令第二百二十八號
- 明治三十八年勅令第二百一號
- 明治三十八年勅令第二百二號
- 明治三十八年勅令第二百六十五號
- 明治三十八年勅令第二百九十號

- 明治三十九年勅令第九十三號
- 明治三十九年勅令第一百一號
- 明治三十九年勅令第二百四十六號
- 明治三十九年勅令二百七十號
- 明治四十年勅令第八十四號
- 明治四十年勅令第五十號
- 明治四十年勅令第二百二十七號
- 明治四十年勅令第二百六十一號
- 明治四十年勅令第三百四十一號
- 明治四十一年勅令第三百三十八號
- 明治四十一年勅令第五百五十八號
- 明治四十一年勅令第二百四十八號
- 明治四十一年勅令第三百一十一號
- 明治四十二年勅令第六十一號
- 明治四十二年勅令第二百二十六號

- 明治四十三年勅令第三百四十一號
- 明治四十三年勅令第四百八號
- 明治四十三年勅令第四百九號
- 明治四十四年勅令第六十一號
- 明治四十四年勅令第六十二號
- 明治四十四年勅令第一百五十六號
- 明治四十四年勅令第二百零二號
- 明治四十四年勅令第二百七十九號
- 明治四十四年勅令第二百九十二號
- 大正元年勅令第七號
- 大正二年勅令第三百三號
- 大正三年勅令第三號
- 大正三年勅令第三百三十五號
- 大正三年勅令第三百三十六號
- 大正四年勅令第五十五號

- 大正四年勅令第七十八號
- 大正四年勅令第八十七號
- 大正四年勅令第九十五號
- 大正四年勅令第一百二十五號
- 大正五年勅令第四百四十五號
- 大正五年勅令第五百五十五號
- 大正五年勅令第六百六十二號
- 大正五年勅令第七百七十三號
- 大正五年勅令第八百八十八號
- 大正五年勅令第九百九十八號
- 大正五年勅令第二百十九號
- 大正六年勅令第五十二號
- 大正六年勅令第六十二號
- 大正六年勅令第八十一號
- 大正六年勅令第二百三十四號

大正七年勅令第二百二十二號

大正八年勅令第三號

大正八年勅令第二十六號

大正八年勅令第三百六十二號

大正九年勅令第二百五號

大正九年勅令第三百三十六號

大正九年勅令第五百四十七號

大正十年勅令第四百四十四號

大正十年勅令第四百二十八號

大正六年勅令第三百三十二號ハ當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第六十八條 金庫ニ納付セシムル爲納入ノ告知アリタル歳入金ニシテ本令施行前
收納ヲ了セサルモノハ該納入ノ告知ニ依リ日本銀行ニ於テ之カ收納ヲ取扱ハシムル
前項ノ規定ハ定額戻入ノ爲納入ノ告知アリタル返納金ニシテ本令施行前領收ヲ了
セサル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 仕拂命令ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ仕拂命令ニ關

スル從前ノ手續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム
第五十五條ノ規定ハ前項ノ支拂期間經過後仍會計法附則第五項ノ規定ニ依リ期間
ノ滿了セサル債務ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第七十條 大正十一年五月三十一日迄ニ支拂ノ請求ナキ大正十年度仕拂命令濟金
額ニ相當スル資金ハ從前ノ例ニ依リ當該年度ノ歳出支拂未濟金トシテ之ヲ繰越整
理スヘシ

第七十一條 本令施行前繰越整理ニ係ル資金及前條ノ繰越整理ニ係ル資金ニシテ
大正十二年三月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサルモノハ之ヲ大正十一年度ノ歳入ニ組
入ルヘシ

第七十二條 大正十年度支出濟歳出額ハ同年歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ
仕拂命令濟歳出額ニ併算スヘシ

大正十一年度仕拂命令濟歳出額ハ同年度歳入歳出ノ總決算及主計簿ニ於テハ支出
濟歳出額ニ併算スヘシ

第七十三條 大正十年度分ニ限リ金庫ニ備ヘタル支出簿ハ第六十條第二號ノ帳
簿ニ代用セシムルコトヲ得

第七十四條 前六條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ大藏大臣之ヲ定ム

(參照)

明治二十二年十一月二十日勅令第百二十一號ハ旅費其外概算渡前金渡ノ件同二十三年一月七日勅令第二號ハ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有金ニ關スルノ件同年三月七日勅令第二十號ハ國債ニ關スル仕拂及收入金決算ノ件同年三月十九日勅令第三十二號ハ在外各廳經費中前金渡ノ件同年三月二十日勅令第三十五號ハ政府ニ屬スル歲入歲出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル件同年六月二十日勅令第百四號ハ貨幣鑄造ニ要スル地金買入ノ件同年七月五日勅令第百十八號ハ陸軍乘馬本分ノ將校ヘ官馬拂下ノ件同年九月二日勅令第百九十三號ハ政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件同年十一月十日勅令第二百七十三號ハ金庫ヲシテ大藏省預金局ノ保管ニ屬スヘキ金錢及證券ノ取扱ヲ爲サシムル件同年十二月二十日勂令第二百九十五號ハ海軍艦船用石炭ヲ外國軍艦ニ讓渡スルノ件同二十四年一月六日勅令第一號ハ在外國難民貸與金一時繰替支辨ノ件同年四月四日勅令第二十四號ハ在外海軍用地租稅前金拂ノ件同年七月十三日勂令第七十五號ハ外國公使館敷地トシテ官有地貸渡ハ隨意ノ約定

ニ依ルヲ得ル件同年七月廿八日勂令第百六十三號ハ北海道廳ニ於テ殖産獎勵ニ要スル種畜貸渡ハ隨意契約ニ依ルヲ得ル件同二十六年五月二十日勂令第五十一號ハ府縣稅、地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府工事隨意契約ノ件同年七月十日勂令第七十號ハ各官廳管理ノ政府所有及保管有價證券寄託方ノ件同年十月六日勂令第二百二十八號ハ官有建物等ノ賣渡貸渡ハ隨意契約ニ依ルヲ得ル件同二十七年四月十日勂令第四十號ハ在外各廳ニ於ケル工事及物件ノ賣買貸借隨意契約ノ件同年六月二十日勂令第七十六號ハ軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件貸付賣渡隨意契約ノ件同二十八年七月十日勂令第百四號ハ北海道帝國大學資金所屬ノ北海道土地貸付ハ隨意契約ニ依ルノ件同二十九年四月三十日勂令第百五十八號ハ外國駐在視察陸軍武官駐在手當馬飼料前金渡ノ件同年六月五日勂令第二百四十號ハ官設鐵道所屬ノ土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡貸渡ストキ隨意契約ノ件同年七月十一日勂令第二百六十八號ハ工事ニ要スル機械器具、鐵軌、車輛、船舶、建物及其附屬物其他材料素品ニ關スル隨意契約ノ件同年十二月一日勂令第三百七十三號ハ痘苗製造所隨意契約ニ依リ積牛購入ノ件同三十年二月十九日勂令第十五號ハ工事ノタメ買收又ハ收用シタル土地貸付ノ件同年二月二十日勂令第二十一號ハ北海道森林ノ產物ヲ賣渡ストキ又ハ

北海道廳直接從事ノ工事材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ノ件、同年三月三十日
 勅令第五十八號在外公館ニ於テ會計規則所定ノ手續省略ノ件、同年四月二十日勅令第百
 二十七號ハ艦船經費一時繰替支辨ノ件、同三十一年三月十日勅令第三十七號ハ北海道殖
 民地ニ於ケル道路橋梁排水工事ノ請負隨意契約ノ件、同年三月十日勅令第三十八號ハ北
 海道ニ於ケル陸軍管理ノ工事隨意契約ノ件、同年七月二十日勅令第七十四號ハ鐵道事
 ニ要スル物件ノ賣買、貸借隨意契約ノ件、同三十二年二月二日勅令第二十五號ハ製鐵所用
 地、地先浚渫及荷揚場設置工事請負隨意契約ノ件、同年五月十九日勅令第二百六號ハ陸軍
 用地ノ生産物ヲ賣渡ストキ隨意契約ノ件、同年六月七日勅令第二百二十九號ハ海軍炭礦
 採掘ノ請負及粗惡炭竝粉炭拂下隨意契約ノ件、同年六月二十日勅令第三百三號ハ臺灣總
 督府ニ於テ施行スル鐵道敷設、燈臺建築及築港其他直營事業ニ關スル隨意契約ノ件
 同年八月三日勅令第三百六十三號ハ國有林野生産物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル件、同
 年八月十六日勅令第三百七十五號ハ政府直接ニ從事スル官設鐵道工事一部ノ請負契約
 ノ件、同年七月二十日勅令第四百十三號ハ政府施行ノ造林及伐木事業ニ要スル人夫雇並
 種苗供給ノ受負隨意契約ノ件、同年十一月六日勅令第四百二十四號ハ遺失物法ニ依ル埋
 藏物ヲ宮内省ニ讓渡ストキ隨意契約ノ件、同年十一月廿五日勅令第四百三十七號ハ海水ニ

觸接スル工事及水道工事ニ要スル「セメント」ノ購入隨意契約ノ件、同三十三年二月二十
 日勅令第三十九號ハ製鐵所ノ鑛山採掘及骸炭製造ノ請負並不用生産物拂下隨意契約
 ノ件、同年六月廿九日勅令第二百八十號ハ政府ノ工事又ハ物件ノ購入ニ關スル指名競争
 ノ件、同年八月十五日勅令第三百四十二號ハ帝國大學文部省直轄諸學校及帝國圖書館資
 金所屬不動産ノ貸渡隨意契約ノ件、同年十一月三日勅令第四百八號ハ官設鐵道郵便電信
 電話官署出納員現金出納ニ關スル件、同三十四年三月一日勅令第八號ハ政府ニ於テ直接
 ニ從事スル事業ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ニ關スル隨意契約ノ件、同年五月二十日勅
 令第二百二十號ハ朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル政府ノ工事及物件ノ買入、借入ニ關スル隨意
 契約ノ件、明治三十五年八月二十日勅令第二百五號ハ出納官吏身元保證金ニ關スル件、同
 年八月二十日勅令第二百三十六號ハ測地學委員會基線尺室兼振子室新營ニ要スル工事
 及物件ノ買入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件、同三十六年三月十四日勅令第二十三號
 ハ郵便電信電話官署ノ現金受拂ニ關スル件、同年十一月十日勅令第一百八十號ハ製鐵所ノ
 製品販賣ニ關シ契約省略ノ件、同三十七年二月二十日勂令第十號ハ艦船乗組ノ經營傭人
 給料前金渡ノ件、同年二月五日勂令第十七號ハ廣島鑛山ニ屬スル物件ノ賣拂ハ隨意契約
 ニ依ルコトヲ得ルノ件、同年三月一日勂令第五十四號ハ政府ノ工事請負契約解除ニ關ス

ル件、同年六月二十日勅令第七十八號ハ政府ノ工場外ニ於テ煙草ノ製造作業ヲ爲サシムルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件、同年九月三日勅令第二百十七號ハ鐵道作業局ニ於テ私設鐵道會社ト鐵道ノ貸借ヲ爲ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件、同三十八年一月二十日勅令第二十二號ハ陸海軍軍人軍屬旅費前金渡ノ件、同年二月十四日勅令第三十二號ハ農商務省主管ノ國有林產物品ヲ問屋營業者ニ委託シテ隨意契約ニ依ル賣拂ヲ爲スコトヲ得ルノ件、同年一月十七日勅令第三十五號ハ官設鐵道ニ於テ徵收シタル通行税ノ拂戻金一時繰替支辨ノ件、同年四月八日勅令第二百二十八號ハ沈沒船舶賣拂ノ場合ニ於ケル買受人資格ニ關スル件、同年八月十八日勂令第二百一號ハ政府ニ於テ產業組合又ハ產業組合聯合會ヨリ物品ノ買入ヲ爲ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件、同年九月四日勂令第二百二號ハ政府ニ於テ建築工作其ノ他直接事業ニ要スル材料ニ關スル隨意契約ノ件、同年十二月十日勂令第二百六十五號ハ牛馬賣買及貸渡ニ關スル隨意契約ノ件、同年九月九日勂令第二百九十號ハ製鐵所ニ於テ事業上必要トスル器具機械及諸材料ノ購入ニ關スル隨意契約ノ件、同三十九年七月二十日勂令第九十三號ハ陸軍採炭事業ニ要スル機械器具及諸材料ノ購入並炭鑛探掘請負ニ關スル隨意契約ノ件、同年五月八日勂令第一百一號ハ明治三十一年勂令第一號ニ依リ支給スル食卓料前金渡

ノ件、同年九月十五日勂令第二百四十六號ハ馬政局所管馬匹ノ賣拂ニ關スル件、同年十月一日勂令第二百七十號ハ私設鐵道ニ於テ爲シタル契約ヲ隨意契約ヲ以テ繼續ノ件、同四十年三月二十日勂令第八十四號ハ樺太ニ於ケル政府ノ工事及物件ノ買入借入ニ關スル隨意契約ノ件、同年四月二十日勂令第一百五十號ハ朝鮮總督府及所屬官署職員ノ俸給、手當及宿舍料前金渡ノ件、同年六月十三日勂令第二百二十七號ハ種馬牧場、種馬育成所又ハ種馬所ノ燕麥購入ニ關スル隨意契約ノ件、同年七月十日勂令第二百六十一號ハ關東都督府通信官署及警察官署經費渡切ニ關スル件、同年十二月二日勂令第三百四十一號ハ國有林野產物ノ加工製作ニ關スル隨意契約ノ件、同四十一年五月二十日勂令第三百三十八號ハ明治三十六年勂令第二十三號ヲ關東都督府通信官署ニ準用ノ件、同年六月十九日勂令第五十八號ハ帝國大學並ニ學校及圖書館資金所屬不動産賣渡ニ關スル隨意契約ノ件、同年十月三日勂令第二百四十八號ハ製鐵所ニ於テ販賣スル鋼鐵ノ加工請負ニ關スル隨意契約ノ件、同年十二月十日勂令第三百一十一號ハ國有製材所貸付ニ關スル隨意契約ノ件、同四十二年三月三十日勂令第六十一號ハ臺灣總督府通信官署警察官署、測候所、燈臺、稅關監視署及登記所經費渡切ニ關スル件、同年十月四日勂令第二百二十六號ハ政府ノ所有ニ歸シタル國債賣渡ニ關スル隨意契約ノ件、同四十三年九月十二日勂令第三百四十一號ハ

鐵道省所管高架鐵道ノ構内又ハ橋下ヲ貸渡ス場合ニ於テ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件、同年九月三十日勅令第四百八號ハ朝鮮總督府遞信官署ノ取扱ニ係ル歲入金歳出金及歳入歳出外現金ノ交互振替及繰替ニ關スル件、同年同日勅令第四百九號ハ朝鮮總督ノ指定スル官署ノ經費渡切ニ關スル件、同四十四年三月三十日勅令第六十一號ハ朝鮮總督府鐵道官署ニ於ケル現金ノ交互振替及繰替受拂ニ關スル件、同年同日勅令第六十二號ハ朝鮮總督府臺灣總督府又ハ樺太廳ニ於ケル鐵道事業用諸物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件、同年五月十三日勅令第五十六號ハ陸軍ニ於ケル土地建造物ヲ貸渡ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件、同年八月二日勅令第二百二十號ハ朝鮮總督府及其ノ所屬官署ニ於ケル物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約及契約書省略ノ件、同年十一月廿九日勅令第二百七十九號ハ糖業改良事務局ニ屬スル製糖工場及其ノ附屬物件ノ賣渡ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件、同年十二月二十日勅令第二百九十二號ハ輕便鐵道補助金概算渡ノ件、大正元年八月十五日勅令第七號ハ臺灣ニ於テ生産スル繭生絲又ハ真綿ノ買入又ハ賣拂ニ關スル隨意契約ノ件、同二年六月十日勅令第三百三號ハ樺太廳ノ管理ニ屬スル炭礦採掘ノ請負及該炭礦ヨリ採掘シタル石炭ノ賣渡ニ關スル隨意契約ノ件、同三年一月十七日勅令第三號ハ專賣用物件及勞力供給ニ關スル隨意契約等ノ

件、同年六月二十日勅令第三百三十五號ハ臺灣總督府ニ於ケル種畜ノ賣買及貸渡ニ關スル隨意契約ノ件、同年六月二十日勅令第三百三十六號ハ臺灣總督府民政部通信局及臺灣總督府郵便官署ノ現金受拂ニ關スル件、同四年四月二十日勅令第五十五號ハ樺太廳及所屬官署職員ノ俸給給料、手當及宿料前金渡ノ件、同年五月八日勅令第七十八號ハ樺太廳及其ノ所屬官署ニ於ケル物件ノ賣買及貸渡ニ關スル隨意契約ノ件、同年五月二十日勅令第八十七號ハ樺太廳經費渡切ニ關スル件、同年六月十四日勅令第九十五號ハ樺太廳郵便局ノ取扱ニ係ル歲入金歳出金及歳入歳出外現金ノ交互振替及繰替ニ關スル件、同年七月二十日勅令第二百五號ハ清酒防腐劑又ハ其ノ原料ノ買入等ニ關スル隨意契約ノ件、同五年三月三十日勅令第四十五號ハ藥品又ハ其ノ原料品ノ買入又ハ賣渡ニ關スル隨意契約ノ件、同年五月三十日勅令第五十五號ハ樺太廳ニ於テ直營スル築港事業ニ要スル物件ニ關スル隨意契約ノ件、同年六月八日勅令第六十二號ハ印刷局ニ於ケル郵便業書用紙購入ニ關スル隨意契約ノ件、同年六月二十日勅令第七十三號ハ海驢又ハ海豹ノ獸皮其ノ他ノ部分ノ賣拂ニ關スル隨意契約ノ件、同年七月二十日勅令第八十八號ハ砲兵工廠及千住製絨所ニ於テ作業上必要ナル物件ノ買入ニ關スル隨意契約ノ件、同年八月八日勅令第九十八號ハ航路標識管理所又ハ無線電信局ノ職員ノ俸給給料及手

當前金渡ノ件同年九月二十一日公布勅令第二百十九號臘虎臘獸其ノ他ノ貴重獸類保護事業ニ從事スル者ノ俸給、給料及手當前金渡ノ件、同六年五月十九日公布勅令第五十二號ハ樺太廳ノ管理ニ屬スル乾縮工場所屬物件ノ賣渡ニ關スル隨意契約ノ件、同年九月十一日公布勅令第三百三十二號ハ朝鮮國有鐵道建設及改良工事費概算渡ノ件、同年九月二十日勅令第六十二號ハ政府ニ於テ農會、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ヨリ物品ノ買入ヲ爲ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ル件、同年十月二日勅令第八十一號ハ海軍ニ於テ造船若クハ造兵ノ事業ニ必要ナル機械器具若クハ材料又ハ其事業ノ設備ニ必要ナル工用材料ノ買入ニ關スル隨意契約ノ件、同年十二月二日勅令第二百三十四號ハ戰時海上再保險法ニ依リ取得シタル物件ノ賣拂ニ關スル隨意契約ノ件、同七年五月八日勅令第二百二十二號ハ陸軍ニ於テ朝鮮師團營繕及初度調辦費支辨ニ屬スル工用施行ノタメ朝鮮ニ於テ木材煉瓦等ノ買入ニ關スル隨意契約ノ件、同八年一月十三日勅令第三號ハ臺灣總督府元製茶試驗場所屬ノ土地建物及器具機械ヲ賣渡ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件、同年三月十二日勅令第二十六號ハ電信電話事業ニ要スル物品ノ買入ニ關スル隨意契約ノ件、同年七月二十日勅令第三百六十二號ハ海軍ニ於テ石炭採掘ノ事業ニ要スル坑木ノ買入ニ關スル隨意契約ノ件、同九年五月六日勅令第二百二十五

號ハ製絨業指導獎勵ノタメ千住製絨所所屬ノ器具機械ヲ貸付ケ又ハ賣渡ス場合ハ隨意契約ニ依ルヲ得ルノ件、同年五月十五日勅令第三百三十六號ハ種狐ノ賣買又ハ漁場調査若ハ漁撈試驗ニ從事スル船舶ノ獲得シタル水産物ノ賣拂ニ關スル隨意契約ノ件、同年十一月二十日勅令第五百四十七號ハ印刷局ニ於テ三極ヲ購入スルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件、同年四月二十日勅令第四百四十四號ハ航空學業保護獎勵ノタメ陸海軍軍用ノ航空機又ハ其部品屬品ヲ貸付ケ又ハ賣渡ス場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件、同年七月二十日勅令第四百二十八號ハ朝鮮咸鏡北道ニ於ケル陸軍軍用輕便鐵道ノ貸付ニ關スル隨意契約ノ件ナリ

支出官事務規程

(大正十一年一月十一日大藏省令第一號)

第一章 總 則

第一條 支出官ハ本令ノ定ムル所ニ依リ支出ニ關スル事務ヲ處理スヘシ

第二條 支出官ハ支拂豫算ニ依リ定メラレタル日本銀行(本店、支店)又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ)ヲ以テ其ノ振出ス小切手ノ支拂店ト爲スヘシ

第三條 支出官ノ更迭アリタルトキハ各省大臣ハ直ニ大藏大臣及小切手ノ支拂店ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

各廳長官又ハ部局長ヲ支出官トスル場合ニ於テ其ノ更迭ヲ官報ニ掲載シタルトキハ前項ノ通知ヲ要セス但シ至急支拂ヲ要スル場合又ハ特ニ各廳長官若ハ部局長以外ノ者ヲ以テ支出官トスル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 會計規則第四十二條ノ規定ニ依ル代理官ノ任免アリタルトキハ前條第一項ノ規定ニ準シ之カ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 支出官及其ノ代理官ハ照校ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

第六條 支出官特別會計支拂元受高ノ内ヲ翌年度ノ支拂元受高ニ組入ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ請求スヘシ

第七條 支出官特別會計支拂元受高ノ内ヲ當該會計ノ他ノ支出官ノ支拂元受高ニ轉換ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ請求シ振換受拂ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第八條 本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督府、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ行フ

第二章 小切手ノ振出
第一節 總 則

第九條 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ支拂金額支拂店名受取人ノ氏名ト共ニ其ノ小切手ノ持參人カ支拂ヲ受クルコトヲ得ヘキコト、振出ノ年月日及支拂地ヲ記載スルノ外年度所管會計名、經常臨時部別、款項及番號ヲ附記スヘシ

第十條 官廳出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出ス小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ裏書禁止ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノナルトキハ表面餘白ニ「振替」ノ印ヲ押捺スヘシ

第十一條 支出官受取人ニ小切手ヲ交付シ支拂ヲ了シタルトキハ之カ領收證書ヲ徴スヘシ

第十二條 支出官本章ノ規定ニ依リ小切手ヲ振出シタルトキハ其ノ都度第一號書式ノ小切手振出濟通知書ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

第二節 隔地者ニ支拂ヲ爲サシムル爲振出ス小切手

第十三條 支出官小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル債主ニ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ第二號書式ニ依リ債主ノ住所氏名及支拂場所等ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付スヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テ數人ノ債主ニ對シ同一支出科目ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ合計額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ小切手ノ裏面ニ第二號書式ニ依リ記入ヲ爲シ第三號書式ノ金額氏名表ヲ添付スヘシ

第十五條 前二條ノ場合ニ於テ支出官ハ債主ノ爲最便利ナリト認ムル日本銀行ヲ支拂場所ト爲スヘシ但シ運輸交通不便ナル地方ニ在ル債主ノ請求ニ依リ其ノ住所又ハ居所ニ送金ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得

第十六條 支拂官第十三條又ハ第十四條ノ手續ヲ爲シタルトキハ第四號書式ノ歳出金支出通知書ヲ債主ニ送付スヘシ但シ前條但書ノ規定ニ依リ支拂場所ヲ指定シタル場合ニ於テハ歳出金支拂通知書ニ代ヘ適宜ノ通知書ヲ債主ニ送付シ電信送金ノ場合ニ於テハ電信ヲ以テ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

第十七條 支出官歳出金支拂通知書ノ送付ヲ爲シタル後債主ヨリ該通知書ヲ添ヘ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ相當ノ事由アリト認メタルトキハ歳出金支拂通知書ニ記載セル支拂場所ヲ訂正シ之ヲ債主ニ返付シ直ニ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ通知スヘシ

第十八條 支出官電信送金ノ通知ヲ爲シタル後債主ヨリ支拂場所變更ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ支拂未済ナルコトヲ確メタルトキハ前條ノ規定ニ準シ電信ヲ以テ之カ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 支出官外國ニ在ル債主ニ對シ邦貨ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其振出ス小切手ノ裏面ニ第五號書式ノ記入ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ直ニ其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ但シ電信送金ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ電信ヲ以テ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

第二十條 支出官外國ニ在ル債主ニ對シ外國貨幣ヲ基礎トスル金額ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出シ其ノ裏面ニ第六號書式ノ記入ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ前條ノ規定ニ準シ債主ニ通知ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 本節ノ規定ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外支出官小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル出納官吏ニ資金ヲ交付スル場合ニ之ヲ準用ス

第三節 國庫内移換ノ爲ニ振出ス小切手

第二十二條 支出官他ノ會計ニ資金繰入ノ爲歳出ヲ支出セムトスル場合ニ振出ス小切手ハ之カ繰入ヲ要求スル當該官廳ヲ受取人トシテ其ノ裏面ニ歳入年度所管會計名及取扱應名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十三條 前條ノ場合ニ於テ其ノ振替ニ依ル受入濟ノ旨ヲ當該官廳及當該支拂元受高ノ計算ヲ爲ヌ日本銀行ニ至急通知スルノ必要アルトキハ其ノ旨ヲ記載シ別ニ「要電信通知」ノ印ヲ押捺スヘシ

第四節 俸給支拂、國庫納金及相殺ノ爲ニ振出ス小切手

第二十四條 支出官文官判任以上ノ者ニ俸給支拂ヲ爲ス爲振出ス小切手ハ其ノ俸給額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ
支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ國庫納金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「國庫納金」ノ印ヲ押捺シ其ノ裏面ニ歳入年度

所管會計名及取扱應名ヲ記載シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十五條 支出官民法ノ規定ニ依リ政府ノ債務ノ一部ニ付私人ノ債務トノ間ニ相殺アリタル場合ニ振出ス小切手ハ政府ノ支拂金額ヨリ相殺額ヲ控除シタル殘額ヲ券面金額トスヘシ

支出官ハ前項ノ小切手ノ振出ト同時ニ相殺額ニ相當スル金額ヲ券面金額トシ歳入所屬ノ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ且表面餘白ニ「相殺額」ノ印ヲ押捺シ之ヲ當該相殺額ニ對スル納入告知書ニ添附シ小切手ノ支拂店ニ交付シ振替拂込ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第二十六條 政府ノ收納スヘキ金額カ相殺額ト同額ナルトキ又ハ之ヲ超過スルトキハ支出官ハ其ノ相殺額ニ付前條第二項ノ手續ニ準シ小切手ヲ振出シ其ノ收納スヘキ金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ其ノ超過額及相殺ノ相手方氏名ヲ歳入徴收官ニ報告スヘシ

第三章 定額戻入

第二十七條 支出官會計規則第八十二條ノ定ニ依リ經費ノ定額ニ戻入ヲ爲サムト

スルトキハ返納人ニ對シ第七號書式ノ返納告知書ヲ發スヘシ

第四章 證明

第二十八條 支出官小切手ノ支拂店ヨリ支拂濟小切手其ノ他ノ證憑書類ヲ添へ歳出金月計突合表又ハ歳出支拂未濟繰越金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ證明ノ上五日内ニ之ヲ小切手ノ支拂店ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

第五章 雜則

第二十九條 支出官其ノ振出シタル小切手又ハ第二十七條ニ規定スル返納告知書ニ記載セル年度所管會計名經常臨時部別又ハ款項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ小切手ノ支拂店ニ之カ訂正ヲ請求スルコトヲ得

第三十條 支出官第十三條第十九條乃至第二十二條及第二十四條ノ小切手裏面ノ記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ小切手ノ支拂店ニ對シ之カ訂正ノ請求ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ第十四條ニ規定スル金額氏名表中金額以外ノ誤謬訂正ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 支出官歳出金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ之カ訂正ヲ爲スコトヲ得

支出官前項ノ訂正ヲ爲サムトスルトキハ受取人ヲシテ該歳出金支拂通知書ヲ提出セシメ相當ノ訂正ヲ爲シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ

第三十二條 支出官第十六條ノ規定ニ依リ受取人ニ送付シタル歳出金支拂通知書ニシテ受取人ノ受領前亡失シ日本銀行ニ於テ其ノ支拂未濟ナルコトヲ確メタルトキハ之カ支拂ヲ停止セシメ更ニ歳出金支拂通知書ヲ調製シ表面餘白ニ「再發行」ノ印ヲ押捺シ之ヲ受取人ニ送付シ其ノ旨ヲ小切手ノ支拂店ニ通知スヘシ

第三十三條 支出官受取人ノ受領前亡失シタル歳出金支拂通知書ニ依リ日本銀行既ニ支拂ヲ爲シタルコトヲ確メタルトキハ事情ヲ詳具シタル書面ヲ所管大臣ヲ經由シ大藏大臣ニ送付スヘシ

支出官大藏大臣ヨリ支拂ヲ爲スヘキ旨ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條ノ規定ニ準シ之カ支拂ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 受取人支出官ヨリ送付ヲ受ケタル歳出金支拂通知書ヲ亡失シタルトキハ直ニ支拂場所タル日本銀行ニ支拂停止ノ請求ヲ爲シ且支拂未濟ナルトキハ當該

日本銀行ヲ經由シ支出官ニ届出ツヘシ
前項ノ届書ニハ歳出金支拂通知書ニ記載シタル金額番號年度發行官廳及支拂場所
ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ歳出金支拂通知書ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條 支出官前條ノ届書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ支拂ヲ要スルモノト認
メタルトキハ第三十二條ノ規定ニ準シ之カ支拂ニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

第三十六條 第三十三條ノ規定ハ受取人ノ亡失シタル歳出金支拂通知書ニ依リ既ニ
支拂ヲ受ケタル者アル場合ニ付之ヲ準用ス

第三十七條 支出官歳出金月計突合表又ハ歳出支拂未濟繰越金月計突合表ニ證明ヲ
爲シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明
ヲ爲シ之ヲ小切手ノ支拂店ニ送付スヘシ

附 則

第三十八條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條 左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス

前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入ルル取扱規程

明治二十三年大藏省令第十七號

明治二十三年大藏省令第二十七號

明治三十四年大藏省令第十二號

仕拂命令等盜難又ハ亡失ノ場合ニ關スル取扱手續

第四十條 歳出金仕拂通知書ニシテ本令施行前其ノ支拂ヲ了セサルモノハ従前ノ手
續ニ依リ日本銀行ニ於テ本令施行後一年間之カ支拂ヲ取扱ハシム

第四十一條 前條ニ規定スル支拂期間經過後仍時効ノ完成セサル債務ノ支拂ニ付テ
ハ會計規則第六十九條第二項ノ規定ニ依ル

第一號書式

小切手振出濟通知書

No. 大正「何」年度歳出
 (何) 省 所 管
 (何) 會 計
 (何) 部
 「款」
 「項」
 (何) 某) 渡

金

大正(何)年(何)月(何)日
 (支出官
 官 氏 名) 印

日本銀行(何)店御中

第二號書式 (内國送金ノ場合ニ於ケル小切手)
 裏面記載例

表面ノ金額ハ何府縣郡市町村何番地
 何某へ日本銀行本店 (何地支店又ハ
 代理店)ニ於テ拂渡(電信送金)ヲ要
 ス 官支
印出

又ハ 表面ノ金額ハ何府縣郡市町村何番地
 何某ニ送金ヲ要ス 官支
印出

又ハ 表面ノ金額ハ金額氏名表ニ記載ノ通
 拂渡(送金)ヲ要ス 官支
印出

第三號書式

大正(何)年(何)月(何)日 金 額 氏 名 表
 小切手第(何)號 (何)省所管 (何)會計 歳出(何)部 (支出官官氏名)印

大正(何)年度 (何)省所管 (何)會計 歳出(何)部 (項)

番 號	受 取		人 名	金 額	拂渡店又ハ送金先	備 考
	住 所	氏 名				

備考 用紙ハ縹砂引美濃判ノ半截トシ左方ニ一寸以上ノ綴代ヲ存スヘシ表裏ヲ
 使用スヘカラス若ニ葉以上ニ亘ルトキハ追次計ヲ附スヘシ

第四號書式(表面)

歳出金支拂通知書

管	所	省	(何)	第	手	出	度	年	大	正	(何)	計	附	日	出	振	手	切	小	額	金	
號	號	號	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
管	所	省	(何)	第	手	出	度	年	大	正	(何)	計	附	日	出	振	手	切	小	額	金	氏
號	號	號	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	氏
管	所	省	(何)	第	手	出	度	年	大	正	(何)	計	附	日	出	振	手	切	小	額	金	氏
號	號	號	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	氏
管	所	省	(何)	第	手	出	度	年	大	正	(何)	計	附	日	出	振	手	切	小	額	金	氏
號	號	號	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	氏

前記ノ金額日本銀行本店(何地支店)又ハ代理店(於テ受領セラルヘシ)

大正(何)年(何)月(何)日

(何某)宛

前記ノ金額(何)宛

印 紙 入

前記ノ金額領收候也

大正(何)年(何)月(何)日

受取人(住所)

何 (某) 宛

(注意) 受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

備考

- 一 用紙寸法 縦五寸二分 横六寸三分
- 二 用紙ハ印刷局紙若ハ永久保存ニ耐エル用紙ヲ用ユヘシ
- 三 官廳又ハ市町村若ハ公共團體等ノ收入ト爲ルヘキモノハ宛名ニ官廳名又ハ市町村若ハ公共團體名等ヲ記入シテ
- 四 領收證ニ收入印紙ノ貼用ヲ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ(要印紙)ノ印ヲ捺スヘシ

輪廓寸法 縦四寸六分 横五寸四分

(裏面)

注意事項

- 一 受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官廳公吏ニ在リテハ官廳名又ハ公共團體名等ヲ肩書シ官廳名ヲ記名捺印スヘシ同一ノモノニ限ル
- 二 受取人カ代理人ヲ以テ現金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ニ於テ本書委任欄内ニ相當ノ事項ヲ記載シ記名捺印スルカ又ハ別ニ委任狀ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ代理人ハ本書ニ代理人タルノ肩書ヲ附シ記名捺印スヘシ
- 三 受領金額五圓以上ノモノハ規定ノ收入印紙ヲ貼附消印スヘシ但シ營業ニ關セサルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 四 小切手振出ノ日附ヨリ一箇年ヲ過クルトキハ日本銀行ハ本書ニ對シ之カ支拂ヲ爲ササルモノトス
- 五 日本銀行ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ
- 六 日本銀行ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ

委任狀

表面金額ノ受取方ヲ _____ニ委任致候也

(住所) _____

大正(何)年(何)月(何)日 _____ 何 (某) 宛

- 第五號書式 { 邦貨ヲ基礎トスル外國送金ノ場合ニ於テ裏面記載例 }
- 表面ノ金額ハ何貨ニ換ヘ何國何地何某ニ送金(電信)ヲ要ス
- 備考 外國人ノ氏名及外國ノ地名ハ成ルヘク其ノ地ノ原語ヲ記入スヘシ
- 第六號書式 { 外國貨幣ヲ基礎トスル外國送金ノ場合ニ於テ裏面記載例 }
- 表面ノ金額ハ何貨何程ニ換ヘ何國何地何某ニ送金(電信)ヲ要ス
- 備考 外國人ノ氏名及外國ノ地名ハ成ルヘク其ノ地ノ原語ヲ記入スヘシ

第七號書式

返納告知書

通知書

領收證書

第(何)號	大正(何)年度	
(何)省所管	(何)會計	歳出(何)部
(款)	(項)	
金		
上記ノ金額大正(何)年(何)月(何)日迄ニ日本銀行本店支店又ハ代理店ニ拂込ヘシ		
大正(何)年(何)月(何)日		
(支出官官氏名)宛		
(何某)宛	定額戻入店	日本銀行(何)店

第(何)號	大正(何)年度	
(何)省所管	(何)會計	歳出(何)部
(款)	(項)	
金		
上記ノ金額定額ニ戻入済		
大正(何)年(何)月(何)日		
日本銀行(何)店		
(支出官官氏名)宛		
返納人(何某)	領收店	日本銀行(何)店

第(何)號	大正(何)年度
(何)省所管	
金	
上記ノ金額領收候也	
大正(何)年(何)月(何)日	
日本銀行(何)店	
返納人	
(何某)宛	

備考一 用紙寸法 縦五寸六分 横三寸八分 輪廓寸法 縦四寸五分 横三寸三分
 金額、番號、年度、所管廳名及科目ハ記入スルモノトシ、ナルトキ又既ニ之ヲ本邦
 三返納金ニシテ外國貨幣、外國貨幣、外國貨幣、返納金額ノ傍ニ(此何貨何程)ト記載スヘシ
 貨幣ニ交換シタルモノナルトキハ返納金額ノ傍ニ(此何貨何程)ト記載スヘシ

(参照)

明治二十三年七月十七日大藏省令第十七號ハ文官判任以上ノ者俸給支給ニ係ル仕
 拂命令仕拂請求書及金額氏名表仕拂命令官ヨリ交付スル通知書書式ノ件、同八月
 第二十七號ハ會計主務官ヨリ金庫ニ送付セル仕拂命令同請求書ニシテ受取人ニ現
 金交付前誤拂過渡發見ノトキ整理手續ノ件、同六月二日同第十二號ハ政府ト
 私人トノ債務ヲ相殺シタル場合ニ於テ發スル仕拂命令書式ノ件ナリ

出納官吏事務規程

(大正十一年一月十二日 大藏省令第二號)

第一章 總 則

- 第一條 出納官吏ハ本令ノ定ムル所ニ依リ現金ノ出納保管ニ關スル事務ヲ處理スヘシ
- 第二條 出納官吏法令ノ規定ニ依リ現金ニ代ヘ證券ヲ受領シタルトキハ現金ニ準シ之カ取扱ヲ爲スヘシ
- 第三條 出納官吏其ノ手許ニ保管スル現金ハ之ヲ堅牢ナル容器中ニ藏置スヘシ但シ

特別ノ事由アルトキハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ郵便局若ハ確實ナル銀行ニ預入レ又ハ資産信用アル者ニ其ノ保管ヲ託シ其ノ他適當ノ方法ニ依リ之ヲ保管スルコトヲ得

第四條 出納官吏其ノ取扱ニ係ル現金ハ私金ト混同スルコトヲ得ス

第五條 出納官吏他ノ公金ノ出納保管ヲ兼掌スル場合ニ於テハ其ノ現金ハ官金ト區分シ同一容器中ニ之ヲ保管スルコトヲ得

第六條 出納官吏本令ノ定ムル所ニ依リ振出ス小切手ハ本令中別段ノ定アル場合ヲ除ク外之ヲ記名式持參人拂ト爲スヘシ

第七條 官廳出納官吏又ハ日本銀行ヲ受取人トシテ振出ス小切手ハ之ヲ記名式トシ之ニ裏書禁止ノ旨ヲ記載スヘシ

前項ノ小切手金額ニシテ振替拂込ヲ要スルモノナルトキハ表面餘白ニ「要振替」ノ印ヲ押捺スヘシ

第八條 現金出納簿ハ一人一冊トシ出納官吏ハ職務及所管廳ノ如何ヲ問ハス其ノ取扱ニ係ル現金ノ出納ヲ總テ之ニ記入スヘシ

第九條 外國ニ於ケル出納官吏ノ事務取扱ニシテ本令ニ依リ難キモノニ付テハ特例

ヲ設クルコトヲ得

第十條 各省大臣ハ本令ニ定ムルモノヲ除ク外其ノ所屬出納官吏ノ事務取扱ニ付大藏大臣ト協議シ之カ必要ナル事項ヲ定ムルコトヲ得

第十一條 本令ハ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出納員ノ事務取扱ニ付之ヲ準用ス

第十二條 本令中各省大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督臺灣ニ在リテハ臺灣總督樺太ニ在リテハ樺太廳長官關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ行フ

第二章 收入官吏

第一節 收入金ノ領收

第十三條 收入官吏納人ヨリ納稅告知書納入告知書又ハ納付書ヲ添ヘ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納人ニ交付シ其ノ報告書ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

第十四條 收入官吏納人ヨリ納稅告知書納入告知書又ハ納付書ヲ添附セスシテ現金ノ納付ヲ受ケタルトキ又ハ歲入徵收官ノ口頭告知ニ依リ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ之ヲ收納シ領收證書ヲ納人ニ交付シ其ノ報告書ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ

第十五條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ邦貨ヲ基礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ

收納セムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ算出シタル金額ノ外國貨幣ヲ收納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歲入徵收官ニ送付スル報告書ニ記載スヘキ邦貨額ニ外國貨幣額及外國貨幣換算價格ヲ傍記スヘシ

第十六條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基礎トスル收入金ヲ邦貨ヲ以テ收納セムトスルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル金額ノ邦貨ヲ收納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歲入徵收官ニ送付スル報告書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額及外國貨幣換算價格ヲ傍記スヘシ

第十七條 收入官吏外國ニ於テ納人ヨリ外國貨幣ヲ基礎トスル收入金ヲ外國貨幣ヲ以テ收納シタルトキハ別ニ定ムル外國貨幣換算價格ニ依リ換算シタル邦貨額ヲ歲入徵收官ニ送付スル報告書ニ記載シ其ノ收納シタル外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

第二節 收入金拂込

第十八條 日本銀行本店支店又ハ代理店ヲ謂フ以下同シ所在地ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第一號書式ノ現金拂込書ヲ添ヘ現金領

收ノ日又ハ其ノ翌日日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ領收金額百圓未満ナルトキハ毎十日分ヲ取纏メ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得

第十九條 日本銀行所在地外ニ在勤スル收入官吏其ノ在勤地ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ左記期限内ニ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ムヘシ但シ第二號乃至第四號ノ場合ニ於テハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一、領收金高百圓未満ナルトキハ最初ノ現金領收ノ日ヨリ起算シテ十五日内
- 二、領收金高百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ十日内
- 三、領收金高五百圓以上ニ達シタルトキハ其ノ日ヨリ起算シテ五日内
- 四、領收金高千圓以上ニ達シタルトキハ其ノ翌日限

第二十條 收入官吏其ノ在勤地外ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ第十八條ノ規定ニ準シ拂込ヲ爲シ得ル場合ヲ除クノ外前條ノ規定ニ準シ之カ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 運輸交通ノ不便ナル地方ニ在勤スル收入官吏ニシテ第十九條ノ規定ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ之カ特例ヲ設クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ外國貨幣ノ拂込ヲ爲サムトスルトキハ現金拂込書ニ邦貨額ヲ記載シ外國貨幣額ヲ傍記スヘシ

第二十三條 收入官吏外國ニ於テ領收シタル現金ニシテ前條ノ規定ニ依リ拂込ヲ爲スコト能ハサルモノニ付テハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外一月分ヲ取纏メ之ヲ爲替券ニ換ヘ現金拂込書ヲ添ヘ日本銀行本店ニ拂込ムヘシ
前項ノ現金拂込書ニハ邦貨額ヲ記載シ爲替券面額ヲ傍記スヘシ

第三節 現金拂込報告

第二十四條 收入官吏ハ現金出納簿ニ依リ毎月第二號書式ノ現金拂込仕譯書ヲ調製シ翌月五日迄ニ之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ
分任收入官吏ノ調製シタル現金拂込仕譯書ハ主任收入官吏ニ於テ之ヲ取纏メ歳入徴收官ニ送付スルモノトス但シ歳入徴收官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ分任收入官吏ヲシテ直接ニカ送付ヲ爲サシムルコトヲ得

第三章 資金前渡官吏

第一節 總 則

第二十五條 資金前渡官吏日本銀行ニ資金ヲ預託スル場合ニ於テハ該資金前渡官吏

ヲ任命シタル者豫メ其ノ資格氏名ヲ當該日本銀行ニ通知スヘシ

第二十六條 資金前渡官吏ハ前條ノ場合ニ於テ照校ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ニ官職氏名ヲ記載シ之ヲ日本銀行ニ提出スヘシ

第二節 前渡資金ノ受入保管及引出

第二十七條 日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏ハ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ其ノ地ノ日本銀行ニ預託スヘシ但シ常時小口ノ現金支拂ヲ要スル場合ニ於テ支出官ノ定ムル所要金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 日本銀行所在地外ニ在勤スル資金前渡官吏ハ其ノ在勤地又ハ出張地最寄ノ日本銀行ニ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ預託スルコトヲ得日本銀行所在地ニ在勤スル資金前渡官吏在勤地外ニ於テ現金ヲ保管スルトキ亦同シ

第二十九條 資金前渡官吏前二條ノ規定ニ依リ其ノ現金ヲ日本銀行ニ預託セムトスルトキハ之ニ第三號書式ノ預託金拂込書ヲ添ヘ日本銀行ニ拂込ミ預託金領收證書及小切手用紙ノ交付ヲ受クヘシ

第三十條 資金前渡官吏日本銀行ニ預託シタル現金ヲ引出サムトスルトキハ自己ヲ受取人トスル小切手ヲ振出スヘシ

第三節 支拂

第三十一條 資金前渡官吏債主ヨリ支拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ請求ハ正當ナルカ資金交付ヲ受ケタル目的ニ違フコトナキカヲ調査シ之カ支拂ヲ爲シ領收證書ヲ徵スヘシ

第三十二條 資金前渡官吏文官判任以上ノ者ノ俸給ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ俸給額ヨリ國庫納金額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徵スヘシ

第三十三條 民法ノ規定ニ依リ政府ト私人トノ債務ノ相殺アリタルトキハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ控除シタル殘額ノ支拂ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ徵スヘシ

第三十四條 資金前渡官吏日本銀行預託金中ヨリ支拂ヲ爲サムトスルトキハ現金ノ交付ニ代ヘ該預託金ニ對スル小切手ヲ振出スヘシ但シ受取人ニ於テ特ニ現金ノ交付ヲ求メタル場合ハ此ノ限りニ在ラス

第三十五條 資金前渡官吏ハ其ノ振出シタル小切手ニシテ振出日附後一年ヲ經過シ日本銀行ニ於テ未タ支拂ヲ了セサルモノニ付テハ其ノ金額、年度、科目及債主名ヲ支出官ヲ經由シテ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第三十六條 資金前渡官吏前條ノ金額ニ付歲入徵收官ヨリ納入ノ告知ヲ受ケタルト

キハ該金額ヲ券面金額トシ當該官廳ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ該告知書ニ添ヘ日本銀行ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 第三十四條ノ小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シ日本銀行ニ於テ支拂ヲ拒絕セラレタルカ爲其ノ所持人ヨリ償還ノ請求アリタルトキハ資金前渡官吏ハ之ヲ調査シ償還スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ詳ニシ證憑書類ヲ添ヘ支出官ヲ經由シ之ヲ所管大臣ニ具申シ所管大臣ハ審査ノ上之カ支拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第三十八條 前二條ノ場合ニ於テ資金前渡官吏交替シタルトキハ後任官吏ニ於テ之カ手續ヲ爲スヘシ但シ後任官吏ナキ場合ニ於テハ其ノ殘務ヲ引繼キタル官吏其ノ手續ヲ爲スモノトス

第三十九條 資金前渡官吏資金ヲ隔地ノ出納官吏ニ送付スル必要アル場合ニ於テハ日本銀行ニ之カ送金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 資金前渡官吏前條ノ送金ヲ請求セムトスルトキハ送金額ヲ券面金額トシ日本銀行ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ其ノ裏面ニ受取人ノ資格氏名支拂店名及送金ヲ要スル旨ヲ記載シ之ヲ預託金ヲ取扱フ日本銀行ニ交付シ領收證書ヲ徵スヘシ

前項ノ場合ニ於テ資金前渡官吏ハ第四號書式ノ預託金支拂通知書ヲ受取人ニ送付スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ資金前渡官吏電信送金ヲ要スルトキハ其ノ振出ス小切手ノ裏面ニ其ノ旨ヲ記入スルト共ニ前項ノ通知書ニ代ヘ電信ヲ以テ受取人ニ通知スヘシ

第四十一條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書所載ノ支拂場所ノ變更ニ關スル規定ハ前條ノ預託金支拂通知書ノ支拂店變更ニ付之ヲ準用ス

第四十二條 毎年度ニ屬スル歳出金ノ支拂ヲ爲シ得ルハ翌年度四月三十日限トス

第四節 拂込及返納

第四十三條 資金前渡官吏第三十二條ノ手續ヲ爲シタルトキハ國庫納金額ニ相當スル現金ニ第五號書式ノ國庫納金額表ヲ添ヘ歳入徵收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

第四十四條 資金前渡官吏第三十三條ノ手續ヲ爲シタルトキハ相殺金額ニ相當スル現金ニ第六號書式ノ相殺額表ヲ添ヘ歳入徵收官ノ指定シタル收入官吏ニ拂込ミ領收證書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ政府ノ債權者資金前渡官吏所屬廳以外ノ官廳ニ對スル債務ヲ以テ相殺シタルトキハ該官廳ノ歳入徵收官ヨリ納入告知書ヲ受ケ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十五條 政府ノ收納スヘキ金額カ相殺額ト同額ナルトキ又ハ之ヲ超過スル場合ニ於テハ資金前渡官吏相殺金額ニ付前條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ收納金額ノ相殺額ヲ超過シタルモノニ付テハ資金前渡官吏ハ相殺額ヲ超過シタル金額及相殺ノ相手方ノ氏名ヲ歳入徵收官ニ報告スヘシ

第四十六條 資金前渡官吏其ノ前渡ヲ受ケタル資金ニ付支出官又ハ歳入徵收官ヨリ返納又ハ納入ノ告知書ヲ受ケタルトキハ現金ニ該告知書ヲ添ヘ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條 資金前渡官吏ハ前四條ノ場合ニ於テ日本銀行ニ預託シタル金額中ヨリ拂込ヲ爲サムトスルトキハ拂込金額ヲ券面金額トスル小切手ヲ振出スヘシ

第四十八條 前條ノ規定ニ依リ振出ス小切手ハ當該官廳ヲ受取人トシ表面餘白ニ第四十三條ノ場合ニ於テハ「國庫納金」ノ印第四十四條及第四十五條ノ場合ニ於テハ「相殺額」ノ印ヲ押捺スヘシ

第五節 證明

第四十九條 資金前渡官吏日本銀行ヨリ預託金月計突合表ニ支拂濟小切手其ノ他ノ證憑書類ヲ添ヘ送付ヲ受ケタルトキハ證憑書類ト對照シ證明ノ上五日內ニ之ヲ日本銀行ニ返付スヘシ但シ相違アル點ニ付テハ其ノ事由ヲ附記スルモノトス

第四章 歳入歳出外現金出納官吏

第五十條 歳入歳出外現金出納官吏現金ヲ領收シタルトキハ領收證書ヲ交付シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五十一條 歳入歳出外現金出納官吏ノ領收シタル現金ヲ大藏省預金部預金ニ拂込

ヲ爲ス場合ニ於テハ保管金取扱規程及預金部預金取扱規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第五十二條 歳入歳出外現金出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ拂渡シタルトキハ受取人ヨリ領收證書ヲ徴シ其ノ旨ヲ取扱官廳ニ報告スヘシ

第五章 繰替拂出納官吏

第五十三條 本令ニ於テ繰替拂出納官吏ト稱スルハ會計規則第六十三條ノ規定ニ依リ其ノ取扱ニ係ル現金ノ繰替使用ヲ爲ス出納官吏ヲ謂フ

第五十四條 繰替拂出納官吏ハ其ノ取扱ニ係ル歳入金、歳出金及歳入歳出外現金ニ付

交互振替及繰替計算ヲ以テ之カ受拂ヲ爲シ其ノ現金ハ之ヲ一團トシテ取扱フヘシ

第五十五條 繰替拂出納官吏ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ保管ニ係ル現金ヲ日本銀行ニ預託スヘシ

第五十六條 第三十九條乃至第四十一條ノ規定ハ帝國鐵道官署ニ於ケル繰替拂出納

官吏隔地ノ債主又ハ出納官吏ニ送金ヲ爲スノ必要アル場合ニ付之ヲ準用ス但シ預

託金支拂通知書ハ第七號書式ニ依ルモノトス

前項ノ場合ニ於テ運輸交通ノ不便ノ地ニ在ル債主又ハ出納官吏ヨリ其ノ住所又ハ居所ニ送金ヲ求メタルトキハ其ノ住所又ハ居所ヲ支拂場所ニ指定スルコトヲ得此

ノ場合ニ於テハ預託金支拂通知書ニ代ヘ適宜ノ通知書ヲ受取人ニ送付スヘシ

第五十七條 第十三條乃至第十七條、第二十五條、第二十六條、第二十九條、第三十條、第三十四條乃至第三十八條、第四十二條、第四十九條、第五十條及第五十二條ノ規定ハ繰替

拂出納官吏ニ之ヲ準用ス

第五十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外繰替拂出納官吏ノ事務取扱ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ルヘシ

第六章 事務引継手續

第五十九條 出納官吏交替ノ場合ニ於テハ前任出納官吏ハ現金出納簿ニ締切ヲ爲シ引繼ノ年月日ヲ記入シ後任出納官吏ト共ニ記名捺印スヘシ

第六十條 日本銀行ニ預託金ヲ有スル前任出納官吏ハ前條ノ締切ヲ爲シタル日ニ於ケル預託金現在高ノ證明ヲ日本銀行ニ對シ請求スヘシ

第六十一條 前任出納官吏ハ第八號書式ノ現金現在高書又ハ現金及預託金現在高書竝其ノ引繼クヘキ帳簿證憑其ノ他ノ書類ノ目錄各二通ヲ調製シ後任出納官吏立會ノ上現物ニ對照シ受授ヲ爲シタル後現在高書及目錄ニ年月日及受授ヲ了シタル旨ヲ記入シ兩出納官吏ニ於テ記名捺印シ各一通ヲ保存スヘシ

第六十二條 前條ノ手續ヲ了シタルトキハ前任出納官吏ハ後任出納官吏ト共ニ記名捺印ノ上預託金現在高引繼通知書ヲ所屬官廳及日本銀行ニ送付スヘシ

前項ノ通知書ニハ前任出納官吏ノ振出シタル小切手ニシテ日本銀行ニ於テ未タ支拂ヲ了セサル金額ヲ區分記載スヘシ

第六十三條 第二十四條ノ規定ニ依リ調製スヘキ現金拂込仕譯書ハ後任收入官吏ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第六十四條 前任出納官吏死亡又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ引繼ヲ爲スコト能ハサルト

キハ會計規則第四百十六條ノ規定ニ依リ計算書ノ調製ヲ命セラレタル官吏本章ノ定ムル所ニ依リ之カ手續ヲ爲スヘシ

第七章 雜 則

第六十五條 出納官吏其ノ保管ニ係ル現金ヲ亡失シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ所屬官廳ニ報告スヘシ

第六十六條 出納官吏領收濟報告書現金拂込書又ハ預託金拂込書ノ記載事項中誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ翌年度五月三十一日迄ニ歳入徴收官又ハ日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ

第六十七條 出納官吏預託金支拂通知書ノ記載事項中金額以外ノモノニ付誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ受取人ヲシテ該預託金支拂通知書ヲ提出セシメ之カ訂正ヲ爲シ其ノ事由ヲ記入シ之ヲ受取人ニ返付スヘシ

第六十八條 出納官吏第四十條及第五十六條ニ規定スル小切手ノ裏面記載事項ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク日本銀行ニ之カ訂正ヲ請求スヘシ

第六十九條 出納官吏現金拂込ニ係ル領收證書又ハ預託金領收證書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ日本銀行ヨリ其ノ拂込濟ノ證明ヲ受クヘシ

第七十條 支出官事務規程中歳出金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ關スル規定ハ第四十條第二項及第五十六條第一項ニ規定スル預託金支拂通知書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル取扱ニ付之ヲ準用ス

第七十一條 出納官吏預託金月計突合表ニ證明ヲ爲シタル後其ノ證明ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シテ證明ヲ爲シ之ヲ日本銀行ニ送付スヘシ
七十二條 出納官吏第三十九條又ハ第五十六條ノ規定ニ依リ送金ヲ依頼シタル後其ノ必要ナキニ至リタルトキハ支拂未了ナル場合ニ限り日本銀行ニ對シ預託金ニ戻入ヲ請求スヘシ

附 則

第七十三條 本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七十四條 左ノ大藏省令ハ之ヲ廢止ス

出納官吏現金取扱規則

明治三十年大藏省令第一號

帝國鐵道會計所屬出納官吏雜部保管金取扱手續
艦隊經費ヲ取扱フ出納官吏雜部保管金取扱手續

第七十五條 本令施行前金庫ニ寄託ヲ爲シタル現金ハ本令ニ依リ日本銀行ニ預託シタルモノト看做ス

第七十六條 本令施行前發行シタル保管金引出切符又ハ雜部保管金仕拂通知書ハ本令ニ依リ發行シタル小切手又ハ預託金支拂通知書ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

第一號書式

現金拂込書

第(何)號	大正(何)年度
(所管廳)	(歳入徴收官官氏名)
(經常(臨時))	(取扱廳)
金	
上記ノ金額拂込候也	
大正(何)年(何)月(何)日	
(何廳主任收入官吏官氏名)印	
又ハ(何廳主任收入官吏官氏名所屬)	
(何廳分任收入官吏官氏名)印	

通知書

第(何)號	大正(何)年度
(經常(臨時))	(何廳主任收入官吏官氏名)
	(何廳主任收入官吏官氏名所屬)
	(何廳分任收入官吏官氏名)
金	
上記ノ金額領收済ニ付通知候也	
大正(何)年(何)月(何)日	
日本銀行(何)店印	
(歳入徴收官官氏名)宛	

第二號書式

大正(何)年度

大正(何)年(何)月分現金拂込仕譯書

摘要	金額	備考
前月迄拂込未済		
本月中現金領收高計		
本月中現金拂込高		
差引翌月へ越		

大正(何)年(何)月(何)日
 (主任(又ハ分任)收入官吏官氏名)印
 (歳入徴收官官氏名)宛
 備考 用紙ハ美濃判四分ノ一トス

領收證書

第(何)號	大正(何)年度
(諸官廳)	(歳入徴收官官氏名)
(經常(臨時))	(何廳主任收入官吏官氏名)
	拂込人又ハ(何廳主任收入官吏官氏名所屬)
	(何廳分任收入官吏官氏名)
金	
上記ノ金額領收候也	
大正(何)年(何)月(何)日	
日本銀行(何)店印	

備考 一用紙寸法 縦 五寸六分 輪廓寸法 縦 四寸五分
 横 三寸八分 横 三寸三分
 ノモノ三枚接續トシ左方ニ一寸ノ綴代ヲ設クヘシ
 二金額、番號、年度、所管廳名、歳入徴收官官氏名及經
 常臨時部名ハ收入官吏ニ於テ記入スルモノトス

第五號書式 國庫納金額表 收入取扱官廳

所管廳		備考	
年度	上	現金又ハ小切手	備考 用紙ハ美濃判半載トス
國庫納金者氏名	國庫納金額 拂込候也	國庫納金者氏名	備考 用紙ハ美濃判半載トス
國庫納金額	國庫納金額	俸給額	備考 用紙ハ美濃判半載トス
備考			

第三號書式

預託金拂込書

第(何)號

金

上記ノ金額預託候也

大正(何)年(何)月(何)日

(何廳出納官吏氏名)印

日本銀行(何)店宛

備考 用紙 適宜
用紙寸法 美濃判四分ノ一
原符ハ適宜之ヲ設クルコトヲ得

第四號書式

領收證 預託金支拂通知書

前記ノ金額領收候也 大正(何)年(何)月(何)日 (何廳又ハ)艦船 出納官吏官氏名)印	第(何)號	取扱廳名	預託金取扱日本銀行名
	(何廳又ハ)艦船 出納官吏官氏名)宛	(何廳出納官吏官氏名)印	前記ノ金額日本銀行本店 (何地支店又ハ代理店)ニ 於テ受領セラルヘシ 大正(何)年(何)月(何)日
			金

備考 一用紙寸法 縱五寸二分 横六寸三分
輪廓寸法 縱四寸六分 横五寸四分
二本書ハ左方ニ八分ノ綴代ヲ設クヘシ
三支拂指定日本銀行ニ於テ支拂ノ上ハ本書ヲ預託金取扱日本銀行ニ送付スヘシ

第七號書式(表面)
領收證 預託金支拂通知書

前記ノ金額領收候也 大正(何)年(何)月(何)日	第(何)號	取扱廳名	預託金取扱日本銀行名
印收紙入 受取人(住所) 何某(印) 又ハ(何)應出納官吏(印) 官氏名(印)	(何)某(又ハ) 何應出納官吏官氏名(宛)	大正(何)年(何)月(何)日 (何)應出納官吏官氏名(印)	前記ノ金額日本銀行本店(何)地支店又ハ代理店)ニ於テ受領セラルヘシ 金

(注意) 受取人ハ裏面ノ注意事項ヲ熟覽スヘシ

備考
一 用紙寸法 縦五寸三分 横六寸三分
二 輪廓寸法 縦四寸六分 横五寸四分
三 二本書ハ左方ニ八分ノ綴代ヲ設クヘシ
四 領收證書ニ貼入印紙ノ要スルモノハ其ノ貼用場所ニ(要印紙)ノ印ヲ捺スヘシ

(裏面)
一 受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シ記名捺印スヘシ但シ官吏等ヲ肩書シ官職名ヲ記シ記名捺印スヘシ
二 受取人ノ印章ハ請求書ニ捺シタルモノト同一モノニ限ル
三 受取人カ代理人ヲ以テ現金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルキハ本人ニ於テ本書委任欄内ニ相當ノ事項ヲ記載シ記名捺印スルカ又ハ別ニ委任人ハ本書ニ此ノ場合ニ於テ代理人名捺印スヘシ
四 受領金額五圓以上ノモハ規定ノ收入印紙ヲ貼附シ以上ノ限ニ在ラス
五 小切手振出ノ日附ヨリ一箇年ヲ過クルトキハ日本銀行ハ本書ニ對シ之カ支拂ヲ爲ササルモノトス
六 本書ヲ失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ拂渡ヲ受クヘキ日本銀行ニ通知シ支拂ノ停止ヲ請求スヘシ

委任狀
表面金額ノ受取方ヲ(住所) 何某(印)ニ委任致候也
大正(何)年(何)月(何)日

收入取扱官廳 表 額 殺 相

考 備	額 金 殺 相	名 氏 官 宛	方 氏 官 宛	手 氏 官 宛	切 手 氏 官 宛	現 金 又 ハ 小 切 手	度 年	管 廳 所
		也	也	也	也	也		
		候	候	候	候	候		
		大正(何)年(何)月(何)日	大正(何)年(何)月(何)日	大正(何)年(何)月(何)日	大正(何)年(何)月(何)日	大正(何)年(何)月(何)日		
		美濃判半載	美濃判半載	美濃判半載	美濃判半載	美濃判半載		
		用紙	用紙	用紙	用紙	用紙		
		備考	備考	備考	備考	備考		

第八號書式甲
明治三十年一月十日大藏省令第一號ハ臺灣在勤ノ收入官吏出納官吏金庫ニ現金拂込並
(參照)

金種類	金額	備考
	圓	
上記ノ大正(前任(後任)備考)	通引繼ヲ了シ候也 (何)年(何)月(何)日 (何)氏名(何)氏名 用紙ハ美濃判半截トス	

第八號書式乙

現金在高	預託金高	計	振出濟小 切手支拂 未濟高	備考
圓	圓	圓	圓	
上記ノ大正(前任(後任)備考)	通引繼ヲ了シ候也 (何)年(何)月(何)日 (何)氏名(何)氏名 用紙ハ美濃判半截トス			備考欄ニ區分記載ス

監守證送付ノ件ナリ

會計法改正案要項

目次

大藏省

- 第一、金庫制度廢止及預金制度採用ノ件(第五條第十二條第十五條第二十條第四十條及第四十一條)
- 第二、太藏省證券及一時借入金ニ關スル件(第六條)
- 第三、第二豫備金支出事後承諾案提出期繰上ノ件(第十條)
- 第四、災害事變等ノ場合ニ於テ翌年度ニ亘ル契約ヲ締結スル件(第十一條)
- 第五、現金前渡、繰替拂前金拂、概算拂、渡切及過年度支出ニ關シ法律上ノ根據ヲ明ニスル等ノ件(第十七條第十九條第二十一條第二十二條及第二十九條)
- 第六、決算提出時期繰上ノ件(第一條第八條及第二十三條)
- 第七、總決算ノ様式並豫算書又ハ決算書參考書類ニ關スル改正ノ件(第八條第二十四條及第二十五條)

- 第八、定額戻入ノ範圍ヲ擴張スルノ件(第三十條)
- 第九、契約ニ關スル競争入札主義ノ原則ヲ緩和シ以テ一般ノ實狀ニ適合セシムトスルノ件(第三十一條)
- 第十、時効ニ關スル從來ノ主義ヲ變更シ及規定ノ不備ヲ補フノ件(第三十二條乃至第三十四條)
- 第十一、出納官吏ノ責任ヲ緩和スルノ件(第三十六條)
- 第十二、各廳事務員ヲシテ出納官吏ノ事務ヲ分掌セシムルノ件(第十二條第二項、第三十七條及附則第二項)
- 第十三、日本銀行ノ國庫金ノ出納國庫事務及政府有價證券ノ取扱ニ關スル會計検査院ノ検査ノ件(第四十一條)
- 第十四、本改正案施行ニ伴フ規定(附則)
- 第十五、現行法中削除スヘキ法條
- 第十六、整理シタル法規

會計法改正案要項

第一、金庫制度廢止及預金制度採用ノ件(第五條、第十二條、第十五條、第二十條、第四十條及第四十一條)

國庫金ノ出納ニ關シ金庫制度ヲ廢止シテ國庫預金制度ヲ採用スヘシトスルノ說ハ既ニ十數年以來唱ヘラレタル所ニシテ政府ニ於テモ夙ニ之カ實施ノ利害及實行方法等ニ付講究スル所アリシカ今ヤ政府財政ト一般金融トノ關係ニ鑑ミ預金制度ヲ採用スルヲ適當ト認メ此ノ制度上ノ改革ヲ實行セムトス

今本改正案ニ付其ノ概要ヲ説明スルハ左ノ如シ

一、國庫金出納ノ事務ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトトシ日本銀行ニシテ國庫金受入ヲ爲シタルトキハ之ヲ政府ノ預金ト爲スヘキコトヲ規定シテ茲ニ國庫預金制度ノ大本ヲ定メタリ(第五條)

二、日本銀行ヲシテ歳入金ヲ收納セシムル件(第十二條)

租稅其ノ他ノ歳入ノ徵收又ハ收納ハ當該官吏ノ資格アル者ニアラサレハ之ヲ爲スヲ得サルヲ原則トスルモ國庫預金制度ヲ採用スル以上日本銀行ヲシテ歳入ノ

收納ヲ取扱ハシムルヲ必要ト認メ同一條項中ニ之カ必要ナル例外規程ヲ設ケタリ

三、仕拂命令ヲ廢止シ小切手振出ノ方法ニ依ルノ件(第十五條)

國庫預金制度採用ノ結果政府ノ仕拂ニ付テハ日本銀行ヲ仕拂人トセル小切手ヲ振出シ現金ノ交付ニ換フルコトトシ隨テ之ヲ債主ニ對シテ交付スル場合ニ於テハ債務辨濟ノ效力ヲ生スルモノト爲セリ

四、隔地者ニ仕拂ノ爲必要ナル資金ヲ日本銀行ニ交付スルノ件(第二十條)

金庫制度ノ下ニ於テハ各地金庫ニ對スル國庫金ノ配賦ノ方法ニ依リテ隔地者ニ對スル仕拂ヲ爲スノ方法ヲ採リタルモ金庫ノ廢止セラレル以上政府ノ隔地債主ニ對スル仕拂及隔地出納官吏ニ對スル資金ノ交付ハ日本銀行ヲシテ之ヲ爲サシムルト共ニ豫メ之ニ對シテ必要ナル資金ヲ交付スルヲ以テ適當ト認メ之カ規定ヲ設ケタリ

五、日本銀行ヲシテ有價證券ノ取扱ヲ爲サシムルノ件(第四十條)

金庫制度ノ下ニ於テハ政府ノ所有ニ係ル有價證券ノ取扱ハ金庫ニ於テ之ヲ爲シタルカ(明治二十三年勅令第二百七十三號、明治二十六年勅令第七十號參照)金庫制

度ヲ廢止スル以上是等ノ有價證券ノ取扱ニ付テモ國庫金ノ取扱ニ於ケルカ如ク日本銀行ヲシテ之ニ當ラシムルヲ以テ必要ナリト認メ之カ規定ヲ設ケタリ

第二、大藏省證券及一時借入金ニ關スル件(第六條)

大藏省證券ノ發行ニ付テハ現行會計法第九條ニ其ノ最高額ニ關スル規定存スルノミニシテ同證券ノ性質竝發行ノ方法手續等ハ大藏省證券條例(明治十七年九月太政官布告第二十四號)ニ規定セリ然レトモ該證券ヲ如何ナルモノナリヤ等ノ點ハ會計法中ニ規定スルヲ以テ制度上適當ナリト認メ該證券カ國庫金出納上一時ノ使用ニ供スル爲ニ發行スルモノナルニ鑑ミ之ヲ第一章總則中ニ規定シタリ之ト同時ニ一時借入金ニ付テハ明治二十七年法律第十六號ニ規定シタルモ該法律第一條ハ預金制度採用ノ結果當然削除スヘク第二條及第三條ハ大藏省證券ト同様ニ規定シ該法律ヲ廢止スルヲ適當ト認メ之カ條項ヲ設クルコトトシタリ

第三、第二豫備金支出事後承諾案提出期限上ノ件(第十條)

現行法第八條ニ依レハ豫備金支出ハ其ノ第一豫備タルト第二豫備金タルトヲ問ハス凡テ年度經過後ノ帝國議會ニ提出スルノ規定ナルモ從來之カ提出ノ時期ヲ早ムトスルノ議少カラス而シテ第一豫備金ハ單ニ豫算ノ不足ヲ補充スルニ止マリ且

其ノ計算書ノ調製上一年度内ノ計算ヲ明ニスルノ必要アルヲ以テ從來ノ如ク年度經過後ノ帝國議會ニ提出セシムルヲ適當トスルモ第二豫備金支出ニ至リテハ全然豫算外ニ生シタル必要ナル費用ニ充ツルモノナルヲ以テ年度經過後ヲ待タス最近ノ常會ニ提出スルヲ以テ相當ト認メ之カ改正ヲ爲サムトス

第四、災害事變等ノ場合ニ於テ翌年度ニ亘ル契約ヲ締結スルノ件(第十一條)

從來翌年度ニ亘ル契約ヲ爲シ得ルハ特ニ豫算上繼續費タルモノ翌年度へ繰越ヲ認メタルモノ及豫算外國庫ノ負擔ト爲ルヘキ契約トシテ帝國議會ノ協賛ヲ經タル場合ニ限ルト雖モ災害事變其ノ他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テ之カ復舊ニ付急速ニ契約ヲ締結スルノ必要アリ而カモ其ノ工事ノ年度内ニ完成スルノ見込無キ場合少カラス斯カル場合ニ於テ現行法上翌年度ニ亘ル契約ヲ爲スヲ得サル爲實際上不便トスル所多シ仍テ改正案ニ於テハ災害事變其ノ他避クヘカラサル事由アル場合ニ於テハ翌年度ニ亘ル契約ヲ爲スコトヲ得ル旨ノ規定ヲ設ケ尙其ノ負擔金額ノ最高限度ニ付テハ豫メ毎年度帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定メシムルコトトセリ

第五、現金前渡繰替拂前金拂、概算拂、渡切及過年度支出ニ關シ法律上ノ根據ヲ明ニスル等ノ件(第十七條、第十九條、第二十一條、第二十二條及第二十九條)

一、現金前渡ニ關スル件(第十七條及第十八條)

現行法第十五條第二項ニ於テハ官吏又ハ銀行ニ現金前渡ヲ爲シ得ル場合ニ付列舉規定シタルモ改正案ニ於テハ官吏ニ前渡ノ場合及銀行ニ前渡ノ場合ヲ分テ前者ニ付テハ第十七條ニ規定シ且前渡ヲ許スヘキ各個ノ事項ハ勅令ノ規定ニ讓ルコトトシ後者ニ付テハ第十八條ニ規定シ且日本銀行ニ國債ノ元利拂ノ爲ニスル場合ニ之ヲ限ルコトトセリ

二、繰替拂ニ關スル件(第十九條)

歳入金、歳出金及歳入歳出外現金ヲ繰替使用ニ關スル規定ヲ勅令ヲ以テ定メ得ルヤ否ヤニ付テハ從來議論ノ存スル所ナリシヲ以テ改正案ニ於テハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ得ル旨ヲ明ニセリ

三、前金拂及概算拂ニ關スル件(第二十一條)

現行法第二十三條但書中ニ所謂前金渡ハ現金前渡前金拂及前金渡ノ三者ヲ包含スルモノト解シ現金前渡及第二十五條ニ規定スル事項ノ外ハ勅令ヲ以テ之ヲ規定セリ然レトモ前金渡ト謂字句ヲ右ノ如ク解スルハ頗ル困難ナルヲ以テ前金拂ニ改メ且現金前渡ノ場合ヲ除外スルコトトシ尙勅令ノ規定ヲ以テ前金拂ヲ爲シ

得へキ根據ヲ明ニセリ又概算拂ニ付テモ法律上ノ根據ヲ缺キタルヲ以テ前金拂ト同シク改正案ニ其ノ規定ヲ設ケタルナリ

四、渡切ニ關スル件(第二十二條)

從來渡切ノ經費ニ付テハ或ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ或ハ其ノ規定ヲ缺キタルモノアリテ一定セサルノミナラス此ノ種ノ經費ニ對シ會計検査院ハ検査ヲ爲スヘキモノナリヤ否ヤニ付疑アリ

仍テ本改正案ニ於テハ渡切ヲ以テ主務官吏ニ支給スルモノニシテ會計検査院ノ検査ヲ要セサル旨ヲ明ニスルト同時ニ少クトモ勅令ニ其ノ規定ノ存スルコトヲ必要トセリ

五、過年度支出ニ關スル件(第二十九條)

從來過年度支出ニ關シテハ會計法中ニ何等規定セス會計規則ニ於テ始メテ之ヲ認メタリ然レトモ過年度支出ハ各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ストノ會計法上ノ原則ニ對スル例外ナルカ故ニ法律ヲ以テ定ムルヲ相當ト認メ改正案中ニ規定スルコトトセリ

第六、決算提出時期繰上ノ件(第一條、第八條及第二十三條)

歳入歳出決算提出ノ時期ニ關シテハ現行會計法上ニ何等ノ規定無ク事實上翌々年開會ノ帝國議會ニ提出スル慣例ナルヲ以テ其ノ時期遅キニ失ストノ批難ハ從來屢聞キタル所ナリ仍テ本改正案ニ於テハ出納事務完結ノ期限ヲ短縮シ決算書ノ調製ヲ迅速ニシ翌年開會ノ帝國議會ノ常會ニ之ヲ提出スルコトトシ以テ決算審議ノ效果ヲシテ一層有效ナラシムコトヲ期セムトス而シテ右改正ノ結果從來總豫算ノ參考書トシテ帝國議會ニ添附提出シタル歳入歳出現計ハ自ラ之ヲ要セサルコトトナルヲ以テ之ヲ廢止スルコトトセリ

第七、總決算ノ様式並豫算書又ハ決算書參考書類ニ關スル改正ノ件(第八條、第二十四條及第二十五條)

現行法第十六條ニ依レハ總決算ノ様式トシテ規定スル事項中ニハ歳入ノ部ニ於テ「不納缺損額」又歳出ノ部ニ於テ「不用額」ヲ含マシメサルモ是等ノ事項ヲ掲載スルヲ相當ト認メ改正案ニ於テハ之ヲ挿入スルコトトセリ
現行法第六條ニ依レハ總豫算ノ參考トシテ帝國議會ニ提出スヘキ文書中ニハ「歳入豫算明細書」ヲ含マサルモ改正案ニ於テハ實際上ノ取扱ニ從ヒ同條ノ規定中ニ之ヲ掲クルコトトセリ

現行法第十七條ニ依レハ總決算ニ添付シテ帝國議會ニ提出スヘキ文書中ニ歳入決算明細書ヲ包含セサルモ改正案ニ於テハ實際ノ取扱ニ從ヒ之ヲモ添付スヘキコトヲ規定セリ又總決算ノ添付書類トシテ各特別會計計算書ヲ添付セルモ各作業特別會計計算書ヲ除ク外ハ單純ニ歳入歳出ノ款項ヲ掲記スルニ止マリ各特別會計歳入歳出決算書ト全然同一ノモノニシテ不必要ナルヲ以テ之カ添付ヲ爲ササルコトトセリ唯各作業特別會計計算書ハ歳入歳出ノミナラス收入未済額支出未済額前年度ヨリ繰越物品ノ價格翌年度へ繰越物品ノ價格等ヲ掲ケ損益ノ計算ヲ簡單ニ説明スルモノナルヲ以テ作業會計法中ニ改正ヲ加ヘ其ノ決算書ニ添付セシムル見込ナリ

第八、定額戻入ノ範圍ヲ擴張スルノ件(第三十條)

現行法第二十三條ノ規定ニ依レハ前金渡、概算渡及繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ニ付テハ定額戻入ヲ認メタルモ誤拂過渡ト爲リタル金額ノ返納ニ付テハ支出上ノ嚴正ヲ維持スルカ爲總テ現年度ノ歳入ニ組入レシメ之ヲ定額ニ戻入スルコトヲ許サス然レトモ斯ノ如キハ豫算定額ノ使用上ニ不便ヲ生スルコトアリ仍テ改正案ニ於テハ之カ定額戻入ヲ認ムルト共ニ勅令ノ規定ヲ以テ適當ノ制限ヲ加ヘ其ノ弊ナカラシメムコトヲ期セムトス

第九、契約ニ關スル競争入札主義ノ原則ヲ緩和シ以テ一般ノ實情ニ適合セシメムトスルノ件(第三十一條)

現行法第二十四條ニ於テハ工事及物件ノ賣買貸借ニ付テ一般ノ競争入札ニ依ルノ原則ヲ採用シ例外トシテ隨意契約ニ依ルコトヲ許シ本法中ニ之ヲ列記シタルモ尙勅令ヲ以テ必要ニ應シ之カ規定ヲ定ムルコトトセリ改正案ニ於テハ一般ノ競争入札ニ付スルノ原則ハ之ヲ維持スルモ其ノ規定ヲ墨守スルノ結果却テ國庫ノ損失ヲ招クカ如キ弊害ニ陥ルコトナカラシメムコトヲ期シ各省大臣ニ於テ之ヲ不利ト認ムルトキハ其ノ宜シキニ從ヒ指名競争入札又ハ隨意契約ニ依リ得ルコトヲ認メ以テ實際ノ事情ニ適合セシムルコトトセリ唯不動産ノ賣拂ニ付テハ事重要ナルヲ以テ成ルヘク一般ノ競争ニ付セシムルコトトシ特別ノ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ制定ヲ俟テ隨意契約ニ依ラシムルコトトセリ

尙現行法ニ於テ隨意契約ニ依リ得ルモノトシテ列舉シタル事項ハ多キニ過キ立法ノ體裁ヲ得サルノミナラス金額ノ制限等ヲ法律中ニ定ムルコトハ實情ニ適セサルモノナルヲ以テ凡テ法律中ヨリ省キ勅令ヲ以テ定ムルコトトセリ又現行法上ニ於テ適用セムトスル契約ノ範圍ニ付テハ工事及物件ノ賣買貸借ト定メ字句狹キニ失

スルヲ以テ改正案ニ於テハ廣ク之ヲ契約ト改メ以テ規定ノ不備ヲ補ヘリ

第十、時効ニ關スル從來ノ主義ヲ變更シ及規定ノ不備ヲ補フノ件(第三十二條乃至第三十四條)

現行法第十八條及第十九條ノ規定ハ金錢ノ給付ヲ目的トスル權利ニ付テハ公法上ノモノタルト私法上ノモノタルトヲ問ハス凡テ原則トシテ年度經過後五年ニシテ消滅セシムルノ趣旨ナリ

然レトモ私法上ノ行爲ニ付テハ政府ト雖モ成ルヘク私法上ノ原則ニ依ルヲ至當トスルノミナラス一切ノ場合ヲ通シテ時効期間ヲ五年ト定ムルハ各種ノ事情ニ應ジ時効期間ニ差別ヲ設ケタル趣旨ヲ沒却スルノ結果ヲ生シ時効ノ本旨ニ適合セス故ニ私法上ノ權利義務ニ付テハ民法商法ノ規定ニ依ルコトトシ民法商法其ノ他ノ法律ニ規定ナキ場合ニ限り權利ヲ行使シ得ヘキ時ヨリ五年ニテ消滅スルコトトセリ尙又時効中斷停止等ニ付テハ何等ノ規定ナカリシヲ以テ他ニ別段ノ規定ナキ限り民法ニ準據スルノ規定ヲ設ケ以テ其ノ不備ヲ補ヒタリ

第十一、出納官吏ノ責任ヲ緩和スルノ件(第三十六條)

現行法第二十七條ノ規定ニ依レハ出納官吏ハ其ノ保管ニ係ル現金又ハ物品ノ紛失

毀損ニ付テハ避ケ得ヘカラサリシ事由ニ因リタルコトヲ證明スルニ非サレハ其責任ヲ免カルルコトヲ得ス隨テ天災事變等不可抗力ニ因ル場合ノ外ハ總テ賠償ノ責任ニ任セサルヘカラサルニ至リ苛酷ニ失ストノ批難アリ仍テ改正案ニ於テハ出納官吏ノ責任ニ付テハ其ノ職務ノ性質上必要且適當ナル注意ヲ爲サシムルヲ以テ足リト認メ善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ證明スレハ其ノ責任ヲ免レシムルコトト爲セリ

第十二、各廳事務員ヲシテ出納官吏ノ事務ヲ分掌セシムルノ件(第十二條第二項第三十七條及附則第二項)

現行法ニ於テハ各廳ノ事務員ヲシテ現金出納ノ事務ヲ分掌セシムル場合ニ付テハ特別ノ法律(明治三十三年法律第五十號、明治四十四年法律第二十四號)ヲ以テ規定スルノ主義ナリト雖モ斯ノ如キハ勅令ノ規定ニ依ルモ毫モ弊害ナシト認ムルヲ以テ改正案ニ於テハ其ノ趣旨ニ依ルコトトシ尙此ノ種ノ出納事務員ノ責任ニ關シテハ從來ノ如ク出納官吏ニ準スル旨ノ規定ヲ設ケ以テ從來ノ單行法律ヲ整理セリ

第十三、日本銀行ノ國庫金ノ出納國債事務及政府有價證券ノ取扱ニ關スル會計検査院ノ検査ノ件(第四十一條改正案第四十一條ニ於テハ日本銀行ニ對スル會計検査院

ノ検査ニ關シ規定ヲ設ケタリ即チ日本銀行ハ其ノ取扱ニ係ル國庫金ノ出納、國債發行ニ依ル收入金ノ收支、國債元利拂及隔地者拂ノ爲ニ日本銀行ニ交付シタル資金ノ收支並政府有價證券ノ受拂ニ關シ會計検査院ノ検査ヲ受クヘキモノト爲セリ而シテ現行金庫制度ノ下ニ於テハ日本銀行ハ金庫出納役トシテ國庫金ノ出納並政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ受拂其ノ他國債元利拂ノ取扱等ニ關シテ出納官吏トシテ賠償責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘキモノト爲セルモ(現行會計法第二十六條)預金制度採用ノ結果ハ國庫金出納其他ニ關シテ生スル日本銀行ノ賠償責任ハ出納官吏ノ場合ト異リ民事上ノ責任ニ屬スルモノナルカ故ニ會計検査院ハ日本銀行ニ對シ検査ヲ爲スモ判決ヲ爲ササルコトトシ出納官吏ト之ヲ區別スルコトトナシタリ

第十四、本改正案施行ニ伴フ規定(附則)

一、施行期日ニ關スル規定

本改正案施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトトセルモ成ルヘク大正十一年四月一日ヨリ施行スルノ豫定ナリ

二、第二豫備金事後承諾案提出時期ニ關スル規定

本法施行前ニ爲シタル第二豫備金支出ニ對スル事後承諾案ハ年度經過後ノ議會ニ提出スルノ外ナキコト明ナルモ舊法ハ既ニ廢止セラレタルヲ以テ準據スヘキ法條ヲ缺クニ至ル仍テ之ニ付テハ舊法ニ依ル趣旨ヲ明ニシタリ

三、決算提出時期ニ關スル規定

總決算ノ提出時期ヲ一箇年繰上クルニ付テハ其ノ實施前ニ相當法規ノ改廢等ノ準備ヲ必要トスルヲ以テ本法施行前ノ決算ヲ本法ノ規定ニ依リ直ニ翌年開會ノ常會ニ提出スルコト頗ル困難ナルカ故ニ之ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトト爲セリ

四、時効ニ關スル規定

本法施行前ニ期滿免除トナリタル權利ニ付テハ本法ノ適用ナキコト勿論ナリ然レトモ本法施行前期滿免除トナラサル權利換言スレハ本法施行ト同時ニ時効期間ノ進行ヲ始ムルノ權利及本法施行以前ヨリ進行ヲ始メ尙其ノ時効期間ヲ經過セサル權利ハ原則トシテ新法ノ規定ニ從ヒ私法的性質ヲ有スルモノハ民法、商法ノ規定ニ依ラシム但シ之ニ付テハ左ノ例外アリ

イ、起算點ハ凡テ舊法ノ規定ニ依ル蓋シ改正案ニ於テハ權利ヲ行使シ得ル時ヨ

リ起算スルカ故ニ未タ時効完成セサルモノニ付テハ舊法ニ依ルヲ便トスレハナリ

ロ、本法施行前ニ進行ヲ始メタル時効期間カ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効期間ヨリ長キトキハ既得權尊重ノ趣旨ニ從ヒ舊法ニ依ルコトトセリ然レトモ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法其ノ他ノ法律ニ定メタル時効期間ヨリ長キトキハ寧ロ其ノ日ヨリ起算シ新法ノ期間ニ依ラシムルコトヲ至當トス五、其ノ他必要ナル規定

本法施行前ニ爲シタル納入ノ告知仕拂命令等ニ關シ必要ナル經過規定ハ勅令ヲ以テ定メシムルコトトセリ

第十五、現行法中削除スヘキ法條

一、第十四條

本條ハ國庫預金制度ノ採用ニ伴ヒ之ヲ削除シタリ但シ支拂命令ニ代ルヘキ小切手ノ使用ニ關スル政府ト日本銀行トノ關係ニ付テハ會計規則以下命令書等ニ詳細之ヲ規定スル方針ナリ

二、第二十八條

本條ハ出納官吏身元保證金ニ關スル規定ナルモ身元保證金ノ制度ハ出納官吏ニ特別ノ負擔ヲ命シ苛酷ノ制度ナルノミナラス效果殆ト無シ故ニ明治三十五年勅令第二百五號ヲ以テ保證金ヲ徵收スルコトヲ原則トシテ規定シタル明治二十三年勅令第四號ヲ廢止シ各省大臣ニ於テ必要ト認ムル場合ニハ身元保證金ヲ徵シ得ル旨ヲ定メタルモ事實上之ヲ徵シタルノ例ナク全ク實效ナキヲ以テ本條ヲ削除スルト同時ニ該勅令ヲモ廢止スル方針ナリ

三、第三十二條及第三十三條

兩條共ニ現行會計法施行當時ノ經過規定ニシテ最早之ヲ存置スルノ要ナキヲ以テ削除シタルナリ

第十六、整理シタル法規

- 一、明治二十七年法律第十六號
- 二、明治三十三年法律第五十號
- 三、明治四十四年法律第二十四號

會計規則改正案要領

附現行法上ニ於ケル時效一覽表

大 藏 省

會計規則ノ改正ハ追テ會計法改正案ノ確定ヲ俟テ審議スヘキ豫定ナルヲ以テ未ダ全體ニ亘ル改正案ヲ順序的ニ起草スルコトヲ得ス本要領ハ單ニ會計法改正ニ伴ヒ會計規則中改正ノ必要アル主ナル條項ニ付大體ノ改正見込ヲ摘記シ以テ改正法案審議ノ參考ニ資セムトスルニ止マルモノトス故ニ本要領ハ法文ノ體裁ニ依ラス又掲記事項ノ順序ノ如キモ必スシモ將來起草スヘキ法文ノ順序ニ從ヒタルモノニアラス

第一、國庫預金制度ノ採用ニ關スル規定(改正法案第五條、第十二條、第十五條、第二十條、第四十條及第四十一條參照)

(一) 國庫金ノ出納

- (1) 日本銀行ニ於テ受入レタル國庫金ハ國庫預金トシテ大藏大臣ノ定ムル種別ニ從ヒ之ヲ整理スヘシ國庫預金ノ受拂及組替ニ關スル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

- (2) 國庫預金中特種ノ通貨及政府ノ爲ニスル支拂元ニ要スル金額ヲ除クノ外相當ノ利子ヲ徵スヘシ

(二) 小切手ノ振出及支拂

- (1) 支出官ハ其ノ振出ス小切手ニ商法第五百三十條ニ定ムル記載事項ノ外支出科目及年度ヲ記載スヘシ
- (2) 債主ニ交付シタル小切手ニシテ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルモノハ日本銀行ノカ支拂ヲ爲スコトヲ得ス
- (3) 支出官ハ其ノ振出ス小切手ノ支拂店所在地外ニ在ル者ニ支拂ヲ要スルトキハ當該支拂店ヲ受取人トスル小切手ヲ振出シ其ノ仕拂ヲ爲サシメ且其ノ旨ヲ債主ニ通知スヘシ
- (4) 日本銀行ハ前記(3)ノ規定ニ依リ小切手ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ振出日附ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ債主ニ對シテ支拂ヲ爲スコトヲ得ス
日本銀行ハ前項ノ期間内ニ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スル資金ハ別ニ定ムル所ニ依リ之ヲ返納スヘシ
- (5) 各年度小切手振出濟金額中翌年度五月三十一日迄ニ支拂ヲ了セサル金額ニ

相當スル資金ハ會計法第二十八條ノ歲計剩餘ニ組入レヌ之ヲ繰越スヘシ

- (6) 前記(5)ノ規定ニ依リ繰越シタル資金中小切手振出日附ヨリ一年ヲ經過シ未タ其ノ支拂ヲ了セサル金額ニ相當スルモノハ別ニ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ期間滿了ノ日ノ屬スル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

- (7) 支出官前記(4)ニ定メタル期間内ニ支拂ヲ受ケサル者ヨリ更ニ支拂ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テハ之ヲ調査シ支拂ヲ爲スヘキモノト認ムルトキハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ移送スヘシ

- (8) 右定ムルモノノ外小切手ノ振出及支拂ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

- (9) 右定ムル所ハ商法中小切手ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

(三) 會計検査院ノ検査

- (1) 日本銀行ハ會計検査院ニ提出スル爲一年度内ニ取扱ヒタル國庫預金及政府ノ所有又ハ保管ニ係ル有價證券ノ受拂計算書及毎月受拂内譯書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

- (2) 日本銀行ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲一年度内ニ取扱ヒタル國債ノ發行

ニ依ル收入金ノ收支ニ付計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ歳入ヲ徴收スル官吏ニ送付シ歳入ヲ徴收スル官吏ハ其ノ下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

- (3) 日本銀行ハ國債元利拂資金ノ收支及隔地者ニ支拂ヲ爲ス爲交付ヲ受ケタル資金ノ收支ニ付會計検査院ノ検査ヲ受クル爲毎月收支計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ支出官ニ送付シ支出官ハ其ノ下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

(四) 帳簿及其ノ様式並記入ノ方法

- (1) 日本銀行ハ國庫金ノ出納ニ關シ特ニ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一、國庫預金ノ受拂ヲ登記スル帳簿

二、歳出ノ科目ヲ區分シ支拂豫算通知額及支拂濟額ヲ登記スヘキ帳簿

- (2) 日本銀行ニ備フヘキ帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ日本銀行之ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

大藏省ニ備フヘキ國庫金ニ關スル帳簿及出納官吏ノ備フヘキ帳簿ノ様式並記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ